

2021年度

SYLLABUS

(授業科目の紹介)



Oita University of Nursing and Health Sciences

大分県立看護科学大学

目次

授業科目（2021） 開講科目一覽

1 年次開講科目	前期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p1
	後期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p27
2 年次開講科目	前期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p47
	後期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p74
3 年次開講科目	前期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p95
	後期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p121
4 年次開講科目	前期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p136
	後期開講	・・・・・・・・・・・・・・・・	p148

1 年次開講科目

前期開講

開講科目名 / Course	人のこころの仕組み	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>人が外の世界を認識する仕組み、外の世界との相互作用を通じて、自分自身や他者の行動パターンが変化していく仕組みについて学ぶ。可能な限り、受講者自身が簡単な実験の被験者となり、自分のデータをもとに学習を進めていく機会を提供する。</p> <p>講義は、時間外課題として課されるレポートを作成する情報を収集する「時間、空間」として位置づける。参加した、楽しただけに終わらないように、授業中にメモを残すなど、各自が時間外に行う要約課題の作成を意識しながら、工夫して講義に参加することが求められる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提示された課題に対し、自分なりの答えを出す。 2. 自分の答えをもとに、周囲の学習者と課題の解決に向けて話し合う。 3. 講義内容に基づき、日常生活の諸事象を解釈し、他の学習者が理解できるように表現する。 4. 自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。 5. 自分で学習に関する目標を設定する。 6. 講義内容を100文字程度で要約する。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 外の世界の認識(1)：みるとはどのような活動なのか？ 02. 外の世界の認識(2)：きくとはどのような活動なのか？ 03. 外の世界の認識(3)：記憶の仕組み、はたらきについて 04. 外の世界の認識(4)：非合理的な問題解決者としてのヒト 05. 外の世界の認識(5)：スキーマによる問題解決 06. 学習の基礎理論(1)：古典的(レスポナント)条件付けの基本原則 07. 学習の基礎理論(2)：古典的(レスポナント)条件付けによる諸現象の理解 08. 学習の基礎理論(3)：道具的(オペラント)条件付けの基本原則(自発的行動) 09. 学習の基礎理論(4)：道具的(オペラント)条件付け(強化と弱化的基本原則) 10. 応用行動分析による行動の理解 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業開始時に自分でくじを引き、座席を決める。 ・隣に座った人と協同して学習課題に取り組み、話し合う。 ・挙手による発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・毎時、講義通信を発行する。 ・毎時、講義終了後に行う時間外課題を課す。 ・各自の学習状況が確認できるよう、累積平常得点を確認できるようにする。 	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時、講義終了後に、講義内容の要約をメインとしたショートレポートを課す。 ・毎時、web上に提出任意の課題を出す。 ・事前に視聴する動画(5分前後)を指定し、講義冒頭で理解状況を確認するための小テストを実施する。 	
評価方法と評価割合	<p>期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト(3点/回)、講義内容の要約課題(4点/回)、授業を受けてのコメント(2点/回)、授業での発表、時間外学習課題の得点を10回分集計して評価する。なお、講義を欠席したものは、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定の方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。10回目の講義終了時点で、合計得点が合格ラインに達しなかった場合のみ、再試験を実施する。</p>	
テキスト	<p>毎時、ハンドアウトを配布する。ハンドアウトに加えて、講義通信、自分が作成したレポート、webに投稿された他学生のレポートを参照することで、講義内容の理解が深まるように自分なりの講義ポートフォリオを作成することを推奨する。</p>	
参考書	基礎から学ぶ認知心理学-- 人間の認識の不思議 (有斐閣ストウディア)	
履修する上で必要な要件		
その他	<p>世の中に出ると、色々な人と係るスキルが求められます。付き合う相手を選び好みできるのは、学生の間までです。今から、少しずつで良いので慣れていきましょう。幸い、人には環境に順化するという素晴らしい能力があります。</p> <p>遠隔での講義には、素晴らしいポテンシャルが秘められています。対面講義を全て遠隔に置き換えることはできませんが、遠隔講義で学ぶスキルもぜひ身につけて欲しいと思います。</p>	
教員の実務経験	有・無	有

	内容	吉村匠平：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校における教育相談
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	<p>学校で頻りに観察される事象を例にとりながら、課題を構成したり、例示を行う。例えば、不登校を、弱化的メカニズムで説明するなど。学校での当たり前が、心理学の知見から解釈すると必ずしも合理的とはいえない例なども併せて紹介する。</p>	

開講科目名 / Course	コミュニケーション論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	関根 剛	
担当教員名 / Instructor	関根 剛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	コミュニケーションにおける言語的、非言語的な表現の大切さを理解し、的確に情報を得る方法と、実践的な表現能力を身につけることを目標にする。コミュニケーションについて、情報を「受信する」「理解する」「発信する」という観点から講義を行う。将来の看護職者として役立つ知識として、コミュニケーションのあり方、異文化、リーダーシップについて解説する。また、グループエンカウンター、プレゼンテーション、プロセスレコードについて体験を通じた理解を深めさせる。	
到達目標	1. コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できること。 2. 自分が感じたり考えたりしていることに関心を持ち、言葉で表現できること。 3. 自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを列挙できること。 4. 自分の考えを伝える方法を理解し、実際に行えること。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. オリエンテーション：コミュニケーションをとるということ 02. グループ・エクササイズ：自分らしさに気がつく 03. プレゼンテーション・スキル（1）：情報を発信する 04. ボディ・ランゲージ：手話、動作と表情 05. プレゼンテーション・スキル（2）：実際に発信してみる 06. 知覚・行動観察法：情報を受信する 07. 文化とコミュニケーション：情報を理解する 08. プロセスレコード：情報を理解する 09. コミュニケーション：報告・指示・依頼、受信・理解・発信 10. リーダーシップとメンバーシップ：集団の中の役割	
その他の授業の工夫	・グループエクササイズやプレゼンテーションを通じて、体験的自己理解を深める。 ・演習や話し合いを通じて、他者との違いに気づき、それを共有する機会を持つ。 ・前回の学習の疑問点などについて、回答をする時間を持つ。 ・毎回、知識確認テストや任意のミニレポートの機会を持つ。	
時間外学修	・日常生活におけるコミュニケーションの経験について、簡単なレポートを提出して思考の深化を図る（任意）。	
評価方法と評価割合	知識確認テスト・ミニレポート6割、総合レポート4割	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根剛：臨床心理士、全国被害者支援ネットワーク理事
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリングの実践、相談員育成の教育研修に携わってきており、これから対人援助職となる学生の自己理解のグループワークやコミュニケーションスキルを効果的に行う。	

開講科目名 / Course	英語 - A 1	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	文法に基づいて英文の内容を理解し、スムーズに音読できる力を養う。また、平易な英文で書かれた本を多読することにより英文処理能力を高める。発音記号と調音法を教授する。エッセイや文学作品から英文を精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。	
到達目標	1. 英文の内容を把握しスムーズに音読できる。 2. 講義期間中に実施される複数回の英文暗唱Reviewにすべて合格する。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 概説：教材紹介、講義の流れ、取り組み方 02. Dale Carnegie 1：話法、現在分詞付帯状況 03. Dale Carnegie 2：分詞構文、接続詞 if 04. Anne Morrow Lindbergh 1：並置、neither nor 05. Anne Morrow Lindbergh 2：倒置、分詞形容詞の用法 06. Bertrand Russell 1：仮定法未来、前置詞付き関係代名詞 07. Bertrand Russell 2：動名詞、談話標識 08. Bertrand Russell 3：挿入、コロン 09. Bertrand Russell 4：無生物主語、接続詞 provided 10. 学習内容の振り返り	
その他の授業の工夫	課題英文の暗唱確認として、講義開始時にペアワークを行う。	
時間外学修	予習：学習予定の章全体を通して3回読む。不明な語句を調べる。 復習：指定された課題英文について、 1) CDリスニング1日1回以上、 2) 音読1日5回以上、 3) 書写1日1回以上 1)、2)、3)を1セットとして5日分言い、指定された課題英文を暗唱できるようにする。	
評価方法と評価割合	出席状況・授業態度(30%)、期末筆記試験(60%)、英文暗唱Review(10%)で評価する。欠席・遅刻(早退)は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて試験の受験資格を失う。授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠席扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	こころの音読(講談社)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 1
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期
開講区分 / semester offered	前期
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. In this class, students practice speaking and listening of English. This class has two components: an eight-week-long Computer Assisted Language Learning (CALL) session, with TOEIC-IP tests given before and after the CALL session; and speaking and listening practice in the classroom. The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.
到達目標	1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can improve their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力
授業計画	01. Introduction, People (1) interview, conversation 02. People (2) information exchange・CALL class 1 (supervised self study) 03. Food (1) interview・CALL class 2 (supervised self study) 04. Food (2) vocabulary・CALL class 3 (supervised self study) 05. Food (3) conversation・CALL class 4 (supervised self study) 06. Food (4) interview, ordering food・CALL class 5 (supervised self study) 07. Food (5) using a menu・CALL class 6 (supervised self study) 08. Food (6) information exchange 1・CALL class 7 (supervised self study) 09. Food (7) information exchange 2・CALL class 8 (supervised self study) 10. Review・CALL class 8 (supervised self study)
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups. These activities maximize student interaction. Such interaction in pairs and small groups teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors this practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	Before class, students should read all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again. They should practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can review the materials smoothly during the next class.
評価方法と評価割合	Regular Attendance, Active Class Participation, Effort and Attitude During Each Class: 50% CALL and TOEIC Effort and Results: 50% (注) Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	<p>CALL Schedule: May 18 (Tuesday) - July 20 (Tuesday)</p> <p>TOEIC-IP Test Schedule: * Test 1: May 19 (Wednesday), 13:00 - 16:30 (test room to be announced later) * Test 2: July 21 (Wednesday), 13:00 - 16:30 (test room to be announced later)</p> <p>Important: All students are required to take both tests. Please keep the time for the tests open.</p>	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	言語表現法	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	松田 美香	
担当教員名 / Instructor	松田 美香	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	目的：大学生として小論文が書ける文章力と社会人として適切な言語表現を身につける。 概要：読点の打ち方や接続詞の使い方など基礎的な日本語の理解から、論文の構成や論文の文の種類など、実践的に学ぶ。学生同士で話し合い、採点し合う。	
到達目標	1. 人と人がお互いの意思を伝え合い、理解し合うために有効な手段である『ことば』について理解を深めることができる。 2. 小論文の書き方について理解し、実際に書くことができる。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. ガイダンス、小論文の基礎 02. 論文の構成とまとめ方 03. 意見の文と事実の文 04. 論文の基礎知識 05. 序論の日本語 06. 本論の日本語1 論拠の提示、事柄データと数量データの示し方 07. 本論の日本語2 データ解釈と結論提示の文型 08. 論の展開 09. 結びの日本語 10. まとめと補足	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、グループで行うアクティブラーニングを組み込んでいる。	
時間外学修	その時間に出された課題を行う。理解が難しかった内容については、教科書を見ながら復習する。	
評価方法と評価割合	出席状況（10％）および筆記試験（90％）。 筆記試験の受験資格は、出席が2/3以上とする。	
テキスト	大学生と留学生のための論文ワークブック（くろしお出版）	
参考書	その他	
履修する上で必要な要件	特になし	
その他	教科書についている別冊子を初回に回収しますので、別冊子の表紙に氏名と学籍番号をペンで書いておいてください。試験1週間前に前に返却します。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	韓国語	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	黄 昞峻	
担当教員名 / Instructor	黄 昞峻	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識を学ぶ科目である。	
到達目標	1. 韓国の文字であるハングルの読み書き、基本挨拶、正確な発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を習得していくことにより、韓国語学習の基礎を身につける。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 韓国語の概観、母音(1)(基本母音) 02. 子音(1)(初声) 03. 音節(1)(基本母音と子音の組み合わせによる文字) 04. 母音(2)(二重母音) 05. 音節(2)(二重母音と子音の組み合わせによる文字) 06. 子音(2)(終声=パッチム) 07. 発音の変化(1)(連音化・流音化・口蓋音化・激音化) 08. 発音の変化(2)(濃音化・鼻音化) 09. 読む練習1(授業時間に使う表現、歌詞等) 10. 読む練習2(基本挨拶)	
その他の授業の工夫	ハングルに慣れるまでは時間がかかるが、ハングル学習の他、簡単な会話や歌詞読みの練習も取り組んでおり、韓国語学習に対する興味を持たせるようにする。	
時間外学修	毎回出された課題で復習をすること。	
評価方法と評価割合	授業態度10%、課題20%、期末試験70%	
テキスト	自作のテキストを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	哲学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	西 英久	
担当教員名 / Instructor	西 英久	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	「私（人間）とは何か」という哲学の根本問題が医療現場においていかに考えられているかを解説する。本講義は、医療における哲学的問題をただ理解するだけではなく、自らの現実問題として考え直してみることを目指す。	
到達目標	1. 哲学的人間学の把握を前提としながら、臨床哲学の諸問題を具体的・現実的に理解できることを目指す。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 人間とは何か（哲学的人間学） 02. 英米の哲学 03. 英米の生命倫理 04. 独仏の哲学 05. 臨床の哲学（脳死での臓器移植） 06. 臨床の哲学（生体での臓器移植） 07. 臨床の哲学（生殖技術） 08. 臨床の哲学（人工妊娠中絶） 09. 臨床の哲学（安楽死） 10. 臨床の哲学（尊厳死） 現実の医療問題と関連させながら、平易に講義を進めます。	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学べるよう、グループ学習と質問の時間を設ける予定。 現実の医療問題と関連させながら、平易に講義を進める。	
時間外学修	-	
評価方法と評価割合	筆記試験(70%)、発表等(30%)により総合的に評価する。 筆記試験の受験資格として、講義の三分の二以上の出席が必要。	
テキスト	プリントを配付する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	筆記試験は講義資料持ち込み可。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	法学入門（日本国憲法）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	二宮 孝富	
担当教員名 / Instructor	二宮 孝富	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	法学の基礎知識について、近代市民法の基本原理を理解したうえで、市民生活にかかわりの深い、契約・損害賠償・家族に関する法を素材に、理解を深める。 日本国憲法について、歴史的意義・基本原理をふまえ、特に人権に関する諸問題を学び、市民としての基本的な法的素養を身につけることを目的とする。	
到達目標	1. 市民として、また、医療従事者として必要とされる基礎的な法的素養を身につける。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 近代市民法の基本原理 02. 市民生活と法 1 契約 03. 市民生活と法 2 損害賠償 04. 市民生活と法 3 結婚・離婚 05. 市民生活と法 4 親子・相続 06. 憲法とは～立憲主義について 07. 近代日本の憲法史 1大日本帝国憲法 08. 近代日本の憲法史 2日本国憲法 09. 日本国憲法の基本原理 1 国民主権 10. 日本国憲法の基本原理 2 平和主義 1 9条の歴史的意義 11. 日本国憲法の基本原理 2 平和主義 2 平和的生存権 12. 日本国憲法の基本原理 3 基本的人権の尊重 13. 人権各論 1 子どもの権利・児童虐待 14. 人権各論 2 高齢者虐待：成年後見制度 15. 人権各論 3 男女平等：男女共同参画社会基本法 16. 人権各論 4 ハラスメント：パワハラ・アカハラ・セクハラ 17. 人権各論 5 DV・デートDV 18. 人権各論 6 刑事手続と人権・冤罪 19. 人権各論 7 裁判制度 1 陪審制度 20. 人権各論 8 裁判制度 2 裁判員制度	
その他の授業の工夫	-	
時間外学修	次回の資料を事前に配布するので、予習して概要を把握しておくこと。 重点事項を課題として出すので、配布資料以外の関連資料にあたり、レポートを提出すること。	
評価方法と評価割合	出席状況10%、レポート30%、定期試験60%	
テキスト	なし（毎回資料を配布する）。適宜、参考文献を紹介する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	環境保健学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	私たちの健康は広義の環境と遺伝とに関係している。生活習慣を含む環境の中でも社会的に制御・管理すべき様々なリスク因子と健康影響との関係を理解し、私たちの環境と健康を守るための科学を学ぶ。とくに、環境と健康との関係が明らかにされている因子の特徴と疑われる社会問題に焦点をあて、いかなる科学的なアプローチが行われているかを学び、環境リスクという概念を理解することを目的としている。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの健康と環境との関係を説明できる。 2. がんとは何かを生物学的に説明できる。 3. 健康影響を評価する方法を説明できる。 4. 生活の中の化学物質の安全性がどのように確認され、評価されているのか説明できる。 5. 環境基準とは何かを説明できる。 6. 環境リスクの概念を説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 環境と健康に関する社会問題 02. 環境保健の基礎概念 03. 健康影響の考え方 04. がんの生物学 05. 人の発がん 06. 安全性試験 07. 環境と健康の関係を分析する疫学 08. 環境保健基準 09. 環境リスク論とリスク心理学 10. 環境リスクの諸問題とまとめ 	
その他の授業の工夫	学生からの質問を受ける時間を設けている。	
時間外学修	講義資料を基に復習し重要なポイントを整理する。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康情報学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	佐伯 圭一郎	
担当教員名 / Instructor	佐伯 圭一郎	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	人間集団の健康に関する各種情報を理解し活用する能力を身につけることを目標とする。人口統計や疾病情報など、人間集団における健康問題を考える際に必要な健康情報とEBMの基盤の一つである疫学について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な保健統計指標の意味を説明することができる。 2. 保健統計指標の値と動向を述べるすることができる。 3. 基本的な疫学調査法を説明することができる。 4. 疫学研究の成果など、保健医療におけるエビデンスを解釈できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 健康情報の基礎、保健統計概論 02. 人口統計(1) 人口静態統計 03. 人口統計(2) 人口動態統計・生命表 04. 傷病に関する保健統計 05. 医療や生活に関連する統計 06. 健康情報の収集 07. 疫学(1) 疫学の考え方、因果推論 08. 疫学(2) 疫学調査法 09. 疫学(3) 疫学指標、バイアス 10. 検査やスクリーニングの理論 	
その他の授業の工夫	1年次必修科目「健康情報処理演習」とこの講義をリンクして、理解を深めます。	
時間外学修	事前に公開される講義資料に基づいて予習すると共に、講義時に配付される資料を利用して、学習の整理、復習を講義後に行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験を実施する。 評価は筆記試験100%。	
テキスト	前半：国民衛生の動向 2020/2021（厚生統計協会） 後半：別途資料を配付する。	
参考書	適宜紹介する。	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康情報処理演習
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期
開講区分 / semester offered	通年
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	品川 佳満
担当教員名 / Instructor	佐伯 圭一郎、品川 佳満、渡邊 弘己
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
科目の目的と概要	学習や業務におけるデータの管理および利活用のための道具として、コンピュータや情報ネットワークが扱えるように、看護職に必要なICT（情報通信技術）のスキルや知識について演習を通して身につける。
到達目標	1. 基本的なソフトウェア（ワープロ、表計算、プレゼンテーション、画像・動画編集）を用いてレポート作成、データ集計、プレゼン資料の作成ができる。 2. コンピュータやネットワークに関する基礎的な用語の説明ができる。 3. 医療機関における個人情報保護のための対策・対応がとれる。 4. 情報セキュリティにまつわる危険を理解し、トラブルを事前に回避できる。 5. インターネットや文献データベースを用いて精度の高い検索ができる。 6. 医療機関で利用する情報システムの意義や役割について説明できる。 7. 統計解析ソフトを用いて、基本的なデータ処理が行える。
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力
授業計画	01. ネットワークの利用(1) サーバ利用 02. ネットワークの利用(2) データ管理 03. 情報の基礎(1) ソフトウェア 04. 情報の基礎(2) ハードウェア 05. 文書の作成(1) 基本 06. 文書の作成(2) 図形・文章との統合 07. 画像処理 08. プレゼンテーション 09. 表計算(1) 基本 10. 表計算(2) 計算、関数 11. 表計算(3) 集計 12. 表計算(4) グラフ 13. アプリケーション連携 14. 情報セキュリティ(1) 個人情報の取り扱い 15. 情報セキュリティ(2) セキュリティ技術 16. ネットワーク技術(1) 仕組み 17. ネットワーク技術(2) クラウド 18. データベースの利用(1) 情報検索 19. データベースの利用(2) 文献・図書DB 20. 動画処理 21. 医療情報システム(1) 病院情報システム 22. 医療情報システム(2) 電子カルテ 23. 統計データの分析(1) 保健統計 24. 統計データの分析(2) 疫学調査データ 25. 統計データの分析(3) スクリーニング 26. 統計データの分析(4) Excelによる統計処理 27. 統計データの分析(5) Rによる基本統計量の算出 28. 統計データの分析(6) Rによる表やグラフの作成 29. 統計データの分析(7) ExcelとRによる検定 30. 統計データの分析(8) SPSSによる統計処理 実施する順番については、変更する場合がある。
その他の授業の工夫	クラウドサービスの活用により、インターネットにつながる環境であれば、どこからでも講義資料の閲覧や演習課題に取り組むことができる。
時間外学修	サーバに、その回に関係する練習問題・課題を提示する。その問題を解くことで、知識・技術について身につけているか確認を行う。

評価方法と評価割合	出席・演習課題：40% 筆記試験：60% 出席、各回の演習課題、筆記試験（2回）を総合して判定する。欠席が6回を超えると評価対象外（不合格）となる。なお、20分までの遅刻は1/2の出席、それを超えると欠席として取り扱う。出席・演習課題に関する評価は、提出された演習課題（情報技術・知識の修得状況）を重視するが、その回の演習を欠席した場合は、演習課題を提出することはできない。	
テキスト	特に指定しない。 毎回ハンドアウトを配布する。参考図書は適宜紹介する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	年度始めに開催されるオリエンテーションで、情報処理教室の利用法の講習を受けること。 「健康情報学」、「生物統計学」で学んだ内容について、より理解を深めるために実際にコンピュータを使ってデータ処理を行う回がある。事前に講義内容を復習したうえで受講すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	品川佳満：病院の電算部門でのシステム開発・管理
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	病院でのシステム開発や情報に関係するトラブル対応経験をもとに、医療情報システムの役割や、医療情報の取扱いについて教授する。	

開講科目名 / Course	生体構造論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	岩崎 香子、濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	高度に統合された生命体である人体の構造を学ぶことにより看護の現場における患者の抱える疾患を理解し、質の高いケアを提供できる能力を養うことを目的とする。人体を構成する各々の臓器を組織学的な視点から肉眼的な視点に至るまで学習し、各臓器の相互関係についても理解を深める。	
到達目標	1. 細胞から個体レベルまでの人体の構造と形態学的特徴について説明できる。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 総論 02. 呼吸器系（上気道） 03. 呼吸器系（下気道・肺） 04. 血液系 05. 消化器系（口腔・咽頭・食道） 06. 消化器系（腹部消化管） 07. 消化器系（肝臓・胆のう・膵臓） 08. 循環器系（心臓） 09. 循環器系（末梢循環系） 10. 循環器系（リンパ系） 11. 筋・骨格系（上肢） 12. 筋・骨格系（下肢） 13. 筋・骨格系（頭頸部） 14. 神経・感覚器系（中枢神経系） 15. 神経・感覚器系（末梢神経系） 16. 神経・感覚器系（眼・耳・舌・皮膚） 17. 内分泌系 18. 代謝系、免疫系 19. 腎・泌尿器系 20. 生殖器系	
その他の授業の工夫	グループ内での議論により理解を深めるために、事例シートを用いたチュートリアル形式のactive learningを取り入れている。	
時間外学修	該当の病気がみえるシリーズを事前に読んできて、疑問点を書き出して、予習をする。	
評価方法と評価割合	授業態度（小テストを含む）：20% と筆記試験：80% により評価する。	
テキスト	人体の構造と機能 ¹ 解剖生理学（医学書院）	
参考書	病気がみえるVol1～8（MEDIC MEDIA）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義や事例の議論の際に、臨床経験を話すことにより、解剖学の知識が臨床の現場で生かされることを強調して、学生のモチベーションを上げる。	

開講科目名 / Course	生体機能論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	岩崎 香子、濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	高度に統合・調整された生命体である人体の機能を学ぶことにより看護の現場における患者の抱える疾患を理解し、質の高いケアを提供できる能力を養うことを目的とする。人体を構成する各々の臓器を組織学的な視点から肉眼的な視点に至るまで学習し、各臓器の相互関係についても理解を深める。	
到達目標	1. 細胞から個体レベルまで生命活動を営むための人体の生理機能について説明できる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 総論 02. 呼吸器系（上気道） 03. 呼吸器系（下気道） 04. 血液系 05. 消化器系（口腔・食道） 06. 消化器系（腹部消化管） 07. 消化器系（肝臓・胆のう・膵臓） 08. 循環器系（心臓の興奮） 09. 循環器系（心電図） 10. 循環器系（血圧の調節） 11. 筋・骨格系（骨のリモデリング） 12. 筋・骨格系（筋収縮） 13. 神経・感覚器系（神経の伝達） 14. 神経・感覚器系（運動ニューロン） 15. 神経・感覚器系（感覚ニューロン） 16. 内分泌系（ホルモンの作用） 17. 内分泌系（ホルモン分泌の調節） 18. 代謝系、免疫系 19. 腎・泌尿器系 20. 生殖器系	
その他の授業の工夫	講義で学習した生体機能論の理解を深めるために、各グループで事例について、発表する。	
時間外学修	該当の病気がみえるシリーズを事前に読んできて、疑問点を書き出して、予習をする。	
評価方法と評価割合	授業態度（小テストを含む）：20% と筆記試験：80% により評価する。	
テキスト	人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）	
参考書	病気がみえるVol1～8（MEDIC MEDIA）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義や事例の議論の際に、臨床経験を話すことにより、生理学の知識が臨床の現場で生かされることを強調して、学生のモチベーションを上げる。	

開講科目名 / Course	健康運動ボランティア演習（救急法含む）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	人、社会、自然と直接かかわるボランティアを通して、他者や社会に役立つことで喜びを感じ、人間としてごく自然な温かい感情を育む。地域や社会の構成員としての自覚を確認し、相互に支え合うという意識を醸成する。学習意欲を高め、就職を含め将来の人生設計に役立てる。 また、救命救急法を学び、日常の救急場面に対応できる知識・技術を身につける。	
到達目標	1. 個人や社会におけるボランティア活動の意義を説明できる。 2. 日常の救急場面に対応できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. オリエンテーション、レクリエーション 02. 希望調査 03-14. 各種ボランティア活動（週末等）、救急法（日程未定） 15. 討論	
その他の授業の工夫	1) ボランティアの希望調査を行い、受講者が主体的に異種のボランティアを選ぶ。 2) 学外の組織や本学の教員ほか多くの方々に協力して頂く。	
時間外学修	各ボランティア終了後、レポートを作成して提出する。	
評価方法と評価割合	ボランティアのレポート(50%)、救急法の認定証の取得（50%）	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	ボランティアを通して、人にとって、社会にとって、そして、これからのあなたの人生において重要なことに気づきます。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：日本体育測定評価学会会長、大分県スポーツ学会代表理事
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	健康・体力チェックに関するボランティアでは、目的や対象者にあったチェック項目を選択し、準備や設営、測定評価法等を適切に指導する。	

開講科目名 / Course	スポーツ救護	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	一般社団法人 大分県スポーツ学会主催のスポーツ救護講習会を一般の受講者といっしょに受講して、スポーツ大会やトレーニング場面で選手や観客を救護するための知識や技術を身につける。	
到達目標	1. スポーツ救護の基礎知識や技術を身につけ、スポーツ救護認定試験に合格する。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 健康スポーツ学総論（講義） 02. スポーツ救護・小処置（講義） 03. スポーツ救命救急講習（講義・実技） 04. スポーツ頭部外傷（講義・実技） 05. スポーツ栄養学（講義）、スポーツ薬学（講義） 06. スポーツと内科疾患（講義） 07. スポーツ歯科学（講義） 08. スポーツと運動器疾患・テーピング（講義・実技） 09. スポーツ熱中症（講義・事例検討）、小児救急概論（講義） 10. スポーツ障害・スポーツ外傷（講義・実技）	
その他の授業の工夫	講義だけではなく、実技も含まれる。 多彩な講師陣による（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士、トレーナー、ほか）。	
時間外学修	実際に救護活動に参加する。	
評価方法と評価割合	スポーツ救護認定試験（100%）	
テキスト	当日配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	受講料が別途必要。	
その他	大分県スポーツ学会のHP（ http://oitakenspo.jp/ ）を見て、各自で受講を申し込む。定員があるので、早めに申し込む。応募者多数の場合は抽選。受講のキャンセルは不可。日程や会場は未定（昨年度は6月に本学で開催）。認定試験に合格すると「スポーツ救護員」に認定され、看護師国家試験の合格を大分県スポーツ学会に連絡すれば「スポーツ救護ナース」に認定される。認定後は、県内スポーツ大会の開催情報がメールで送られてくるので、応募して救護班として活躍が可能（有償）。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：大分県スポーツ学会代表理事、スポーツ救護講習会講師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	講師は未定：現役の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士、トレーナー。
実務経験をいかした教育内容	講義だけではなく、スポーツ救護の現場で遭遇しやすい状況や救護者が迷う状況の実技指導を行う。	

開講科目名 / Course	自然科学の基礎	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	定金 香里、吉田 成一、岩崎 香子、小嶋 光明、佐伯 圭一郎、恵谷 玲央、渡邊 弘己	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	看護学を専攻する学生の基礎教養としての入門的講義内容である。物理、化学、生物、数学の基本的事項を習得する。高校までに十分に習得できなかった項目を学ぶための講義であると同時に、自然科学の考え方について理解するための講義である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の最小単位である細胞の構造と仕組みを説明できる。 2. 生命現象や医療機器に関連した物理則や単位を説明できる。 3. 保健統計資料の理解や分析に数学の基礎知識を応用できる。 4. 人体の構造や機能に関連した化学法則から説明できる。 	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 生物:細胞の定義とは何か？ 02. 生物:DNA、遺伝子、ゲノム、染色体はそれぞれどう違うのか？ 03. 生物:遺伝子検査や DNA 鑑定は何を調べているのか？ 04. 生物:クローン、ES 細胞、iPS 細胞とは何か？ 05. 生物:代謝とは何か？ 06. 生物:タンパク質とは何か？ 07. 生物:タンパク質はどのように作られているか？ 08. 生物:酵素、コエンザイム、ビタミンとは何か？ 09. 生物:タンパク質のリサイクルとはどういうことか？ 10. 生物:細胞はいつも増え続けているのか？ 11. 生物:細胞が死ぬとはどういうことか？ 12. 生物:多様な生き物がいるのはなぜか？ 13. 物理:力・圧力・エネルギー 14. 物理:音・光・熱 15. 物理:電気と磁気 16. 数学:指数・対数、微分・積分 17. 数学:確率・統計 18. 化学:物質の構成 19. 化学:物質の反応、化学変化 20. 化学:有機化学、高分子化学 	
その他の授業の工夫	毎回講義で小テストを行うことで講義内容の理解を深めるようにしている。	
時間外学修	講義資料を基に復習し重要なポイントを整理する。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	生物：池上彰が聞いてわかった生命のしくみ（朝日新聞出版） 物理：[完全版]ベッドサイドを科学する：看護に生かす物理学 化学：大人のための高校化学復習帳（ブルーバックス 講談社）	
参考書	参考図書は別途紹介する。	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	大学ナビ講座	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	安部 眞佐子、稲垣 敦、関根 剛、福田 広美、高野 政子、村嶋 幸代、影山 隆之、杉本 圭以子、濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	大学で学ぶにあたり、リテラシーと呼ばれる身に付けておくべき基本的な事項および技術を習得することを目的とする。	
到達目標	1. 本を読むこと、考えること、伝えること、文章を書くことなど大学リテラシーの基本を習得できる。 2. 大学で何を学ぶのか、大学での学習が円滑にできるための知見を得ることができる。	
DPとの対応	4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. オリエンテーション、大学カリキュラムの方針、考え方 02. 大学で学ぶということ/メモ・ノートの取り方 03. アルバイトリテラシー 04. 図書館の利用法 05. 大学の授業と試験の受け方（大学教育および看護系大学の教育） 06. 心の健康・維持増進/健康な生活維持向上（喫煙の害等） 07. 伝える技術1：文を書く、レポートを書く（理論編） 08. 伝える技術1：文を書く、レポートを書く（実践編） 09. 伝える技術2：アサーション（さわやかな自己主張） 10. 伝える技術3：話す、プレゼンする	
その他の授業の工夫	大学リテラシーを早く身に付け大学生活に活かせるよう、初期に授業を組み込んでいる。	
時間外学修	担当教員の課題レポートなどの指示に従う。	
評価方法と評価割合	すべて出席することが評価の前提である。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席2回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて最終レポート提出の資格を失う。出席60%、最終レポート40%。	
テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根剛：臨床心理士（教育センター相談室、少年鑑別所勤務経験）
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	石本田鶴子：コミュニケーションオフィス taz 代表、日本教育推進財団認コミュニケーショントレーナー、九州コミュニケーションフォーラム副代表、クレインコミュニケーション代表等大分労働局職員（局長相当） 大久保和弘：高等学校教員、国語科目専門実務経験
実務経験をいかした教育内容	4回目講義のアルバイトリテラシーは労働局職員（局長相当）が具体的なアルバイトに関する統計や相談内容を含め教授する。9回目講義は、臨床心理士の経験を活かしたアサーティブなコミュニケーション技術、10回目の講義はコミュニケーション認定トレーナーの経験を活かし、アクティブラーニングで具体的なプレゼンテーション技術を教授する。	

開講科目名 / Course	看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	廣田 真里	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	看護を原理的・本質的に理解することで看護を探究し、創造していく基盤を養うことを目的とする。看護学の基盤となる主な概念を学び、看護の対象となる人とその生活を理解するとともに、看護提供の仕組み及び看護専門職の役割・機能について学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かについて自分の言葉で述べることができる。 2. 看護の対象となる生活者としての人間について述べるができる。 3. 看護の役割や機能について説明できる。 4. 看護提供の仕組みについて説明できる。 5. 看護専門職としての基本的な態度について説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 看護とは（1）看護の本質、看護の役割と機能 02. 看護の対象の理解（1）こころとからだ 03. 看護の対象の理解（2）生活者としての人間 04. 看護の対象の理解（3）健康と生活 05. 看護の対象の理解（4）看護過程 06. 看護の提供者（1）看護の歴史の変遷 07. 看護の提供者（2）看護職に関する制度 08. 看護における倫理 09. 看護提供の仕組み（1）看護サービスの管理 10. 看護提供の仕組み（2）医療安全と医療の質保証 	
その他の授業の工夫	自分で考え、創造していく力を養うため学生間で話し合ったり、発表する機会を多く設定する。また、前回の授業での学びを授業開始時に反復する機会をもつ。さらに、当該授業での終わりには、学びを振り返ることで、自分の考えをまとめたり、考えを深めることを目的にミニレポートを課す。	
時間外学修	授業計画に基づき、教科書など対応する内容について事前学習を行うことを推奨する。授業内容によってレポート課題を課す。	
評価方法と評価割合	出欠席（10%）、筆記試験（40%）、各種提出物（20%）、授業態度（30%）などから総合的に評価する。筆記試験は1回実施する。提出物には各回の授業でのミニレポートも含み、ミニレポートの成績も評価に含まれる。	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]（医学書院） 3. 看護覚え書（現代社） 	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	廣田真里：病院の看護師・看護部長 秦さと子：病院の看護師・副看護師長
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の対象となる多様な人々との関わりや看護現場の具体例を示すことで、イメージしにくい抽象的学習内容を理解しやすいように工夫する。	

開講科目名 / Course	生活援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	対象である人に対して安全・安楽に人間的で健康な生活を送ることができるための援助技術の修得を目的に基礎看護技術における日常生活の援助技術を中心に学習する。また、その背景にある原理や科学性の理解を通して、技術の適応や応用を考えながら演習を行う。	
到達目標	1. 日常生活の援助技術について、原理原則に基づいた理解ができる。 2. 安全・安楽を配慮した実施ができる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きを15回実施する(計30回)</p> <p>01-02. オリエンテーション、看護技術論</p> <p>03-04. 感染防止 衛生学的手洗い、スタンダードプリコーション</p> <p>05-06. 環境調整技術 ベッドメイキング、リネン交換</p> <p>07-08. 活動・休息援助技術(1) 体位変換、ポジショニング</p> <p>09-10. 症状・生体機能管理(1) 呼吸、体温測定</p> <p>11-12. 症状・生体機能管理(2) 血圧、脈拍測定</p> <p>13-14. まとめ(事例検討)</p> <p>15-16. まとめ(事例検討)</p> <p>17-18. 清潔・衣生活援助技術(1) 手浴、足浴</p> <p>19-20. 清潔・衣生活援助技術(2) 全身清拭、寝衣交換、おむつ交換</p> <p>21-22. 排泄援助技術 症状排泄、陰部洗浄</p> <p>23-24. 清潔・衣生活援助技術(3) 洗髪</p> <p>25-26. 活動・休息援助技術(2) 移乗、移送</p> <p>27-28. 食事援助技術 嚥下障害の無い人の食事介助、口腔ケア</p> <p>29-30. まとめ(事例検討)</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人一人が効率よく学習できるように2クラスに分けて授業を行う。 ・「事前課題」「小テスト」「グループ演習」「発表」で授業を構成する。 ・E-learning(Nursing-Skills)による自己学習環境を整備している。 ・自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課している。 ・ポイントの認識と確認、自分の理解度の確認のため毎授業内で「小テスト」を実施する。 ・思考力を養う目的で課題事例に対する「グループ演習」を行う。 ・「発表」により、他者に伝える力を養い、気づきを共有する機会とする。 ・主体性や積極性を養う目的で学生発表の運営を学生が行う。 ・身体に与える影響を理解できるように、シミュレータなどを活用する。 <p>* 詳細は別途資料配布。</p>	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。 ・事後学習：授業時間内のみの学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のAppointmentにより教員による技術指導も可能である。 	
評価方法と評価割合	<p>(1) 事前課題、(2) 小テスト、(3) 演習態度、(4) 技術試験2回を総合して判定する。</p> <p>配点；事前課題・小テスト・演習態度：60%、技術試験：1回目20%+2回目20%</p> <p>技術試験2回のうちいずれかで60%未満、あるいは(1)～(4)の総合点が60%未満である場合、単位認定不可。</p> <p>演習態度は、出席(原則100%)と服装、授業参加度で判断する。</p> <p>20分以内の遅れは遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。</p> <p>* 詳細は別途資料配布。</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2](医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3](医学書院)</p> <p>看護技術プラクティス 第4版(Gakken)</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 廣田真里：病院の看護師 水迫裕人：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	実践経験から得られた技術のコツや、対象をイメージしながら実施する時の考えるポイントなど具体的なアドバイスを行う。 熟練した看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進する。	

開講科目名 / Course	初期体験実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	廣田 真里	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	1年次の早期に学外に出て、看護の現場を体験することで、看護職としての仲間入りを実感し、看護とは何かを考え、自ら看護の力を身につけようとする自立性を育むことを目的としている。1週間の実習で、臨床の看護師との同行実習や様々な場で働く看護職者の講話を受けて、キャリアパスを視野に入れた自分の将来像に多様性をもたせる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学あるいは実施した看護実践を振り返ることができる。 2. 病気と向き合う対象者の思いを受け止めることができる。 3. 実感したことを述べることができる。 4. 社会から求められている看護の機能と看護の活動内容を述べるができる。 5. 達成すべき自己の課題や将来像について述べるができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	実習期間：2021年7月5日（月）～7月9日（金） 実習施設：大分県立病院他、近隣の総合病院の12施設 実習方法：オリエンテーション（初期体験実習の目的、目標、実習展開、実習記録、評価等）施設実習；実習施設において1人または2人の学生が一人のナースに同行しながら実践活動を見学し、可能な範囲で看護師の指導・監督のもと看護援助を行う実習を展開する。 看護職者の講話・実習のまとめ	
その他の授業の工夫	目標を達成するための学習計画シートを作成し、実習終了時には「私は」どのような状態になっているか（望ましい姿）を実習前に記載する。実習前の看護学概論の時間に初期体験実習施設について調べ、レポートとしてまとめ、発表する。また実習に臨む姿勢についてのDVD等を視聴する。	
時間外学修	既習科目の生活援助技術について復習を行い、看護師との同行実習に備える。自己の体調管理が重要であることを認識し、実習開始となる日より10日程度前から体温測定や体調管理のための症状観察した内容を自己体調管理表に記載する。	
評価方法と評価割合	出欠席、実習内容、実習態度、提出物、個人面接等により総合的に評価する。出席日数は100%出席を原則とする。	
テキスト	特になし	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	廣田真里：病院の看護師・看護部長 秦さと子：病院の看護師・副看護部長 田中佳子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師、県庁に勤務する保健師、開業助産師
実務経験をいかした教育内容	看護職としての経験があり臨地での同行実習を通じて、看護職としての仲間入りを実感させ、自立性を育む。将来像をイメージさせ、キャリアパスへの助言を与えることができる。	

開講科目名 / Course	健康論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、姫野 雄太、矢野 亜紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	健康および健康増進の意義について理解するため、健康に対する考え方を理解し、健康維持と増進の重要性を学ぶ。さらに、様々な人々の健康ニーズを理解し、健康増進における看護職の役割を学ぶ。	
到達目標	1. 健康および健康増進の意義や考え方を説明できる。 2. 健康増進における看護職の役割を説明できる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 健康とは（看護の視点から健康を考える） 02. ライフサイクルと健康 03. 疾病構造とライフスタイル 04. 健康度の評価 05. 健康づくりと健康日本21の展開 06. 健康づくり 健康と栄養 07. 健康づくり 健康と運動 08. 健康づくり こころの健康 09. 健康づくり 喫煙、飲酒 10. 健康と環境	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前課題や筆記試験により講義に関する予習や復習を行う。	
評価方法と評価割合	出席・態度（10%）、提出物（20%）、筆記試験（70%）	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 姫野雄太：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして健康増進の意義、重要性や具体的な方法について教育する。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習（1年次）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、影山 隆之、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者への機能低下予防対策について考察することができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域の取り組み（自治体の取り組み等を含む）を考察することができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションについて考察することができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を地域で生活する人として「健康の視点から」捉え、全体像を述べることができる。 2. 協力者を理解するため、または相互理解を深めるためのコミュニケーションの重要性を理解し、自らのコミュニケーションの課題を述べるができる。 3. 予防的家庭訪問でチームメンバーとの話し合いを通して、自己の今後の学習課題を述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、 マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<p>実習期間：2021年4月～2022年1月</p> <p>実習場所：富士見が丘団地、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等</p> <p>実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。実習の頻度・回数はひとりあたり年間4回以上訪問する。</p>	
その他の授業の工夫	他学年のグループメンバーと協力しながら、年4回以上の訪問を行う。 協力者の都合などで訪問計画がうまく進められない場合は、看護研究交流センターや担当教員に相談すること。	
時間外学修	訪問前後にチームでミニカンファレンスをする（参加できない人はメールでも可）。 訪問後、各自の訪問記録を作成提出する。	
評価方法と評価割合	<p>以下の1～4により総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問回数：100%訪問することを原則とする。ただし、訪問後のレポートを訪問毎に作成し、提出したことで訪問したとみなす。また最終レポートの提出をもって所定の回数を訪問したとみなす。 2) 実習内容 3) 実習態度 4) 訪問後のレポート・最終レポート内容（詳細は4月のオリエンテーションで説明） 	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院における看護活動 篠原彩：病院における看護活動 影山隆之：離島における訪問診療
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

1 年次開講科目

後期開講

開講科目名 / Course	人間関係学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>学問としての心理学が、性格をどのように理解しようとするのか、性格を実体化し標準化された方法を用いて客観的な理解を目指す「科学的」アプローチと、性格の状況を超えた一貫性・安定性を前提としない「状況論的」アプローチについて学ぶ。人の悩みの少なからぬ部分が、自身や周囲の人間の性格に関するものである。講義での学びを通して、性格にまつわる悩みから、少しでも距離が取れるようになることを期待する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が人を理解するということがどのような営みなのか、心理学の観点から2つのパターンを説明する。 2. 個人が抱える人間関係上の問題に、学習した内容を適用する。 3. 学ぶことが個人の内側に閉じた活動ではなく、他者に関われた活動であることの具体例を挙げる。 4. 学習課題に取り組むために、周囲の学習者とのコミュニケーションをとる。 5. 自分自身の学習の進捗状況を把握したうえで、適切な学習行動をとる。 6. 学習内容を100文字程度で要約する。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 人格と性格、どのように違うのか？ 02. 科学的な性格理解（1）（特性論的性格理解） 03. 科学的な性格理解（2）（類型論的性格理解） 04. プレグナンツの法則と性格理解（全体は部分の挿話を超越する） 05. 心理検査法の体験と理解（質問紙法、投影法、作業検査法） 06. 状況論的な性格理解（1）（ミルグラム実験） 07. 状況論的な性格理解（2）（役割の取得に基づく行動の変容） 08. 他者を理解する方法（1）（観察：図と地、図地反転） 09. 他者を理解する方法（2）（拘束としてのコミュニケーション） 10. カウンセリングマインドの理解 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、授業開始時に自分でくじを引き、座席を決める。 ・ 隣に座った人と協同して学習課題に取り組み、話し合う活動を行う。 ・ 挙手による発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。 ・ 毎時、講義通信を発行する。 ・ 毎時、講義終了後に時間外課題を課す。 ・ 各自の累積平常点を、毎時明示する。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時、講義終了後にショートレポートを課す。 ・ 毎時、web上に提出任意の課題を出す。 ・ 毎時、講義開始までに視聴する5分程度の動画を指定する。講義冒頭に内容理解度に関する小テストを行う。 	
評価方法と評価割合	<p>期末試験は実施しない。事前課題の小テスト（3点/回）、講義内容の要約課題（4点/回）、授業を受けてのコメント（2点/回）、授業での発表、時間外学習課題の得点を10回分集計して評価する。講義を欠席したものは、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定の方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。10回目の講義終了時点で、合計得点が合格ラインに達しなかった場合のみ、再試験を1回実施する。</p>	
テキスト	<p>毎時、ハンドアウトを配布する。ハンドアウトに加えて、講義通信、自分が作成したレポート、webに投稿された他学生のレポートを参照することで、講義内容の理解が深まるように自分なりの講義ポートフォリオを作成することを推奨する。</p>	
参考書	「モード性格」論（紀伊国屋書店）	
履修する上で必要な要件		
その他	<p>前期開講科目「人のこころの仕組み」の講義内容とあわせて考えると、そこから何らかの大きな生きていく上での指針を導き出せると思います。これからの自分の人生を、十二分に楽しめるよう、自分なりの指針を作ってもらえると嬉しいです。</p>	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校での教育相談

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	<p>全ての受講生の共通体験として、学校生活がある。学校で頻繁に観察される事象を例にとりながら、課題を構成したり、例示を行う。例：言いたいことがあったら、言いなさいと先生に言われて、言いたいことを言ったら怒られた ダブルバインド。</p>	

開講科目名 / Course	カウンセリング論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	関根 剛	
担当教員名 / Instructor	関根 剛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作る。講義前半は、他者を理解するためのコミュニケーション・スキルについて解説するとともに、実践的にロールプレイを体験して、スキルを身につけていく。</p> <p>講義前半は、カウンセリングの考え方や複数の理論について解説し、様々な視点から人をとらえ、看護師として、いかにカウンセリングを利用することができるかについて解説をする。後半は、コミュニケーションスキルの解説とロールプレイを通じて実際的なスキルの獲得を目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎的なスキルを理解し、それぞれのスキルを説明することができる。 2. ロールプレイを行って、10分以上会話を継続し、5種類以上の相づち、5回以上の繰り返し、5回以上の開いた質問、1回以上の言い換えを行い、最後に要約をすることができることを目指す。 3. ロールプレイを通じて、自分のコミュニケーションの癖に気づいて、記述することができる。 4. カウンセリングの理論が看護場面でどのように役立つのか説明できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. カウンセリングの考え方 02. カウンセリングの理論1：来談者中心療法・ゲシュタルト療法 03. カウンセリングの理論2：認知療法・精神分析 04. 危機介入：トラウマとPTSD 05. コミュニケーションスキル1：相づち、繰り返し、質問、要約 06. ロールプレイ1：傾聴する 07. ロールプレイ2：相手の考えや感情をアセスメントする 08. コミュニケーションスキル2：言い換え、共感 09. ロールプレイ3：言い換えで細やかな理解をする、肯定的な表現に言い換える 10. ロールプレイ4：自分が体験したことがないことに共感する 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通じて、コミュニケーションスキルを体験的に理解する。 ・理論の解説に終わらず、看護や実生活での実践につなげて考えられる機会とする。 ・前回の学習の疑問点などについて、回答をする時間を持つ。 ・毎回、簡単な小テストやミニレポートを行う。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルについて、実習などの経験から気づいたことのレポートを提出して、理論と体験を統合する機会を持つ（提出は任意） 	
評価方法と評価割合	毎回の知識確認テストやミニレポート6割、総合レポート4割	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根剛：臨床心理士、全国被害者支援ネットワーク理事
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	これまでのカウンセリングの実務、カウンセリングスキル教育の実践経験を通じて、看護学生に必要な行動変容に効果的な理論とスキルを教育する。	

開講科目名 / Course	英語 - A 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	文法に基づいて英文の内容を理解し、スムーズに音読できる力を養う。また、平易な英文で書かれた本を多読することにより英文処理能力を高める。発音記号と調音法を教授する。エッセイや文学作品から英文を精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。	
到達目標	1. 英文の内容を把握しスムーズに音読できる。 2. 講義期間中に実施される複数回の英文暗唱Reviewにすべて合格する。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. Richard Feynman 1: 間接疑問、名詞節 02. Richard Feynman 2: 強調構文、仮・真主語 03. Albert Einstein 1: 前置詞と動名詞、仮定法過去完了 04. Albert Einstein 2: 意味上の主語、祈禱文 05. 音読確認作業 06. William Shakespeare: Sonnet No.18、韻律 07. Inazo Nitobe 1: 修辞表現、仮定法過去 08. Inazo Nitobe 2: 接続詞 for、命令文 09. Daisetz T. Suzuki: 概説『禅と日本文化』、茶の湯とその心 10. 学習内容の振り返り	
その他の授業の工夫	課題英文の暗唱確認として、講義開始時にペアワークを行う。	
時間外学修	予習: 学習予定の章全体を通して3回読む。不明な語句を調べる。 復習: 指定された課題英文について、 1) CDリスニング1日1回以上、 2) 音読1日5回以上、 3) 書写1日1回以上 1)、2)、3)を1セットとして5日分言い、指定された課題英文を暗唱できるようにする。	
評価方法と評価割合	出席状況・授業態度(30%)、期末筆記試験(60%)、英文暗唱Review(10%)で評価する。欠席・遅刻(早退)は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて試験の受験資格を失う。授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠席扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	別途指示	
参考書		
履修する上で必要な要件	英語 A-1の単位を取得していること。	
その他	授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley	
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. In this class, students continue to practice speaking and listening of English. The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can improve their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work. 	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. Introduction, Home (1) interview 02. Home (2) vocabulary 03. Home (3) conversation 04. Home (4) information Exchange 05. Home (5) matching 06. Group Work Interview 07. Shopping (1) conversation 08. Shopping (2) interview 09. Shopping (3) information Exchange 10. Shopping (4) vocabulary 	
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups. These activities maximize student interaction. Such interaction in pairs and small groups teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors this practice and offers help and support when necessary.	
時間外学修	Before class, students should read all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again. They should practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can review the materials smoothly during the next class.	
評価方法と評価割合	Regular Attendance, Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.	
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	Let's have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	社会学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	大杉 至	
担当教員名 / Instructor	大杉 至	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	私たちは社会の中で生きているので、社会はいつみれば空気のような存在である。しかし、社会は私たちが拘束しているし、私たちは社会に頼って生きていく他はない。本講義では、社会学の巨匠たちが社会をどうとらえてきたかを概説する。それぞれの論者によって、様々な社会のとらえ方があることを理解し、社会を見る目を豊かにされたい。	
到達目標	1. 社会をとらえる目を養うことができる。 2. 1.により、私たちが生きている社会を客観的に把握することができる。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 社会学とは何か（社会学の成立 A.コント ） 02. M.ウェーバーの社会学方法論 03. ウェーバーの資本主義成立論 04. 官僚制の理論 05. 社会に対する二つの見方（観念論と唯物論） 06. マルクスの社会理論 07. マルクスの資本主義成立論 08. デュルケムの社会学方法論 09. デュルケムの犯罪理論 10. デュルケムの自殺理論	
その他の授業の工夫	-	
時間外学修	新聞等をよく読み、社会の動向に注意を払うこと。	
評価方法と評価割合	出席状況（10%）および筆記試験（90%）	
テキスト	特になし。プリントを配布すると同時に参考文献をその都度紹介する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	文化人類学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	足立 恵理	
担当教員名 / Instructor	足立 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	文化人類学は、様々な文化の比較を通して人間理解に迫る学問だが、同時に文化の概念や枠組み、異文化理解の対象や方法そのものを問い直す作業も含まれる。 この授業では異なる文化を持つ患者にとっての病の意味や背景に目を向けることができるよう、医療と文化をキーワードに文化人類学と医療人類学の基本的な視点を学ぶ。また、在日外国人と医療の問題を扱い、学んだ視点や方法論を使って多文化共生医療の現状分析と看護の現場における改善について具体的に検討する。	
到達目標	1. 自他の複雑で多様な文化的背景を捉えなおす視点を獲得する。 2. 学んだ視点や方法論を使い、多文化共生医療の在り方を具体的に計画、実施、評価改善する。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. オリエンテーション 02. グローバリゼーションの中の民族、言語、文化 03. 異なる文化の捉え方1 - 近代以降の異文化接触の課題 04. 異なる文化の捉え方2 - 課題を乗り越える様々な思想的試み 05. 文化と医療1 - 医療化・脱医療化とその課題 06. 文化と医療2 - 身体観、病気観、死生観 07. 文化と医療3 - 医療システムの多様性と特徴 08. 多文化間協働の可能性を探る1 - 方法論とツールの検討 09. 多文化間協働の可能性を探る2 - 応用 10. 多文化間協働の可能性を探る3 - 応用とまとめ	
その他の授業の工夫	学んだ視点を応用する力をつけるために、演習やグループワークを適宜取り入れる。	
時間外学修	毎回学ぶ視点や方法論が、次の授業につながるため、授業内容のポイントを自分なりに整理し、配布資料や紹介された事例を読んでおくこと。	
評価方法と評価割合	出席(20%)、グループワークや演習への貢献(30%)、レポート(50%)	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生物統計学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	渡邊 弘己	
担当教員名 / Instructor	佐伯 圭一郎、渡邊 弘己	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	本講義では、科学的な思考の基盤の一つである統計学に関する基本的知識とデータ解析の基礎技術を身につけることで、今後の学習や看護研究の遂行に備える。	
到達目標	1. 基本的な記述統計、確率分布、推測統計の考え方を説明できる。 2. 基本的なデータ解析を実践できる。 3. 基本的な統計学を利用した研究の成果を適切に解釈できる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 記述統計(1) 尺度、代表値 02. 記述統計(2) 散布度、平均と分散の性質 03. 記述統計(3) クロス表、関連の指標 04. 記述統計(4) 相関係数、回帰直線 05. 確率分布(1) 離散型確率分布 06. 確率分布(2) 連続型確率分布 07. 推測統計(1) 推定 08. 推測統計(2) 仮説検定 09. 推測統計(3) 仮説検定各論 10. 推測統計(4) 推測統計のまとめ	
その他の授業の工夫	1年次必修科目「健康情報処理演習」とこの講義をリンクして、理解を深める。	
時間外学修	事前学習課題や講義後の復習によって、各回の内容を確実に理解する。	
評価方法と評価割合	筆記試験80%、数回のレポートまたは小テストの合計20%	
テキスト	適宜、資料を配付する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	自然科学の基礎で学ぶ数学の知識は、本講義の前提知識とする。また、健康情報処理演習において、表計算ソフト、統計解析ソフトを用いた演習を行う。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生体代謝論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	安部 眞佐子	
担当教員名 / Instructor	安部 眞佐子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	生命現象の基礎を支える生体分子の基本的な性質を理解する。体内での代謝を理解し、生体機能を分子レベルで説明できる力を身につける。栄養学の基礎知識を説明できる。	
到達目標	1. 解剖生理で学んだ生体分子の種類と役割を定着させる。 2. 食物成分の体内動態を個体レベルで理解し、健康維持増進のための栄養素のとりかたを包括的に説明できるようになる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 生化学を学ぶための基礎知識 02. 代謝と生体エネルギー 03. 糖質 04. 糖質代謝：エネルギー産生 05. 糖質代謝：その他の代謝 06. 脂質 07. 脂質代謝 08. タンパク質 09. タンパク質代謝 10. ポルフィリン代謝、異物代謝 11. 遺伝学の基礎知識、核酸の代謝 12. シグナル伝達 13. 栄養問題、健康日本21の中の食生活 14. 栄養の脂質 15. 栄養のたんぱく質 16. 栄養の炭水化物 17. ミネラル 18. 水溶性ビタミン 19. 脂溶性ビタミン 20. 個体レベルでのエネルギー代謝	
その他の授業の工夫	講義中に課題を課す。	
時間外学修	テキストで事前学習を行い、講義後には、配布プリント、テキスト、課題によって復習する。	
評価方法と評価割合	最終テスト 80% 講義ごとの課題提出と評価 20%	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] (医学書院) わかりやすい栄養学 (三共出版)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	安部眞佐子：栄養指導の経験あり
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	生活習慣病の栄養指導をした経験から栄養についての素養を養えるように学習を組み立てる。	

開講科目名 / Course	生体反応学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	市瀬 孝道	
担当教員名 / Instructor	市瀬 孝道	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	物理、化学、生物学的な外的要因や自己免疫、ホルモンや遺伝的な内的要因によって起こる病気の成り立ちやしきみを習得するために、これらの要因による生体反応機構や病的変化を、病気の一般的な原理・通則に従って講義する。	
到達目標	1. 病気の一般的な退行性変化、進行性変化、循環器障害、代謝障害、炎症・免疫・アレルギー、腫瘍病変、先天異常といった原理・通則に従って病気の成り立ちやしきみを説明できる。 2. 看護実践の場で患者の病気がこれらのどの種類（カテゴリー）の病気であるのかを判断できる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 病気の内因と外因 02. 退行性変化 03. 進行性変化 04. 循環器障害 05. 代謝障害 06. 炎症 07. 免疫 08. アレルギー 09. 腫瘍 10. 先天異常	
その他の授業の工夫	復習や国家試験に役立てられるように病変の各カテゴリーを2ページにまとめたプリントを配布するとともに、視覚的に学べるようにパワーポイントを用いて講義する。	
時間外学修	予習では教科書の講義箇所を事前に読み、おおよその内容を理解しておく。復習では教科書やプリントを用いて重要なポイントとなる知識を整理し、教科書の付録（病理学整理ノート）を活用して試験に向けたトレーニングを行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験100% （60点以上を合格とする）	
テキスト	カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生体反応学各論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	市瀬 孝道	
担当教員名 / Instructor	市瀬 孝道	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	概論で学んだ病気の種類（7つのカテゴリー）と臓器に起こる病気が結びつけられるように系統別に病気を学び、病気の成り立ちや形態学的・機能学的な変化や特徴を理解・習得する。	
到達目標	1. 系統別に起こる病気がどの種類（7つのカテゴリー）の病気であるのかが判断できる。 2. 系統別に起こる病気の成り立ちや形態学的変化、特徴が説明でき、得られた知識が看護実践に役立てられる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 消化器系疾患 02. 呼吸器系疾患 03. 循環器系疾患 04. 泌尿器系疾患 05. 生殖器系疾患 06. 内分泌系疾患 07. 血液疾患 08. 脳・神経系疾患 09. 運動器系疾患 10. 感覚器系疾患（眼・耳鼻咽喉・皮膚）	
その他の授業の工夫	復習や国家試験に役立てられるように系統別の疾患を2～3ページにまとめたプリントを配布するとともに、疾患の形態や機能変化を視覚的に学べるようにパワーポイントを用いて講義する。	
時間外学修	予習では教科書の講義箇所を事前に読み、おおよその内容を理解しておく。復習では教科書やプリントを用いて重要なポイントとなる知識を整理し、教科書の付録の病理学整理ノートを活用して試験に向けたトレーニングを行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験100% （60点以上を合格とする）	
テキスト	カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	微生物免疫論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一、松本 昂	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	院内感染防止や感染看護に関する知識は看護業務を行う上で重要である。本講義では、臨床上問題となる感染症を理解し、患者への対応、処置等感染症に対する看護の基本的事項について学ぶ。またこれらの感染に対する生体側の防御機構、感染症の予防・治療について理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種微生物の特性を説明できる。 2. 病原微生物による疾患の発症機序、特徴を説明できる。 3. 院内感染をはじめとした各種感染症の予防について説明できる。 4. 各種感染症の治療について、説明できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 微生物学総論（細菌・真菌） 02. 微生物学総論（寄生虫・ウイルス等） 03. 感染と感染症 04. 感染に対する生体防御機構 05. 滅菌と消毒 06. 感染症の治療 07. 細菌感染症の検査 08. 細菌感染症の予防 09. ウイルス感染症 10. 寄生虫感染症 	
その他の授業の工夫	各種感染症で見られる典型的な症状の写真を提示し、感染症に対する理解を深める。	
時間外学修	行った講義の復習として、小テストや自主学習課題を提示する。講義の復習を行った後、課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	試験（100%）	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	全ての微生物感染症について詳細に扱うには、時間的な制約があるため、特に重要な点を力説する。その他講義で扱えないものは、各自で教科書を読み、概要を理解すること。 質問は、講義中、講義時間外のいずれでも受け付ける。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康運動	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実技	
科目の目的と概要	ニュースポーツ等の体験を通して、運動の楽しさ、素晴らしさ、必要性を体感し、自分の生涯スポーツにつなげる。適切な運動強度や運動量を確保して健康や体力を維持増進し、ストレスを低減させ、学生間のコミュニケーションを促進する。	
到達目標	1. 運動に参加し、エネルギーを消費し、体力を高め、コミュニケーションや友人を増やし、ストレスを発散する。 2. 運動することの楽しさを体感し、素晴らしさ、必要性を説明できる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. オリエンテーション、フライングディスクの基礎 02. ディスクゴルフ 03. アルティメット 04. ユニバーサルホッケー 05. インディアカ 06. ソフトバレーボール 07. リングテニス 08. フットサル 09. 3オン3 10. ティーボール 11. テニス 12. バドミントン 13. ドッジボール 14. ヨガ 15. 和太鼓	
その他の授業の工夫	毎回、試合結果を記録して、各スポーツの良い点を考える。 成績優秀チームにご褒美を出す。 音楽を活用する。	
時間外学修	サークルや健康増進室を活用して、各自で主体的に運動する。 授業以外に最低でも週一回は運動する。	
評価方法と評価割合	レポート（50％）、授業態度（50％）	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	運動する服装やシューズで参加すること。	
その他	天候や学外講師の都合で実施順序は替わります。 特にメールで連絡のない場合は、体育館に集合してください。 週一回の運動時間なので、積極的に取り組みましょう。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：大分県スポーツ学会代表理事、健康運動指導士養成講習会講師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	中島麗理：ヨガ教室講師 和太鼓の指導者：海外公演をする演奏家であり、県内で教室を開講して指導している。
実務経験をいかした教育内容	受講者のモチベーションを上げる工夫する。	

開講科目名 / Course	看護理論入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	廣田 真里	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	看護現象を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養うことを目的とする。看護理論に関する基本的知識について学習し、看護理論と看護実践の関連・活用について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは何かについて述べることができる。 2. 看護理論の分類、歴史的変遷について説明できる。 3. 主な理論家の理論概要について説明できる。 4. 看護理論の看護実践への活用方法について考えることができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、 5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. Introduction：看護理論とは、看護理論の歴史的変遷 02. F. ナイチンゲール「看護覚え書き」 03. V.A. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 04. H.E. ペプロウ「人間関係の看護論」 05. P. ベナー「ベナー看護論」 06. グループ課題(代表的な理論家の理論についてグループ学習) 07. グループ課題(代表的な理論家の理論についてグループ学習) 08. グループ課題(代表的な理論家の理論についてグループ学習) 09. グループ課題(代表的な理論家の理論についてグループ学習)の発表 10. グループ課題(代表的な理論家の理論についてグループ学習)の発表 	
その他の授業の工夫	講義に加えて、課題についてグループワークしプレゼンテーションを行う。グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、理解につなげる。	
時間外学修	<p>【事前学習】 次回の理論家の理論についての概説を予習すること。</p> <p>【課外学習】 グループ課題に積極的に取り組み、プレゼンに向けた準備に計画的に取り組むこと。</p>	
評価方法と評価割合	出欠席(10%)、提出物(50%) (提出物は個人レポート及びプレゼンテーション資料を含む)、授業態度(40%) (授業態度にはグループワークやプレゼンテーションおよびディスカッションにおける態度を含む)の3つから総合的に評価する。	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版(南江堂) 2. 看護覚え書(現代社) 3. 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) 	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	廣田真里；病院の看護師 秦さと子；病院の看護師 田中佳子；病院の看護師 水迫祐人；病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	多領域での看護実践経験から具体例を用いることで、看護理論に関する理解を促し、実践にどのようにつなげるかを考察する支援を行う。	

開講科目名 / Course	基礎看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	廣田 真里	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	看護の対象としての人間を理解し、1人の患者を受け持ち、看護の概念や知識、技術を活用しながら看護を実践する。実践した看護を振り返り、専門職として成長し、発展していく姿勢を自己形成することが目的である。約2週間の病院実習で、臨床の看護師との同行実習や受け持ち患者へ看護を実践し、今後の学習意欲を高める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を社会で生活している人として記述できる。 2. 対象者が健康障害や入院によって受けている影響を説明できる。 3. 対象者に必要な看護を実施できる。 4. 看護職者に求められる基本的姿勢について答えることができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<p>実習期間 2022年1月11日(火)～1月24日(月)</p> <p>実習施設 大分県立病院、大分赤十字病院、アルメイダ病院、近隣の総合病院</p> <p>実習方法 オリエンテーション(基礎看護学実習の目的、目標、実習展開、実習記録、評価等) 病院実習; のべ7日間の病棟実習(1人の患者を受け持ち看護の概念や知識技術を活用しながら看護を実践する。臨床の看護師との同行実習や受け持ち患者への実践を通じて、今後の学習意欲を高める。</p> <p>実習のまとめ・個人面接</p>	
その他の授業の工夫	病棟実習前に実習全体を通しての実習目標と週ごとの実習目標を立案する。また中間・終了カンファレンスでのテーマを記載する。実習前の看護理論入門において事例を用いて対象を生活者としてとらえるための演習を課外で行い、また看護理論が実践ではどのように活用されるかDVD等を視聴して考察する。	
時間外学修	既習科目の生活援助技術について復習を行い、看護実践に備える。初期体験実習の実習要項を再度見直し、カンファレンスの目的等について復習する。インフルエンザ流行期での実習であるので、予防接種や感染予防に留意する。自己の体調管理を行い、実習開始となる日より10日程度前から体温測定や体調管理のための症状観察した内容を自己体調管理表に記載し、報告する。病棟実習で実施した内容を記録用紙に記載し、書籍等を用いて、実施内容を振り返り、翌日、担当教員に提出する。	
評価方法と評価割合	出欠席、実習内容、実習態度、提出物、個人面接等により総合的に評価する。出席日数は100%出席を原則とする。	
テキスト	特になし	
参考書	特になし	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	廣田真里：病院の看護師・看護部長 秦さと子：病院の看護師・副看護師長 石丸智子：病院の看護師・認定看護師 田中佳子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	全員、看護師の経験者であり、豊富な臨床経験を通じて、療養生活を営む生活者としての対象の理解を深めさせることができる。	

開講科目名 / Course	看護疾病病態論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	重要かつ臨床現場でよく遭遇する疾患について、定義、疾患の成り立ちや病態のメカニズム、病態と関連づけた症状、検査、治療についての基礎的知識を身につけ、看護の観察ポイントや起こりうる病態予測、緊急性や重症性の判断など看護と関連づけて理解することを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系・肝・胆・膵系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 2. 呼吸器系および感染症の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 3. 循環器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 4. 血液・造血器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 5. 特定の症状に関して出現するメカニズムを様々な系統から考え、症状の特徴や違いを説明できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 消化器疾患（1）消化器がん 02. 消化器疾患（2）侵襲と生体反応、胃がん術後の生理学的変化 03. 消化器疾患（3）消化性潰瘍、急性腹症など 04. 肝・胆・膵疾患 05. 呼吸器疾患（1）肺炎 06. 呼吸器疾患（2）気管支喘息 07. 呼吸器疾患（3）慢性閉塞性肺疾患 08. 呼吸器疾患（4）呼吸不全 09. 呼吸器疾患（5）肺腫瘍、気胸 10. 呼吸器疾患・感染症 11. 循環器疾患（1）虚血と梗塞 12. 循環器疾患（2）狭心症、心筋梗塞 13. 循環器疾患（3）不整脈、ショック 14. 循環器疾患（4）心不全 15. 循環器疾患（5）高血圧、動脈系疾患、静脈系疾患 16. 血液・造血器疾患（1）貧血 17. 血液・造血器疾患（2）白血病 18. 血液・造血器疾患（3）止血機能異常 19. 病態探究演習（1）グループワーク 20. 病態探究演習（2）発表会 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるようにグループワークによるアクティブラーニングを組み込んでいる。	
時間外学修	テキストの該当箇所を事前に読み、該当臓器などの解剖生理を復習したり、分からない用語などを調べておく。講義後は、資料やノートの内容を復習する。中間と最終の筆記試験を行うので、重要なポイントを適宜整理する。	
評価方法と評価割合	筆記試験（100％）。但し、各試験範囲の授業時間の1/3以上欠席した場合は受験を認めない。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2,3,4,5,11]（医学書院） プチナースBooks 病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド（照林社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を活かし、臨床現場と理論を結び付けながらエビデンスに基づき教授する。	

開講科目名 / Course	看護疾病病態論II
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
開講区分 / semester offered	後期
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
科目の目的と概要	重要かつ臨床現場でよく遭遇する疾患について、定義、疾患の成り立ちや病態のメカニズム、病態と関連づけた症状、検査、治療についての基礎的知識を身につけ、看護の観察ポイントや起こりうる病態予測、緊急性や重症性の判断など看護と関連づけて理解することを目的とする。
到達目標	1. 脳・神経系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 2. 内分泌・代謝系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 3. 腎・泌尿器系、生殖器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 4. 運動器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 5. 感覚器系の主要な疾患の病態の概要、症状のメカニズム、病態との関連における検査、治療の考え方について説明できる。 6. 特定の症状に関して出現するメカニズムを様々な系統から考え、症状の特徴や違いを説明できる。
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力
授業計画	01. 脳・神経疾患（1）意識障害、運動麻痺、感覚障害 02. 脳・神経疾患（2）脳出血、脳梗塞 03. 脳・神経疾患（3）パーキンソン病 04. 脳・神経疾患（4）筋萎縮性側索硬化症、認知症 05. 内分泌・代謝疾患（1）糖尿病 06. 内分泌・代謝疾患（2）糖尿病の合併症 07. 内分泌・代謝疾患（3）甲状腺疾患 08. 内分泌・代謝疾患（4）副腎疾患、クッシング症候群 09. 腎・泌尿器疾患（1）腎不全 10. 腎・泌尿器疾患（2）腎炎、前立腺肥大症 11. 腎・泌尿器疾患（3）腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺がん 12. 運動器疾患（1）骨折 13. 運動器疾患（2）脊髄損傷 14. 運動器疾患（3）変形性関節症、椎間板ヘルニア 15. 生殖器疾患 16. 眼疾患 17. 耳鼻咽喉疾患 18. 皮膚疾患 19. 病態探究演習（1）グループワーク 20. 病態探究演習（2）発表会
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、理解を深められるようにグループワークによるアクティブラーニングを組み込んでいる。
時間外学修	テキストの該当箇所を事前に読み、該当臓器などの解剖生理を復習したり、分からない用語などを調べておく。講義後は、資料やノートの内容を復習する。中間と最終の筆記試験を行うので、重要なポイントを適宜整理する。
評価方法と評価割合	筆記試験（100％）。但し、各試験範囲の授業時間の1/3以上欠席した場合は受験を認めない。
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6,7,8,9,10,11,12,13,14]（医学書院） プチナースBooks 病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド（照林社）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
教員の実務経験	有・無 有

	内容	藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を活かし、臨床現場と理論を結び付けながらエビデンスに基づき教授する。	

開講科目名 / Course	教職概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平、小野 治子、麻生 良太、生田 淳一	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	「教員としての基本的な心構え」、「教職の意義」、「教員の役割・職務内容」を学ぶ。講義だけでなく、講義の内容についてお互いの意見や疑問を討論し、一つ一つについて自分の意見や考えがもてるようにする。そうすることで、教師としての心構えや教師としてのありようを身につけ、職業としての方向性を見いだせるような授業を目指す。	
到達目標	1. 教師に科せられた現代的課題について多角的に捉え、説明する。 2. 社会における教職の意義と個人にとっての教職の意味を内省し、説明する。 3. 教員の職務内容を、教育関連法規に沿って説明する。 4. 2年次以後も履修を継続するのかを、主体的に判断する。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. オリエンテーション 02. 教師の思い出・自分が学んだ学校のこと 03. 職業としての教師 担任として 04. 職業としての教師 管理職として 05. 養護教諭の実践 保健管理 06. 養護教諭の実践 安全管理 07. 公教育制度の理念 08. 教育を支える教育法規 09. 学校教育の目的と目標 10. 先生の種類 11. 学習指導要領 12. 道徳、特別活動、総合的学習の時間 13. 学校における教育課程の編成 14. 教師のメンタルヘルス 15. 危機管理と教員の責任 16. 地域との連携・協同 17. 教員養成制度 18. 教員免許法と採用試験 19. 教育実習 20. 求められる教師像	
その他の授業の工夫	教育に関する様々なトピックをとりあげて、受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	ショートレポートの作成を求める。	
評価方法と評価割合	筆記試験の成績（60％）、レポート（40％）から総合的に判断する。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	この講義を選択したからといって、二年次以後、継続して教職課程を履修しなければならないということではありません。履修を通して、今まで皆さんが学んできた「学校」という制度を批判的に振り返り、職業としての養護教諭が皆さんにとって「あり」なのか「なし」なのかを考える機会にしてほしいと考えています。現時点で進路が決まっていなくても、全く構いません。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校での教育相談 小野治子：高等学校・特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となることが多い、児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を紹介する。	

2 年次開講科目

前期開講

開講科目名 / Course	行動療法と発達心理	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	発達を、進化、環境、遺伝という視点から複合的に理解する枠組みに沿って、言語、運動機能、アタッチメント行動、発達障害について学び、発達という概念を相対化する態度を養う（吉村）。行動療法および認知心理学的な視点から、行動変化の理論を理解し、実際に、自分自身の行動の変容プログラムを作成することで、患者の生活習慣の変容方法を助言できる知識を持つ（関根）。	
到達目標	1. 人間という存在を、環境、進化、遺伝など、複数の視点から、説明することができる（吉村）。 2. 認知行動療法、多理論統合モデルについて理解し説明できる。また、多理論統合モデルによる自己の行動改善プログラムを作成する（関根）。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 言語発達の理解（吉村） 02. 運動発達の理解（吉村） 03. アタッチメント行動の発達（吉村） 04. 発達障害を状況論的に理解する（吉村） 05. 広汎性発達障害の理解（吉村） 06. 行動療法の基礎：失敗するプログラムとは（関根） 07. 多理論統合モデル1：認知的プロセス、行動的プロセス（関根） 08. 多理論統合モデル2：ステージごとのアプローチ（関根） 09. 変容のプログラム1：生活習慣を変えるプログラム（関根） 10. 変容のプログラム2：プログラムの検討（関根）	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、授業開始時に自分でくじを引き、座席を決める。（吉村） ・ 隣に座った人と協同して学習課題に取り組み、話し合う活動を行う。（吉村） ・ 挙手による発言行動が強化されるよう、学習環境を調整する。（吉村） ・ 毎時、講義通信を発行する。（吉村） ・ 毎時、時間外課題を課す。（吉村） ・ 毎回の知識確認テスト・ミニレポートを行う。（関根） ・ 毎回、前回の質問などに回答する時間を設ける。（関根） ・ 自己の行動変容プログラムを作成して実際的な理解を深める（関根） 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時、講義終了後にショートレポートを課す。（吉村） ・ 毎時、講義内容に関連する動画を指定する。講義冒頭に理解度に関する小テストを行う。（吉村） ・ 講義内容に基づいた行動改善プログラム案を提出する。（関根） ・ 自己の行動改善プログラムの実践とレポート提出。（関根） 	
評価方法と評価割合	<p>期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（3点/回）、講義内容の要約課題（4点/回）、授業を受けてのコメント（2点/回）、授業での発表、時間外学習課題の得点を5回分集計して評価する。なお、講義を欠席したものは、その回に課された全ての課題を提出することができない。（吉村）</p> <p>毎回の知識確認、ミニレポート6割、プログラム作成と実行レポート4割。（関根）</p>	
テキスト	<p>毎時、ハンドアウトを配布する。ハンドアウトに加えて、講義通信、自分が作成したレポート、webに投稿された他学生のレポートを参照することで、講義内容の理解が深まるように自分なりの講義ポートフォリオを作成する。（吉村）</p> <p>毎時、ハンドアウトを配布する。授業内で参考書を呈示する。（関根）</p>	
参考書	進化心理学入門（新曜社）	
履修する上で必要な要件		
その他	講義を受けていて、おかし！違！と思ったら、遠慮なく議論を吹っかけてください。お待ちしております。「進化」という視点は、人間の行動を疑い、理解する強力なツールです。興味を持たれた人は、進化心理学の書物にぜひ目を通してください。鱗が五枚くらい落ちますよ。（吉村）	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：保育園、幼稚園、小学校、中学校での教育相談 関根剛：臨床心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有

	内容	小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	学校で頻繁に観察される事象を具体例あるいは課題として提示する。	

開講科目名 / Course	音楽とこころ	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小川 伊作	
担当教員名 / Instructor	小川 伊作	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	現代社会では、様々なメディアを通して、あらゆるジャンルの音楽を耳にすることができる。講義では、クラシック音楽、ジャズ、フォークソングの3つのジャンルの音楽を取り上げ、それぞれの音楽の歴史と特徴、聴きどころを解説する。	
到達目標	1. この講義で多様な音楽に触れることを通して、「音楽とは何か?」、「音楽の意味するもの」について、そして音楽と人間との関係についてふりかえる機会とする。 2. 音楽についての理解を深める。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 音楽入門 「音楽」ってなんだ? 「音楽」の意味 02. クラシック音楽 祈りの音楽 中世ルネサンス音楽 03. クラシック音楽 音の建築物 バロック音楽 04. クラシック音楽 音で思想を表現する 古典派音楽 05. クラシック音楽 音で物語を表現する ロマン派音楽 06. クラシック音楽 行き着くところまで行ってしまった 現代音楽 07. ジャズ 文化の混交 アメリカの産んだ20世紀最大の芸術音楽 08. フォークソング 若者の気持ちを代弁 09. 音楽と日本 滝廉太郎再発見 10. 「音楽とこころ」 まとめ	
その他の授業の工夫	-	
時間外学修	意識して(ながらではなく)様々な音楽を聴いてみる。ライブがベストだが、ストリーミング、ラジオ等も可。	
評価方法と評価割合	出席状況(30%)と、毎講義終了時のレポート(70%)で評価する。	
テキスト	講義時に随時指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	1. 毎回音楽を鑑賞するので極力休まないように。 2. 毎講義終了時、その日の授業内容をレポートし、提出してもらう。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	美術とこころ	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	澤田 佳孝	
担当教員名 / Instructor	澤田 佳孝	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>便利さを重視する現代社会においては、とかく失われがちな、人が生まれながらに持っている物を作る力、表現する心・工夫する能力などを、描く体験を通して復活させたい。また課題の説明時に、造形の歴史にも触れ、先人たちが残してくれた物づくりの知恵についても、理解を深めたい。</p>	
到達目標	<p>1. 自己を表現することの楽しさ、感じたこと・考えたことを形に表すこと（造形表現）の喜びを、描く体験を通じて理解する。</p>	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	<p>01. オリエンテーション 02. 素描1-1 描写的表現練習 03. 素描1-2 描写的表現の練習及び作品の講評 04. 素描2-1 概念的・空想的表現練習 05. 素描2-2 概念的・空想的表現の練習及び作品の講評 06. 文字と装飾 レタリングの練習 07. 花文字のデザイン 08. 切り絵花文字の制作-1 09. 切り絵花文字の制作-2 10. 切り絵花文字の制作-3 及び講評</p>	
その他の授業の工夫	課題の説明はクラス全体で行うが、その他は個人指導を基本とする。	
時間外学修	受講生各自が機会を見つけ展覧会・工房などの表現の現場を見ることを期待する。	
評価方法と評価割合	出席状況（50%）、提出作品（50%）	
テキスト	使用しない。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	描くこと・表現することは、各自が生まれながらにして備えている力を自覚するためであると考えてほしい。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - A 1	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	ギリシャ語、ラテン語などに起源をもつ英単語を、その語源を手掛かりに意味を理解し習得する。単語テストを行う。また、看護の原著論文要旨について文法を解説し、それに基づく和訳への翻訳演習を行う。1年次に引き続き、課題英文について暗唱Reviewを複数回行うとともに、英語多読用の読本を活用し、易しい英語で書かれたものをできるだけ多量に読むことで英文処理能力の迅速化を図る。	
到達目標	1. 学術的に使用される高度な英語語彙を習得し、英文解釈に適用する。 2. 英語による看護原著論文要旨を文法解析 (Parsing) し、それを英文和訳に応用する。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 概説：教材紹介、講義の流れ、取り組み方 02. Chapter 3 - 1：人の性格を表す10の言葉 / Parsing 文 1 - 2 03. Chapter 3 - 2：self, otherとその派生語 / Parsing 文 3 - 4 04. Chapter 3 - 3：turn, loveとその派生語 / Parsing 文 5 - 6 05. Chapter 3 - 4：man, hate, marriageとその派生語 / Parsing 文 7 - 8 06. Chapter 4 - 1：医学を表す10の言葉 / Parsing 文 9 - 10 07. Chapter 4 - 2：内科、婦人科とその派生語 / Parsing 文 11 - 12 08. Chapter 4 - 3：小児科、皮膚科、眼科とその派生語 / Parsing 文 13 - 14 09. Chapter 4 - 4：整形外科、循環器科とその派生語 / Parsing 文 15 - 16 10. Chapter 4 - 5：神経科・精神科とその派生語 / Parsing 文 17 - 18	
その他の授業の工夫	原著は、ナースプラクティショナーを扱った比較的新しい文献を使用する。	
時間外学修	教科書：講義予定部分について事前に未知の語句を調べる。講義中に指定された範囲について、単語テストの準備をする。 原著：講義予定部分について事前に未知語句を調べ、文法解釈 (Parsing) をする。講義で確認した文法解釈をもとに指定された英文を日本語に翻訳し、提出する。	
評価方法と評価割合	出席状況・授業態度 (30%)、期末筆記試験 (50%)、単語テスト・提出物 (10%)、英文暗唱 Review (10%) で評価する。欠席・遅刻 (早退) は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて試験の受験資格を失う。授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠席扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	Word Power Made Easy (Pocket Books)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの (書評、書籍紹介、感想など) は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 1	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley	
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. In this class, students continue to practice speaking and listening of English. The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can improve their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work. 	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. Introduction, Directions (1) interview 02. Directions (2) conversation 03. Directions 2 (1) matching 04. Directions 2 (2) giving directions 05. People 2 (1) interview 06. People 2 (2) information exchange 07. People 2 (3) talking about people 08. Work (1) interview 09. Work (2) information exchange 10. Work (3) matching 	
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogue during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups. These activities maximize student interaction. Such interaction in pairs and small groups teaches the students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors this practice and offers support and encouragement when necessary.	
時間外学修	Before class, students should read all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again. They should practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can review the materials smoothly during the next class.	
評価方法と評価割合	Regular Attendance, Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.	
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	Let's have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	保健ボランティア	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	保健・医療に関連するボランティアを体験することで、保健・医療現場についての理解を深めると共に、現場を支えているボランティアそのものについても理解を深めることを目的とする。また、従事するボランティアを探し、交渉し、決定、参加するプロセスを通し、主体性を育成する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療に関するボランティア活動を体験し、体験からボランティアの意義や実情を説明できる。 2. 自己のボランティア体験を振り返り、ボランティアを受ける側の考えやニーズを理解し説明できる。 3. ボランティア活動する際に、倫理観をもち、ルールを厳守し、主体的な行動をとることができる。 	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. ガイダンス（別途指示する） 02. ボランティア活動の準備・計画 03-13. ボランティア活動 14-15. レポート作成	
その他の授業の工夫	保健・医療に関連するあらゆるボランティアから、興味あるボランティアを探し参加できる。実際に体験することで、視方や考え方、交流する人や場が広がる。	
時間外学修	参加するボランティアに応じて計画する。	
評価方法と評価割合	30時間の規定時間以上の保健・医療に関わるボランティアに参加することを前提とし、主催者のサイン入りの参加証明書を提出すること。また、参加した経験による学びのレポートを提出する。評価の重みづけは、規程時間以上の参加（70%）、レポート（30%）。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	学生が参加するボランティア主催者、協力者による。
実務経験をいかした教育内容	学生が参加するボランティア活動によって内容は異なるが、実際に活動を行っている現場の方やイベント主催者や協力者がその経験を活かして学生を指導する。	

開講科目名 / Course	環境保健学詳論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	本講義では生活の中で遭遇する身近な環境因子について、具体的な健康影響とその予防・安全管理の実際を学ぶ。	
到達目標	1. 健康に影響を与える環境因子を説明できる。 2. 環境因子による健康影響の予防策が説明できる。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. オリエンテーション(授業の進め方、課題レポート) 02. 熱中症対策に塩分はなぜ必要か？ 03. MRI 検査でなぜ金属物を持ち込めないのか？ 04. ミクロショックでは微量な電流でもなぜ致命的なのか？ 05. 鳥インフルエンザはなぜ世界が注目して警戒するのか？ 06. PM2.5 の健康影響をどう考えればよいか?その対策は？ 07. 化学物質中毒死の中で最も多い原因が一酸化炭素中毒である、なぜか？ 08. 社会的な喫煙対策が進まないのはなぜか？ 09. 多くの健康食品の効果はプラシーボ効果で説明できるか？ 10. 予防ワクチンの集団の効果も期待し、個人の副作用リスクは避けるにはどうするか？	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、そして、より深く理解するために、1人1課題を与え発表してもらうことにしている。	
時間外学修	講義資料を基に復習してもらうとともに、与えられた課題をまとめ、発表資料の作成をする。	
評価方法と評価割合	課題発表(30%)および筆記試験(70%) 筆記試験の受験には課題発表が必須である。	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	生体薬物反応論 I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	医療において、薬物療法の重要性は高く、医療現場において、看護師が医薬品を取り扱う機会は多い。取り扱う医薬品に対する理解が不十分であると医療事故の原因になるため、本科目を設定している。医薬品の作用を疾患の治療薬という観点から学ぶ。個体レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルでの作用機序を理解して薬の作用の本質や基本原理を学ぶ。医薬品を使用する際、その意義および医療上で注意すべきことを理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 看護師として医薬品の知識が必要となる理由を理解できる。 3. 医薬品の体内動態および副作用、相互作用について説明できる。 4. 生理活性物質の受容体の種類と刺激時、遮断時の生体応答を説明できる。 5. 循環器系疾患および代謝性疾患で使用する医薬品の特性を説明できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 医薬品が関連する事故 02. 医薬品の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄） 03. 交感神経作動薬 04. 交感神経遮断薬 05. 副交感神経作動薬・遮断薬 06. 筋弛緩薬・局所麻酔薬 07. 高血圧治療薬 08. 心不全治療薬、狭心症治療薬、不整脈治療薬 09. 脂質異常症治療薬、糖尿病治療薬 10. 痛風治療薬、化学療法薬 	
その他の授業の工夫	実際の処方内容を例示し、治療薬の理解を深める。	
時間外学修	提示した処方内容について、対象疾患、副作用、使用するにあたり、注意すべき点（患者指導を含む）をまとめること。	
評価方法と評価割合	試験（100％） 試験で60点以上得点。なお、本試験で30点未満の場合、再試験の受験を認めない。	
テキスト	わかりやすい薬理学 第2版（ヌーヴェルヒロカワ） 今日の治療薬（南江堂）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康運動学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	自分の健康管理や保健指導に役立てるために、運動、体力、健康及びそれらの関係について学び、運動の必要性を学ぶ。 具体的なトレーニング方法を身につける。 科学的なものの見方や考え方を身につける。	
到達目標	1. 健康と運動、体力の関連性を説明できる。 2. 具体的なトレーニング方法を説明できる。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 二足歩行 02. ボディメカニクス 03. 骨 04. 骨と運動 05. 筋と筋力、老化・不活動・運動による筋と筋力の変化 06. トレーニングの原則、筋力トレーニングの方法 07. 柔軟性とストレッチング 08. 有酸素運動 09. 運動強度、運動量 10. 運動の健康効果、運動療法	
その他の授業の工夫	科学について知り、1年の健康運動や健康運動ボランティア演習での気づきと関連づける。 生活習慣病予防や介護予防に関連づける。 進化の視点を取り入れ、ICTを活用する。	
時間外学修	レポートを作成する。	
評価方法と評価割合	レポート（50%）、授業態度（50%）	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	後期に、自分の運動メニューを作成することを念頭において受講して下さい。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：日本体育測定評価学会会長、健康運動指導士養成講習会講師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	健康運動からリハビリ、運動療法、チャンピオンスポーツまで、幅広い知見を含めて説明する。また、理論だけではなく、実践において重要な点を含めて教授する。	

開講科目名 / Course	医療技術論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	基礎看護技術において、身体侵襲を伴う援助技術や医学的検査および治療の際に付随して発生する対象の苦痛や不安をできるだけ軽減し、検査の目的や治療の効果が最大限に達成されるための支援についての知識・技術の修得を目的とする。各々の技術の背景にある原理や科学性について学び、技術の適応や応用を考えながら技術演習を行う。	
到達目標	1. 診療に伴う治療・処置・検査等における援助技術についてシミュレータを用いて実施できる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きを15回実施する（計30回）</p> <p>01-02. オリエンテーション・感染防止の技術（1）ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱</p> <p>03-04. 感染防止の技術（2）滅菌物の取り扱いの基本</p> <p>05-06. 排泄援助技術（1）一時的導尿</p> <p>07-08. 排泄援助技術（2）持続的導尿、24h 蓄尿</p> <p>09-10. 排泄援助技術（3）導尿（事例検討）</p> <p>11-12. 症状・生体機能管理技術 血液検査（1）基礎編</p> <p>13-14. 症状・生体機能管理技術 血液検査（2）実践編</p> <p>15-16. 与薬の技術（1）基礎知識、静脈注射</p> <p>17-18. 与薬の技術（2）点滴、輸液ポンプ</p> <p>19-20. 与薬の技術（3）皮下注射、筋肉内注射</p> <p>21-22. 呼吸・循環を整える技術（1）吸入療法：酸素</p> <p>23-24. 呼吸・循環を整える技術（2）吸入療法：薬液</p> <p>25-26. 呼吸・循環を整える技術（3）上気道吸引、喀痰検査</p> <p>27-28. 排泄援助技術（4）浣腸、便検査</p> <p>29-30. まとめ（事例検討）</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生一人一人が効率よく学習できるように2クラスに分けて授業を行う。 ・ 「事前課題」「小テスト」「グループ演習」「発表」で授業を構成する。 ・ E-learning (Nursing-Skills) による自己学習環境を整備している。 ・ 自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課している。 ・ ポイントの認識と確認、自分の理解度の確認のため毎授業内で「小テスト」を実施する。 ・ 思考力を養う目的で課題事例に対する「グループ演習」を行う。 ・ 「発表」により、他者に伝える力を養い、気づきを共有する機会とする。 ・ 主体性や積極性を養う目的で「発表」の運営を学生が行う。 ・ 身体に与える影響を理解できるように、シミュレータなどを活用する。 <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。 ・ 事後学習：授業時間内のみの学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。 <p>方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のアポイントメントにより教員による技術指導も可能である。</p>	
評価方法と評価割合	<p>(1) 事前課題 (2) 小テスト (3) 演習態度 (4) 技術試験を総合して判定する。</p> <p>配分：事前課題・小テスト・演習態度60%、技術試験40%。</p> <p>技術試験60%未満、あるいは(1)～(4)の総合点が60%未満である場合、単位認定不可。</p> <p>演習態度は、出席（原則100%）と服装、授業参加度で判断する。</p> <p>20分以内の遅れは遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2,3]（医学書院）</p> <p>看護技術プラクティス 第4版（Gakken）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の實務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 廣田真里：病院の看護師 水迫祐人：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	熟練した看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進する。 対象に対して安全で安楽な技術の適応や応用を考える示唆を与えながら支援を行う。	

開講科目名 / Course	ヘルスアセスメント	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	解剖生理、病態生理、主な疾患の基本的知識に基づき、看護に必要となる対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を身に付ける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの意義及び基本技術について説明できる。 2. ヘルスアセスメントのために呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、運動器系などの観察視点や根拠について説明できる。 3. ヘルスアセスメントのために呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、運動器系などのフィジカルイグザミネーションを正しく実施することができる。 4. 観察した情報から健康問題を予測し説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ヘルスアセスメントの意義、基本技術、健康歴聴取 02. 呼吸器系のヘルスアセスメント 03. 呼吸器系のヘルスアセスメント 学内演習 04. 循環器系のヘルスアセスメント 05. 循環器系のヘルスアセスメント 学内演習 06. 神経系のヘルスアセスメント 07. 神経系のヘルスアセスメント 学内演習 08. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 09. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 学内演習 10. 消化器系のヘルスアセスメント 11. 消化器系のヘルスアセスメント 学内演習 12. フィジカル事例演習(1)課題1グループワーク 13. フィジカル事例演習(2)課題2グループワーク 14. フィジカル事例演習(3)シミュレーション演習 15. フィジカル事例演習(4)発表会 	
その他の授業の工夫	講義と演習を繰り返しながら、理論と実践を結び付け理解を深められるように進めていく。また、系統別に学んだ内容をフィジカル事例演習を行うことで統合し、アセスメント能力を身につけられるように進めていく。	
時間外学修	テキストの該当箇所を事前に読み、解剖生理を復習し、分からない用語などを調べておく。講義後は、資料やノートの内容を復習する。学内演習のために、事前にどのような項目をどのような方法で行うのかなどを整理する。演習後は、演習で行った記録を課題レポートとしてまとめる。	
評価方法と評価割合	原則全出席と毎回の演習レポートの提出が試験(筆記・実技)の受験資格となる。20分以上の遅刻、早退は欠席として取り扱う。演習態度によっては参加を認めない場合もあり、欠席扱いとなる。評価の重み付けは筆記試験(50%)、実技試験(50%)で行う。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2](医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2,3,4,5,6,7,8,9,10,12,13,14](医学書院)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を通し、臨床現場と理論を結び付けて、エビデンスに基づき教授する。	

開講科目名 / Course	看護アセスメント概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程の理論を理解することを目的とする。対象者の健康問題と看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の意義や目的について説明できる。 2. 対象理解のための情報収集、根拠に基づいたアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断と優先順位の決定、看護計画、実施、評価について説明できる。 3. 事例を通して、一連の看護過程の展開を実施できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 看護過程の意義、概要 02. 看護過程の展開：アセスメント（1）情報収集 03. 看護過程の展開：アセスメント（2）アセスメントツールなど 04. 看護過程の展開：アセスメント（3）全体像の把握 05. 看護過程の展開：看護診断（1）診断のための基礎的知識 06. 看護過程の展開：看護診断（2）診断のプロセス 07. 看護過程の展開：計画 08. 看護過程の展開：実施、評価 09. 事例による個人ワーク（1）アセスメント 10. 事例による個人ワーク（2）看護診断、計画	
その他の授業の工夫	講義と事例による個人ワークを並行しながら実施することで、各々の学生が、看護過程の理論を具体的に活用し、一連のプロセスとその考え方について理解し、展開できるようにしている。	
時間外学修	事例による個人ワークレポートを作成し、コメントに応じて修正し、完成させる。	
評価方法と評価割合	期限内に提出された事例による個人ワークのレポートの提出が評価の前提である。 小テスト（30%）、レポート内容（70%）。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]（医学書院） NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020（医学書院） 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版（学研）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	有 藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	

開講科目名 / Course	看護アセスメント演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	看護アセスメント概論で学んだ看護過程の一連のプロセスを理解し、その基礎理論の知識を深めるために、事例展開を行うことで、実践に活用するための方法を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義や目的を説明できる。 2. 対象理解のための系統的な情報収集・整理、根拠に基づいたアセスメントができる。 3. 対象の身体・心理・社会的側面を統合した全体像が描け、健康問題を明確に記述し優先度の決定ができる。 4. 対象に応じた目標設定、アセスメントに基づいた計画を立案し記述することができる。 5. 看護計画、実施、評価について、事例展開により知識を活用し記述することができる。 6. 看護過程の評価の観点を説明できる。 7. グループワークに積極的に参加し、課題についてわかりやすく説明することができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 事例による演習オリエンテーション 02. グループワークによる事例演習(1)アセスメント(情報収集、情報の整理) 03. グループワークによる事例演習(2)アセスメント(問題の予測、原因、メカニズム等) 04. グループワークによる事例演習(3)病態関連図の作成 05. グループワークによる事例演習(4)全体関連図の作成 06. グループワークによる事例演習(5)事例別ディスカッション 07. 中間発表会(1) 08. 中間発表会(2)・ディスカッション・講評 09. グループワークによる事例演習(1)アセスメントの修正 10. グループワークによる事例演習(2)看護診断の修正 11. グループワークによる事例演習(3)病態関連図の修正 12. グループワークによる事例演習(4)全体関連図の修正 13. グループワークによる事例演習(5)計画立案、評価 14. 最終発表会(1)・ディスカッション 15. 最終発表会(2)・ディスカッション・講評 	
その他の授業の工夫	事例による看護過程の展開をグループで行い、グループワークや発表会によるディスカッションを通して、思考を整理したり、多角的な視方、考え方を身に付け、さらに表現力を高める。	
時間外学修	中間発表会、最終発表会の課題を達成するように、時間外学修も含めて計画的に進める。	
評価方法と評価割合	原則100%出席し、グループ討議することを評価の前提とする。 演習記録(80%)、発表内容(20%)。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2](医学書院) NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020(医学書院) 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版(学研)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けて教授する。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習（2年次）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、影山 隆之、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者への機能低下予防対策について考察することができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域の取り組み（自治体の取り組み等を含む）を考察することができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションについて考察することができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者を地域で生活する人間として捉え、全体像を述べ、1年次とは異なる自己のアセスメント能力の変化や自己の成長を発見することができる。 2. 協力者を取り巻く周囲の環境と協力者の健康状態、健康状態の変化について述べるができる。 3. 協力者の実生活との関連で健康状態をアセスメントする重要性や意義を述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	実習期間：2021年4月～2022年1月 実習場所：富士見が丘団地、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等 実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。実習の頻度・回数はひとりあたり年間4回以上訪問する。	
その他の授業の工夫	他学年のグループメンバーと協力しながら、年4回以上の訪問を行う。 協力者の都合などで訪問計画がうまく進められない場合は、看護研究交流センターや担当教員に相談すること。	
時間外学修	訪問前後にチームでミニカンファレンスをする（参加できない人はメールでも可）。 訪問後、各自の訪問記録を作成提出する。	
評価方法と評価割合	以下の1～4により総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問回数：100%訪問することを原則とする。ただし、訪問後のレポートを訪問毎に作成し、提出したことで訪問したとみなす。また最終レポートの提出をもって所定の回数を訪問したとみなす。 2) 実習内容 3) 実習態度 4) 訪問後のレポート・最終レポート内容 	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院における看護活動 篠原彩：病院における看護活動 影山隆之：離島における訪問診療
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	成人看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	森 加苗愛	
担当教員名 / Instructor	森 加苗愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	ライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活習慣病等の健康上の問題を予防するための保健・医療・福祉システムを理解する。また、健康障害をもつ成人期の看護を考える上で基本的な看護の理論を学び、急性期、回復期、慢性期、終末期の経過にある人の援助について考察する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し健康問題を説明することができる。 2. 成人の生活と健康を守り育む保健・医療・福祉システムについて説明することができる。 3. 成人の看護に必要な基本的アプローチを説明することができる。 4. 健康障害をもつ成人を理解するための理論を述べることができる。 5. 健康障害（急性期・回復期・慢性期・終末期）を持つ成人へのアプローチ方法を説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ライフサイクルと成人期の特徴 02. 成人の保健・医療・福祉システム：システムの概要 03. 成人の保健・医療・福祉システム、看護の役割：システムの連携と看護の役割 04. 成人への基本的アプローチ 05. 成人の健康レベルに応じた看護（健康予防） 06. 成人の健康レベルに応じた看護（急性期）：急激な健康の破綻とは 07. 成人の健康レベルに応じた看護（急性期）：急激な健康の破綻をきたした人への看護 08. 成人の健康レベルに応じた看護（回復期） 09. 成人の健康レベルに応じた看護（慢性期） 10. 成人の健康レベルに応じた看護（終末期） 	
その他の授業の工夫	成人期の特徴を自らとらえられるようにグループディスカッション等組み込む。事例を取り入れ、これまで学んだ既存知識について確認を行いながら講義を行う。	
時間外学修	テキストを使用し授業のポイントを各自で整理する。 授業で扱った主要な理論については各自で理解が深められるように文献等を読む。	
評価方法と評価割合	筆記試験（100%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトの資料を配布する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	森加苗愛：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護実践経験を踏まえ、学生の興味関心が高まるよう看護実践事例の紹介や事例検討を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	老年看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	ライフサイクルにおける高齢者の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活の質の維持・向上を目指した看護のあり方と医療・保健・福祉のネットワークについて学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 2. 高齢者の生活を支援するための医療・看護・福祉のネットワークを述べるができる。 3. 加齢に伴うADL低下と高齢者の自立した生活の援助について説明することができる。 4. 高齢者に特徴的な健康障害と看護のアプローチを説明することができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. ライフサイクルにおける老年期の特徴 02. 高齢者の社会保障 03. 高齢者を支援する医療・看護・福祉のネットワーク 04. 高齢者のアセスメント(1) 皮膚、循環器、呼吸器、消化器 05. 高齢者のアセスメント(2) 泌尿器、運動、神経系、免疫系、認知 06. 高齢者のADLと基本的アプローチ(1) 移動、食事、排泄 07. 高齢者のADLと基本的アプローチ(2) 清潔、生活リズム、コミュニケーション 08. 高齢者に特徴的な健康障害と看護のアプローチ 09. 高齢者の権利擁護 10. 高齢者の健康生活と看護の役割 	
その他の授業の工夫	老年期の加齢変化や社会制度の基本的な知識は小テストで確認をしながら身につけられるようにする。また、現代の高齢者の生活にある課題を考えるための意見交換を授業内で展開する。	
時間外学修	事前に授業内容のテキストを読み、授業に臨む。レジュメにそって授業を行うので、授業後は、学習強化する箇所をテキスト内容も含めて各自で整理する。	
評価方法と評価割合	筆記試験(100%) レポートを課した場合は評価割合を事前提示する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学(医学書院)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師として高齢者のケア計画を立案しケア実践した経験を踏まえ、高齢者の生活に関わる看護師の役割をエビデンスとともに説明し、今後の高齢者看護を一緒に考えていきます。	

開講科目名 / Course	成人看護援助論
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期
開講区分 / semester offered	前期
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、森 加苗愛、堀 裕子、佐藤 栄治、中釜 英里佳
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	講義
科目の目的と概要	成人期にある対象の特徴をふまえ、急性期、慢性期、回復期、終末期における健康障害について理解し、各健康段階においてもその人らしい生を支えるための看護援助方法を学ぶ。加えて、これまで学んだ障害や疾病の知識と看護理論を統合し、成人のセルフケアを促進するための援助を学ぶ。
到達目標	1. 成人期の特徴をふまえ、疾患の特徴と健康障害レベルに応じた看護援助方法を説明できる。 2. 成人期に特徴的な疾患をもつ模擬患者に対し、看護の知識と技術を基盤にした指導を行うことができる。
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力
授業計画	01. 生活習慣病をもつ成人の看護：内分泌・代謝疾患をもつ人の特徴 02. 生活習慣病をもつ成人の看護：内分泌・代謝疾患をもつ人の看護 03. 学内実習：血糖値測定・インスリン注射について 04. 生活習慣病をもつ成人の看護：腎泌尿器系疾患をもつ人の特徴と看護 05. がん看護（1）がん医療の現在、病態と臨床経過 06. がん看護（2）がん治療を受ける患者の看護 07. 周手術期にある対象の看護：手術侵襲と生体反応 08. 周手術期にある対象の看護：炎症と感染症、術後合併症の発生機序、おこりやすい術後合併症の予防と看護 09. 周手術期にある対象の看護：麻酔法、術後合併症の発生機序、おこりやすい術後合併症の予防と看護 10. 周手術期にある対象の看護：疼痛、術後合併症の発生機序、おこりやすい術後合併症の予防と看護 11. 周手術期にある対象の看護：術後せん妄、術後合併症の発生機序、おこりやすい術後合併症の予防と看護 12. 周手術期にある対象の看護：まとめ 13. クリティカルケア：クリティカルケアとは 14. クリティカルケア：クリティカルケアに携る高度実践看護師 15. 生活習慣病をもつ成人の看護：循環器系疾患をもつ人の特徴 16. 生活習慣病をもつ成人の看護：循環器系疾患をもつ人の看護 17. 学内実習：オリエンテーションおよびグループワーク（退院指導ロールプレイ） 18. 学内実習：グループワーク（退院指導ロールプレイ） 19. 学内実習：退院指導ロールプレイ発表 20. 学内実習：退院指導ロールプレイ発表後討論
その他の授業の工夫	学内実習以外でも、適宜グループワーク等のアクティブラーニングを組み込んでいる。
時間外学修	本科目では、学生が「疾患・病態生理」、「検査・治療」を理解しているという前提で講義を実施する。これまでの学習が不十分である場合は、当該講義までに復習を行う。
評価方法と評価割合	レポート50%、筆記試験30%、学内実習20%、講義内の発表や演習レポートで加点あり。評価割合を変更する場合は事前に周知をする。
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3,4,5,6,8]（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版（文光堂） 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	講義毎にハンドアウト資料を準備する。
教員の実務経験	有・無 有

	内容	小野美喜：病院の看護師 森加苗愛：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師 宿利優子：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師
実務経験をいかした教育内容	各看護専門領域における成人期にある対象者への実践経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介や事例検討を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	小児看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	高野 政子	
担当教員名 / Instructor	高野 政子、草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	小児医療および小児看護学の変遷と専門性や、我が国の小児保健と児童福祉施策と、医療・福祉を学ぶ。また、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。さらに小児各期の成長・発達の特性を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の特性および小児看護の役割を述べることができる。 2. 小児各期の成長・発達について述べるができる。 3. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向を述べるができる。 4. 小児各期の栄養について述べるができる。 5. 小児医療における倫理について述べるができる。 6. 自己の子ども観を述べるができる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児看護の特徴と理念、小児と家族の諸統計 02. 小児看護の変遷と子ども観 03. 小児看護における倫理、子どもの権利 04. 小児の成長・発達 05. 小児の栄養 06. 子どもの安全と事故防止 07. 遊びの機能と発達 08. 小児と家族を取り巻く社会と福祉施策 09. 小児看護で用いる理論 10. 乳児期の成長と養育と看護 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い子どものイメージをどのように持っているかを「私の子ども観」というテーマでレポートにまとめる課題を課している。短時間ではあるが、最終回に数名に発表をしてもらう。 ・小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。 	
時間外学修	レポート課題あり。	
評価方法と評価割合	筆記試験（90％）、出席状況（5％）、レポート（5％）等を総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門看護学 小児看護学[1]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	高野政子：病院のNICU、小児病棟、小児科外来の看護師 草野淳子：保健所の保健師 足立綾：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義では、臨床で経験した事例を話して、テキストの内容を具体的に説明する。	

開講科目名 / Course	母性看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	林 猪都子	
担当教員名 / Instructor	梅野 貴恵、林 猪都子、永松 いずみ	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	母性の概念や対象の特性、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、およびライフステージにおける女性の健康と健康問題を通して、母性看護の役割と機能について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念を述べることができる。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの意義を述べることができる。 3. 母性看護の対象とその特性を述べることができる。 4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を述べることができる。 5. ライフステージにおける女性の健康と健康問題を述べることができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 母性看護とは 02. セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 03. 母性看護の対象の理解・必要な看護技術 04. 母性看護の対象理解（生殖器の形態・機能、ホルモン動態） 05. 母性看護の変遷、母子看護に関連する施策 06. 母子保健統計の動向、母子看護に関する法律 07. リプロダクティブヘルスケア 08. 思春期の健康と看護 09. 成熟期の健康と看護・家族計画と受胎調節 10. 更年期・老年期の健康と看護 	
その他の授業の工夫	リプロダクティブヘルスケアは、グループで意見交換することで学習内容を深める。	
時間外学修	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1]のテキストに目を通して講義に臨む。リプロダクティブヘルスケアの各課題をグループで学習し発表にむけて準備する。	
評価方法と評価割合	原則として4回以上の欠席は評価の対象としない。グループワーク課題（10%）、筆記試験（90%）から総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1]（医学書院） 病気がみえる vol10 産科（メディックメディア） 講義の中で適宜資料を配布する。	
参考書	わが国の母子保健 令和2年（母子保健事業団）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	林猪都子：病院の助産師 梅野貴恵：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	社会保障システム論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	平野 互	
担当教員名 / Instructor	平野 互	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>国民の生命・健康と生活を支える社会保障制度すなわち保健・医療・福祉サービスを提供するための制度の概要を学ぶことを目的とする。</p> <p>まず社会保障全体の枠組みと意義を概説した上で、個人や集団の生活を支え健康を保持・増進するための保健・医療・福祉に関する法制度および行政上のシステムの概要を、課題や対象ごとに解説する。</p>	
到達目標	<p>1. 社会保障の意義を説明できる。</p> <p>2. 対象ごとに構築された制度の意義と内容を説明できる。</p> <p>3. 社会保障制度の課題を説明できる。</p>	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<p>01. 社会保障の概要と意義</p> <p>02. 所得保障の方法 年金制度と生活保護</p> <p>03. 受療権の保障 医療保険制度と公費医療</p> <p>04. 医療法と医療計画</p> <p>05. 保健行政の概要と保健所・保健センター</p> <p>06. 感染症対策</p> <p>07. 子どもの保健と福祉</p> <p>08. 障がい者の福祉</p> <p>09. 健康増進と高齢者医療</p> <p>10. 高齢者の福祉と介護保険</p>	
その他の授業の工夫	法や制度の記憶に終わらず、その意義や課題を理解できるよう、可能な限り最新のデータを提供して、実社会の動きや事象と関連付けられるように解説する。	
時間外学修	毎回講義内容が多岐にわたるため、講義回ごとに復習し、「国民衛生の動向」などで関連事項を理解すること。不明な点は積極的に質問してほしい。	
評価方法と評価割合	筆記試験（100％）	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	<p>国民衛生の動向（厚生労働統計協会）</p> <p>国民の福祉の動向（厚生労働統計協会）</p> <p>保険と年金の動向（厚生労働統計協会）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護概論 I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	学校保健活動を担う養護教諭の基本的理念、教育職員としての養護教諭の基本原則など養護教諭の全般について理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護についての本質や基本的概念について説明できる。 2. 養護教諭の沿革、職務内容の変遷などについて説明できる。 3. 養護教諭の職務と果たすべき役割について説明できる。 4. 子どもを取り巻く健康課題とその解決の支援方法について説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 養護教諭の本質と職業倫理 02. 養護教諭の歴史 03. 学校教育と学校保健 04. 子どもの現代的な健康課題とその対応 05. 養護教諭の職務 06. 保健管理（1）健康観察・救急処置 07. 保健管理（2）健康診断 08. 保健管理（3）疾病管理 09. 保健管理（4）学校環境衛生 10. 心身に課題を抱えた子どもの養護の実際 	
その他の授業の工夫	授業中、適宜ハンドアウトを配布し、文部科学省から出されている最新の情報等を提供する。	
時間外学習	シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書、参考書等を用いて事前学習を行うこと。また、授業を受けた後は復習、次回の授業に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び授業参加態度により総合的に評価する（評価配分：筆記試験90%、授業参加態度10%）。なお、筆記試験の受験資格は、出席が7回以上とする。	
テキスト	新養護概説＜第11版＞（少年写真新聞社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美：小学校、中学校、高等学校の養護教諭 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	本科目は、小学校、中学校、高等学校および支援学校で養護教諭として実務経験のある教員が講義を行う。	

開講科目名 / Course	生徒指導	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	長谷川 祐介	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平、長谷川 祐介	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	1. 教師として生徒指導を行う上で理解すべき考え方（法制度を含む）や理論、実践のための方法などを理解する。 2. 学校で実際に生徒指導を行うための実践能力の基礎を養う。	
到達目標	1. 生徒指導の意義と原理を理解し、生徒指導の3機能について説明できる。 2. 教育課程と生徒指導、学校における生徒指導体制について、説明することができる。 3. 児童生徒の発達特性を踏まえた問題行動への対応の原理を理解し、説明することができる。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 生徒指導とは何か：生徒指導の定義 02. 生徒指導の意義と課題 03. 教育課程における生徒指導の位置付け(1)：教育課程の共通性と生徒指導の個性 04. 教育課程における生徒指導の位置付け(2)：学習指導における生徒指導 05. 教育課程における生徒指導の位置付け(3)：道徳、総合的な学習、特別活動との関連 06. 集団指導・個別指導の方法原理 07. 生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、全校指導体制の確立 08. 児童生徒全体への指導：組織的対応と関係機関等の連携 09. 学級経営と生徒指導(1)：基礎的な生活習慣の確立、規範意識の醸成 10. 学級経営と生徒指導(2)：自己存在感を育む場や機会の設定 11. 生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰、停学及び退学 12. 問題行動への対応(1)：いじめ 13. 問題行動への対応(2)：不登校 14. 問題行動への対応(3)：非行 15. 問題行動への対応(4)：今日的な生徒指導上の課題 16. 問題行動への対応(5)：関係機関との連携の在り方 17. 自己存在感を育む指導法(1)～個別指導の具体的方法 18. 自己存在感を育む指導法(2)～集団指導の具体的方法 19. 教育相談の進め方(1)：児童生徒との教育相談の実際 20. 教育相談の進め方(2)：校内、校外の関係機関との連携	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	授業計画に基づき、事前にテキストに目を通すこと。	
評価方法と評価割合	期末テスト（レポート、80％）と受講態度（20％）により行う。	
テキスト	生徒指導提要（文部科学省）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	特になし	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	教育相談	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	中島 暢美	
担当教員名 / Instructor	河野 伸子、飯田 法子、中島 暢美	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	教育相談の意義や役割について理解し、不適応とは何か、適応障害とは何かを理解する。また、自身が体験したことなどを課題とし、どのような対応が必要か、どのような組織との連携が必要かなどを、グループで話し合う。	
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と理論を説明できる。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を同定できる。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を述べることができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 教育相談とはなにか 02. 教育相談の意義と役割 03. 教育相談の組織と方法 04. 適応と不適応 05. 不適応の分類と理解 06. 適応障害の理解（非行） 07. 適応障害の理解（不登校） 08. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性 09. カウンセリングマインドの理解 10. カウンセリング演習（うなずき、明確化） 11. カウンセリング演習（質問） 12. カウンセリング総合演習 13. アセスメント技法 14. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携 15. 医療・福祉・心理などの専門機関との連携 16. 教育相談における教職員の連携 17. 事例（虐待） 18. 事例（いじめ） 19. 事例（発達障害） 20. 事例（保護者支援）	
その他の授業の工夫	事例を提示し、それに基づいて話し合う機会を提供する。	
時間外学修	次回の講義内容を確認し、教科書などを用いて事前学習を行うこと。また、講義後は復習、次回講義に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	最終レポート（50%）、および、授業内でのグループディスカッションの内容や態度（50%）で評価する。	
テキスト	対人援助職のためのリスニング（ナカニシヤ出版） ディブリーフィング・ワークの研究（関西学院大学出版会）	
参考書	教育相談ワークブック（北樹出版） 教育臨床の実際（ナカニシヤ出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	飯田法子：臨床心理士、特別支援教育士として児童相談所、教育委員会（スクールカウンセラー・適応指導教室）、市町村の乳幼児精密健診事業、児童発達支援事業所、乳児院などへの実務の経験 河野伸子：公認心理士、臨床心理士、スクールカウンセラー
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となる児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を通して学べるようアクティブラーニングを取り入れた講義を行う。
---------------	---

2 年次開講科目

後期開講

開講科目名 / Course	英語 - A 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	宮内 信治	
担当教員名 / Instructor	宮内 信治	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	ギリシャ語、ラテン語などに起源をもつ英単語を、その語源を手掛かりに意味を理解し習得する。単語テストを行う。また、看護の原著論文について文法を解説し、それに基づく和訳への翻訳演習を行う。1年次に引き続き、課題英文について暗唱Reviewを複数回行う。	
到達目標	1. 学術的に使用される高度な英語語彙を習得し、英文解釈に適用する。 2. 英語による看護原著論文要旨を文法解析 (Parsing) し、それを英文和訳に応用する。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. Chapter 5 - 1: 医療職者を表す10の言葉 / Parsing 1: 緒言前半 02. Chapter 5 - 2: 精神と関連する派生語 / Parsing 2: 緒言後半 03. Chapter 5 - 3: 病理と関連する派生語 / Parsing 3: 方法、調査資料開発 04. Chapter 5 - 4: 分析と関連する派生語 / Parsing 4: 分析 05. Chapter 5 - 5: 療法と関連する派生語 / Parsing 5: 結果前半 06. Chapter 5 - 6: 歯科と関連する派生語 / Parsing 6: 結果後半 07. Chapter 5 - 7: 上肢下肢と関連する派生語 / Parsing 7: 考察前半 08. Chapter 5 - 8: 記録に関連する派生語 / Parsing 8: 考察後半 09. Chapter 5 - 9: 老年に関連する派生語 / Parsing 9: 結語前半 10. Chapter 5 - 10: 世代、年代に関連する派生語Review / Parsing 10: 結語後半	
その他の授業の工夫	原著は、ナースプラクティショナーを扱った比較的新しい文献を使用する。	
時間外学修	教科書：講義予定部分について事前に未知の語句を調べる。講義中に指定された範囲について、単語テストの準備をする。 原著：講義予定部分について事前に未知語句を調べ、文法解釈 (Parsing) をする。講義で確認した文法解釈をもとに指定された英文を日本語に翻訳し、提出する。	
評価方法と評価割合	出席状況・授業態度 (30%)、期末筆記試験 (50%)、単語テスト・提出物 (10%)、英文暗唱Review (10%) で評価する。欠席・遅刻 (早退) は減点する。欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また欠席理由の如何にかかわらず、授業欠席4回にて試験の受験資格を失う。授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠席扱いとする場合がある。授業への出席状況などは学生が自らの責任において把握管理すること。	
テキスト	Word Power Made Easy (Pocket Books)	
参考書		
履修する上で必要な要件	英語 A-1、英語 A-2及び英語 A-1の単位を取得していること。	
その他	学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの (書評、書籍紹介、感想など) は、評価対象として加点する場合がある。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	英語 - B 2	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley	
担当教員名 / Instructor	G.T. Shirley	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	English language ability is important for nurses. In this class, students continue to practice speaking and listening of English. The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun in communicating in English.	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can improve their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work. 	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. Introduction, Work (4) information exchange 1 02. Work (5) information exchange 2 03. Travel (1) interview 04. Travel (2) conversation 1 05. Travel (3) information exchange 06. Travel (4) conversation 2 07. Personal Information (1) interview 08. Personal Information (2) conversation 09. Clinical Information (1) matching 10. Clinical Information (2) information exchange 	
その他の授業の工夫	This is a student-centered class that uses active learning. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups. These activities maximize student interaction. Such interaction in pairs and small groups teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors this practice and offers support and encouragement when necessary.	
時間外学修	Before class, students should read all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again. They should practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can review the materials smoothly during the next class.	
評価方法と評価割合	Regular Attendance, Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50% Final Examination: 50% (注) Absence (regardless of reason) or non-participation in two classes results in a reduction of the final class grade down one level; in three classes it results in a reduction of the final class grade down two levels; in four classes it results in a failing grade. Students, not the instructor, are responsible for being aware of the number of their absences.	
テキスト	No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	Let's have fun practicing and improving our English!	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	放射線健康科学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	放射線は種々の環境有害因子の中で健康影響に関する情報が豊富であり、安全問題に対する体系的な考え方が比較的確立している。現代の医療において放射線の利用は不可欠なものであり、これらの原理と人体影響について医療関係者が理解すべき基本的な事項を学ぶことを目的としている。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線の物理、生物・健康影響、その防護について基本的な事項を説明できる。 2. 放射線の種類と特徴を説明できる。 3. 放射線の生体影響を分子、組織の点から説明できる。 4. 放射線のリスクを説明できる。 5. 本講義の学びを患者の放射線防護に応用できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 放射線影響と放射線防護の歴史 02. 放射線とは何か 03. 放射性同位元素と放射能 04. 身近な放射線・放射線源 05. 放射線と物質との相互作用と線量 06. 放射線の生体応答 -分子レベルから細胞レベルまで 07. 放射線の健康影響(組織反応) 08. 放射線の健康影響(確率的影響)とリスク評価 09. 安全の考え方と放射線防護基準 10. 医療における放射線利用と患者のための放射線防護 	
その他の授業の工夫	毎回、講義のポイントを問う小テストを行う。	
時間外学修	講義資料を基に復習し重要なポイントを整理する。	
評価方法と評価割合	小テスト(50%)と筆記試験(50%)	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	放射線健康科学(杏林書院) 看護の実践に役立つ放射線の基礎知識(医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	健康運動学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	稲垣 敦	
担当教員名 / Instructor	稲垣 敦	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	前期の健康運動学で修得した知識に基づいて、各自の健康課題に合った運動メニューを作成、実施して効果を判定する。 行動変容理論について学び、これを活用する。	
到達目標	1. 運動メニューを作成できる。 2. 運動継続のための技術を説明できる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. オリエンテーション、目標設定 02. ベースライン測定、運動メニュー作成 03. 行動変容理論（1）ステージ理論と目標設定、運動実施 04. 運動実施 05. 行動変容理論（2）利益・不利益分析、運動実施 06. 運動実施 07. 行動変容理論（3）セルフモニタリング、運動実施 08. 運動実施 09. 行動変容理論（4）刺激統制法、運動実施 10. 運動実施 11. 行動変容理論（5）オペラント強化法、運動実施 12. 運動実施 13. 行動変容理論（6）社会的支援、運動実施 14. 運動実施 15. 効果判定測定、レポート作成	
その他の授業の工夫	自分を被験者にして運動効果を体験する。 ベースライン測定及び効果判定測定を実施し、運動効果を可視化する。 運動継続の難しさを体験するだけでなく、これに有効な行動変容理論を同時に学ぶ。	
時間外学修	運動メニューに従って、各自で運動する。	
評価方法と評価割合	レポート（50％）、授業態度（50％）	
テキスト	必要に応じて資料を配付。	
参考書		
履修する上で必要な要件	ベースライン測定及び効果判定測定に参加すること。	
その他	寒い時期ですが、主体的に運動に取り組んでください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	稲垣敦：日本体育測定評価学会会長、大分県スポーツ学会代表理事
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	ベースライン測定及び効果判定測定では、目的や対象者にあったチェック項目を選択し、測定評価法等を適切に指導する。 受講者のモチベーションを上げるため、行動変容理論を教授し、実際に活用する。	

開講科目名 / Course	健康科学実験
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
開講区分 / semester offered	後期
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志
担当教員名 / Instructor	安部 眞佐子、市瀬 孝道、定金 香里、吉田 成一、岩崎 香子、稲垣 敦、小嶋 光明、濱中 良志、恵谷 玲央
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実験
科目の目的と概要	基本的な実験演習や測定を通して、人の身体、健康に関係した事項や人間をとりまく自然環境に関する基本的な現象を体得し、理解を深める。基本的な11項目について生体科学、生体反応学、環境保健学および健康運動学の講義・演習などで学んだことを中心に実験テーマを設定し、8つのグループでローテーションをしながら実験を行う。
到達目標	01. 解剖実習：肉眼的に人体の構造と機能を説明できる。 02. 組織学実習：顕微鏡的に人体の構造と機能を説明できる。 03. 血液検査：検体の測定ができる。検査の意義を説明できる。 04. 基礎微生物学実験：標準予防策の理解と抗菌薬の働きを説明できる。 05. ラットの解剖：人と同じ哺乳類のラットを解剖し、生きた臓器の色や系統的な繋がりを説明できる。 06. 放射線：放射線の測定を通して、放射線の線量の表し方や外部被ばくに対する防護について説明できる。 07. 染色体異常：染色体の構造と異常について説明できる。 08. 呼吸循環器系持久力：酸素摂取量、エネルギー、仕事、運動強度、運動効率について説明できる。 09. 心電図と心拍変動：心臓の電気的活動と心臓の機能との関連を説明できる。 10. 食品栄養学実習：塩分摂取量とスマイルケア食について説明できる。
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力
授業計画	10の実験を行う。8つのグループでローテーションするので、各グループで、実験の順番が異なる。詳細は、健康科学実験テキストに記載している。 01-03. 解剖実習：献体されたご遺体を用いて、各臓器を観察し実際に触ってみる。（濱中・安部・岩崎） 04-06. 組織学実習：人体の各臓器のプレパラートを顕微鏡で観察し、スケッチする。（濱中） 07-09. 血液検査：Ht値、CRP検査、血球数算定、血球観察を行う。（定金） 10-12. 基礎微生物学実験：無菌操作を行い微生物の培養と観察を行う。（吉田） 13-15. ラットの解剖：心臓や血管走行を観察し、胸腔内や腹腔臓器を摘出してスケッチし、人との違いを見出す。（市瀬） 16-18. 放射線：放射線測定器を用い、自然放射線や移動式X線撮影装置周辺の散乱線を測定する。（恵谷） 19-21. 染色体異常：人の末梢血リンパ球の染色体標本を顕微鏡下で観察する。（小嶋） 22-24. 呼吸循環器系持久力：自転車エルゴメーター（定常法、最大下負荷）を用いてV02maxを測定する。（稲垣） 22-27. 心電図：心電図を採取し、心機能を様々な指標で評価する。（岩崎） 28-30. 食品栄養学実習：自己尿のナトリウムカリウム比を測定し、食品中の塩分ととろみを測定する。（安部）
その他の授業の工夫	解剖実習：担当教員と対話形式で各臓器の機能を理解させながら進める。 組織学実習：スケッチした組織に生理的な役割を記載させる。 血液検査：末梢血観察用の標本は、自分で作成する。手技はグループではなく個々に行う。 ラットの解剖：デモンストレーションを行いながら進める。 呼吸循環器系持久力：ペアで行い、全員が検者と被験者を体験する。 心電図：全員が検者と被検者を経験し、被検者としての体験も通して、適切な心電図採取の方法を考える。
時間外学修	組織学実習：事前に解剖学・生理学のテキストに目を通す。 血液検査：レポートの作成（血球の形態や貧血に関する自己学習を行う）。 基礎微生物学実験：得られた結果を統計手法を用い、評価する。 ラットの解剖：実験終了後にレポートを持ち帰り考察を時間外学修としてまとめ、一週間後に提出する。 心電図：臨床で遭遇する機会の多い代表的な異常波形についてレポートを作成する。
評価方法と評価割合	すべての実験に出席しないと単位を取得できない。 11の実験の各評価（レポート60%、出席40%）を総合して評価する。

テキスト	健康科学実験テキストを配付する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	実験終了予定時刻は18時であるが、実験の進行状況により変更が生じうる。 その他の注意事項は、オリエンテーションで伝える。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	実習の議論の際に、臨床経験を話すことにより、解剖学の知識が臨床の現場で生かされることを強調して、学生のモチベーションを上げる。	

開講科目名 / Course	看護アセスメント学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	対象者と援助的人間関係を築きながら、身体面・心理面・社会面の状態を総合的に捉え、看護診断を明らかにし、看護過程を展開する基礎的能力を修得すると共に、看護職に求められる基本的姿勢を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、援助的人間関係を形成することができる。 2. 対象者の多様な側面から情報収集し、対象者の強みや望みを考慮しながら看護の視点からアセスメントし、看護診断を導くことができる。 3. アセスメントに基づき個別性に配慮した看護計画を立案し、実施及び評価することができる。 4. 看護職に求められる基本的姿勢を身に付け実施できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	<p>実習期間：2021年12月6日（月）～12月20日（月）</p> <p>実習施設：大分県立病院、大分赤十字病院、大分大学医学部附属病院のいずれかの施設に配置。</p> <p>実習方法：原則1名の受持ち患者に関わり、患者の理解を深め看護過程の展開を行う。</p> <p>日々の実習目標、実習計画を立案し、臨床指導者、教員の指導のもとにケアを実施しながら、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価を行う。Daily カンファレンス、中間および最終カンファレンスを実施し、課題を見出し修正する。</p>	
その他の授業の工夫	患者や家族、看護師、多職種が活動するリアルな実習現場で、理論と実践を統合する経験ができる。適宜、臨床指導者や教員のアドバイスを個別に受けることができ、深い学びができる。	
時間外学修	2週間の実習計画を立案するとともに、日々の振り返りと、翌日の実習目標を明確にし、看護過程に関する実習記録を整理しまとめる。	
評価方法と評価割合	原則100%出席とする。実習目標の到達度、実習内容、実習態度、実習記録、カンファレンス内容、個人面接により総合的に評価する。実習中、参加できない場合は、担当教員に連絡し、指示に従う。無断欠席した場合は、それ以降の実習に参加ができないことがある。	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]（医学書院）</p> <p>NANDA-I看護診断定義と分類2021-2023（医学書院）</p> <p>看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版（学研）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で活動する看護師と看護の実務経験をもつ教員が連携し、具体的な看護過程の展開や看護ケア、看護職としての基本的な姿勢や倫理観について教授する。	

開講科目名 / Course	老年看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、甲斐 博美、森 加苗愛、佐藤 栄治、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	老年期の身体、心理、社会的機能の特性をふまえ、老年期に代表的な障害や疾病をもつ高齢者の健康問題について学ぶ。特に障害や疾病が生活に及ぼす影響をとらえ、高齢者とその家族の生活の質を考えた援助方法や自立支援を学ぶ。これらの学習を通して、超高齢社会の中で多様な背景を持つ高齢者とその家族を尊重した援助を理解することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の加齢に伴う身体、心理、社会的特性について説明できる。 2. 老年期特有の健康問題を説明できる。 3. 老年期特有の健康問題が生活に及ぼす影響を説明できる。 4. 健康問題を持つ高齢者と家族の看護援助について説明できる。 5. 健康問題を持つ高齢者と家族の自立支援について説明できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、 5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 認知症高齢者の看護（1）認知症に関する医療看護の動向 認知症ケアの移りかわりと尊厳 02. 認知症高齢者の看護（2）認知症の基礎知識と治療、看護の基本 03. 認知症高齢者の看護（3）日常生活に及ぼす影響と看護 04. 認知症高齢者の看護（4）家族への看護、事例 05. 高齢者の低栄養と看護（1）高齢者の生活への影響と栄養評価 06. 高齢者の低栄養と看護（2）低栄養状態にある高齢者への援助技術 07. 高齢者の呼吸器障害と看護（1）慢性呼吸器疾患を持つ高齢者の生活援助 08. 高齢者の呼吸器障害と看護（2）酸素療法・NPPV療法を行う高齢者の援助 09. 感覚器障害のある高齢者の看護（1）加齢に伴う視覚・聴覚障害の概要と援助 10. 感覚器障害のある高齢者の看護（2）他感覚器障害の概要と事例検討 11. 高齢者の感染予防（1）高齢者に多い感染症の予防的援助の実例 12. 高齢者の感染予防（2）事例検討 13. 高齢者のADL低下と看護（1）骨・関節・筋肉系の運動機能障害の概要と援助 14. 高齢者のADL低下と看護（2）大腿骨頸部骨折患者の事例検討 15. 高齢者のADL低下と看護（3）神経細胞の構造と機能 16. 高齢者のADL低下と看護（4）脳神経系障害でADL低下を伴う高齢者の事例展開 17. 高齢者のADL低下と看護（5）看護過程のグループワーク 18. 高齢者のADL低下と看護（6）看護計画の発表 19. 緩和ケア（1）緩和ケアの実例 20. 緩和ケア（2）終末期患者事例検討（トータルペインで考える） 	
その他の授業の工夫	適宜、事例検討やグループワークを組み込んでいる。	
時間外学修	本科目では、学生が「疾患・病態生理」、「検査・治療」を理解しているという前提で講義を実施する。これまでの学習が不十分である場合は、当該講義までに復習を行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験(80%)、レポート(20%)、講義内の発表やレポートで加点あり。 評価方法と割合を変更する場合は事前に周知する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2,4,5,7,10,11,12,13,14] (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	講義毎にハンドアウト資料を準備。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 森加苗愛：病院の看護師 甲斐博美：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 宿利優子：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師

教員以外で指導に関わる者の実務 経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	各看護専門分野における高齢者への実践経験をふまえ、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介や事例検討を取り入れ講義を行う。	

開講科目名 / Course	母性看護援助論I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	林 猪都子	
担当教員名 / Instructor	林 猪都子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	妊娠期、分娩期の生理と異常および心理・社会的特徴とその看護について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の生理的变化について述べるができる。 2. 妊娠期・分娩期の母親と胎児の状態をアセスメントすることができる。 3. 妊娠中の母親と胎児の管理について述べるができる。 4. 妊婦・産婦の正常や異常経過およびその看護について述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 妊娠の生理 02. 妊娠の経過 03. 妊婦と胎児のアセスメント/母体と胎児の管理 04. 妊婦の看護 (1) 妊娠の届け出、健康診査、妊娠中の食生活 05. 妊婦の看護 (2) 日常生活の過ごし方と保健指導 06. 妊娠の異常と看護 (1) 妊娠悪阻、流産・早産、妊娠高血圧症候群 07. 妊娠の異常と看護 (2) 妊娠貧血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、多胎妊娠、糖代謝異常合併妊娠 08. 分娩の定義/分娩の生理 09. 分娩の経過/産婦の看護 10. 産婦の異常と看護 	
その他の授業の工夫	講義前に確認テストを実施し知識の定着を図る。	
時間外学修	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]のテキストに目を通して講義に臨む。 講義で学んだ内容を復習して、次回講義前に実施する確認テストに臨む。	
評価方法と評価割合	原則として4回以上の欠席は評価の対象としない。 授業中の確認テスト(10%)、筆記試験(90%)から総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2](医学書院) 病気がみえる vol10 産科(メディックメディア) 講義の中で適宜資料を配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論を修得済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	林猪都子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	影山 隆之	
担当教員名 / Instructor	影山 隆之	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	生物 - 心理 - 社会的存在である人間の健康を主に心理社会的側面から理解するために必要な視点と知識の基礎を学び、心の健康についてのアセスメントで活用できるようになる。精神看護の歴史的反省をふまえつつ、当事者支援におけるリカバリーという考え方を説明できるようになる。	
到達目標	1. 健康日本21における心の健康の概念を、国際生活機能分類と関連付けて説明できる。 2. 心の健康を発達・精神力動・家族・ストレス・悲嘆・危機という観点から説明できる。 3. 心の機能と関連付けて主な精神症状を説明できる。 4. 日本の精神医療史における人権問題をふまえて、精神保健医療福祉が目指すことを、一次・二次・三次予防の観点から説明できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 健康な心の成り立ち 02. 精神力動と防衛機制 03. 心の発達 04. 家族と心の健康 05. ストレス論 06. 悲嘆と危機 07. 心の機能と精神症状 08. 主な精神障害(mental disorders) 09. 精神保健医療福祉の歴史と現在のしくみ 10. 現代社会と心の健康・自殺予防	
その他の授業の工夫	購入テキストの重点箇所について別途の印刷資料を配布し、資料中の質問について授業中に討論する。出席確認を兼ねたリアクションペーパーを毎回提出し、質問等には学内ウェブを通じて回答する。	
時間外学修	印刷資料を事前に配布するので、資料中の質問について授業前に考えてから授業に臨む必要がある。印刷資料と購入テキストの関係を授業後に確認し、後日の振り返りに備える。	
評価方法と評価割合	出席と授業参加10%、最終筆記試験90%	
テキスト	精神看護学1 精神看護学概論/精神保健(メヂカルフレンド社)	
参考書	学内ウェブに随時掲載する。	
履修する上で必要な要件	人間心理学関係の単位を取得していること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	影山隆之：離島の病院の精神科における訪問診療
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	地域精神保健福祉と医療の接続について双方の視点から授業する。	

開講科目名 / Course	家族看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、姫野 雄太、矢野 亜紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	家族看護では、家族全体を看護の対象と考え、家族の力を最大限に引き出し、家族全体の健康を目指して、未来の危機に備える力をつける支援が重要となる。これらの支援を行うために、家族看護では、多様な家族に対する理解を深めるため、理論やモデルをもとにアセスメントを行い、家族のニーズを理解したうえで看護が行えるようになることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護の特徴や理念、対象を説明できる。 2. 家族看護を支える理論と介入法を説明できる。 3. 家族看護展開の方法を説明できる。 4. 家族アセスメントモデルについて説明できる。 5. 事例に対して家族看護を展開できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 家族看護とは 02. 家族看護の対象理解 03. 家族看護を支える理論と介入法 04. 家族看護展開の方法 05. 家族看護展開の実際 06. 家族アセスメントモデル 07. 家族看護の実際（事例展開）（理論とモデル） 08. 家族看護の実際（事例展開）（家族アセスメント） 09. 家族看護の実際（事例展開）（家族看護計画） 10. 家族看護の実際（事例展開）（家族看護の介入と評価） 	
その他の授業の工夫	事例展開では、それまでの講義内容を活用でき、グループワークおよび発表の機会がある。	
時間外学修	事前課題や筆記試験により講義に関する予習や復習を行う。	
評価方法と評価割合	出席・態度（10%）、レポート・提出物（20%）、筆記試験（70%）	
テキスト	系統看護学講座 別巻 家族看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 姫野雄太：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして家族看護学の理論や知識について教育する。	

開講科目名 / Course	地域看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、佐藤 愛、小野 治子、木嶋 彩乃	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	地域包括ケアの時代に応じた地域看護の視点や方法論を学ぶ。	
到達目標	1. 地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割について説明できる。 2. 地域における看護職の活動について説明できる。 3. 地域において看護職に求められる役割や機能について説明できる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 地域看護学の概念と機能（地域の課題を知り、活躍するために） 02. 地域看護の歴史とこれからの展望、諸外国の地域看護と日本の現状 03. 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション） 04. 公衆衛生の現状と展開（健康の社会的決定要因と健康格差への取り組み） 05. 地域看護活動の場による特性（保健所と保健センター等） 06. 地域看護活動の実際（1）看護の対象となる「地域で暮らす人々」とは 07. 地域看護活動の実際（2）人々の健康に影響を及ぼす生活の場としての「地域」とは 08. 地域看護活動の実際（3）人々が暮らす「地域の特性」をアセスメントする：地域の看護活動システム 09. 地域看護活動の実際（3）人々が暮らす「地域の特性」をアセスメントする：地域看護活動の展開過程 10. 地域看護活動の実際（3）人々が暮らす「地域の特性」をアセスメントする：地域診断とアセスメント	
その他の授業の工夫	地域看護と公衆衛生の実践者による講義が含まれる。	
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、地域看護に関する用語やシステムの理解を深めること。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び授業参加態度により総合的に評価する（評価配分：筆記試験90%、授業参加態度10%）。 なお、筆記試験の受験資格は、出席が7回以上とする。	
テキスト	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美：保健所の保健師、小学校・中学校・高等学校の養護教諭 小野治子：看護協会職員、高等学校の養護教諭 佐藤愛：病院の保健師 木嶋彩乃：市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	県保健福祉部の医師
実務経験をいかした教育内容	担当教員それぞれが、医療機関および行政機関で保健師として保健活動を実践してきた豊富な経験、養護教諭として学校での保健活動を実践してきた経験もとに学生を指導する。また、保健所長の経験のある医師が講義を行う。	

開講科目名 / Course	国際看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、丸山 加菜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	世界の人々を看護の対象としてとらえ、世界の保健医療に関する現状と課題について学び、その背景や対策について考察する。また、訪日外国人や日本国内の在留外国人への健康支援に関して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。	
到達目標	1. 国際看護 (Global Nursing) の主要概念について述べるができる。 2. 世界の保健医療に関する課題と看護の役割を関連づけることができる。 3. 多様な文化社会的背景をもつ対象者の看護についての視点を述べるができる。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、 5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 国際保健 (Global Health) / 国際看護 (Global Nursing) の主要概念 02. 国際保健 (Global Health) の課題と持続可能な開発目標 (SDGs) 03. 世界の健康問題: 感染性疾患、非感染性疾患、傷害と暴力 04. 世界の健康リスク: 環境問題、貧困 05. 国際保健における国際機関・国際組織の概要 06. 多様な文化社会・言語的背景を持つ対象者への看護 07. 国際協力と看護 (1) JICAデスク大分との共同ワークショップ 08. 国際協力と看護 (2) 事例 (グループワーク) 09. 世界の健康課題に対するWHOの取り組み、ユニバーサルヘルスカバレッジ他 10. 海外で看護師として働く	
その他の授業の工夫	講義で得た知識をワークショップ/グループワークで事例に適用し、ディスカッションする機会がある。海外での看護実践者の講義を含む。	
時間外学修	事前学習として、テキストの該当範囲を熟読しておく。 講義で扱った内容について復習するとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して理解を深める。	
評価方法と評価割合	数回の講義テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計: 30% 筆記試験: 70%	
テキスト	看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために (南江堂)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] (医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子: 病院の看護師、助産師、保健師、海外教育機関との国際交流活動 丸山加菜: 病院の看護師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師、助産師、保健師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や国際交流活動に関する経験をふまえ、グローバル社会における看護について学生に指導する。	

開講科目名 / Course	看護管理学概論I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	看護管理概論 では、看護を取り巻く社会背景と共に看護管理の基本となる概念を学習する。保健医療福祉政策とその動向および法令について理解を深め、看護管理の基盤となる知識を学ぶ。また、看護職とキャリアや多職種との協働・連携について理解し、ヘルスケアの現場において安全で質の高い医療と看護を提供するための基本的なしくみについて学ぶ。	
到達目標	1. 看護管理の基本となる概念を説明できる。 2. 保健医療福祉政策とその動向および法令について説明できる。 3. 看護職とキャリアや多職種との協働・連携について説明できる。 4. 安全で質の高い医療と看護を提供するためのしくみについて説明できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 看護職の活動の変遷 02. 看護管理とは 03. 看護管理の基盤となる知識 04. 保健医療福祉政策と動向 05. 看護管理に関する法令 06. 看護職とキャリア 07. 専門職とは 08. 多職種との協働・連携 09. 安全管理（組織とリスクマネジメント） 10. 安全管理（業務上の危険因子とその対応）	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前課題や筆記試験、レポートにより講義に関する予習や復習を行う。	
評価方法と評価割合	出席・態度（10%）、提出物（20%）、筆記試験（70%）	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして看護管理の理論や知識について教育する。	

開講科目名 / Course	看護の倫理	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	平野 互	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、平野 互	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>看護専門職に必要な倫理的態度、生命倫理・医療倫理の基礎知識と倫理的判断能力を習得することを目的とする。</p> <p>Bioethics (生命倫理) と看護の倫理規定に関する基本原則を理解し、倫理的判断の基本を学ぶ。さらに、看護職の直面する諸々の倫理的課題の解決に向け、事例演習を通じて、保健・医療・福祉における倫理的課題の存在と倫理的意思決定について学ぶ。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Bioethics (生命倫理) と医療倫理に関する基本原則を説明できる。 2. 看護専門職者としての責任と倫理原則を説明できる。 3. 保健・医療・福祉における患者・利用者の権利を説明できる。 4. 保健・医療・福祉における種々の倫理的課題を分析・評価できる。 5. 倫理的課題を解決するための方法を考察できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. Bioethics : 生命倫理の展開と課題 02. Professionの責任と倫理、看護の倫理規程 03. 看護職の価値観と文化、社会規範 04. 医療従事者の事故対応と責任 05. 臨床倫理：倫理的判断の方法 06. 意思決定にかかわる倫理 07. 人間の尊厳、個人の尊重と自立支援 08. 生殖補助医療にかかわる倫理 09. 出生前診断と倫理 10. End of lifeに関わる倫理 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに具体的な事例を取り上げる事例演習を行う。 ・ミニ・レポートで学びを振り返り、質問を受け付ける。 	
時間外学修	テキストを用いて事例演習を行うため、テーマに関連するテキストの事例を予習すること。	
評価方法と評価割合	授業の際に提出を求めるミニ・レポート 20%、 期末レポート 80%	
テキスト	ケースブック 医療倫理 (医学書院) 毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	第1段階看護技術演習（2年次生）
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
開講区分 / semester offered	後期
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2
主担当教員 / Main Instructor	森 加苗愛
担当教員名 / Instructor	森 加苗愛
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
科目の目的と概要	<p>本科目は「看護技術修得プログラム」のファーストステップの位置づけである。卒業時には全員が、看護実践の基本的能力として幅広い視野から人間と人間生活を理解し、倫理観をもって行動する態度と姿勢を確実に身につけること、さらに、自己研鑽しながら看護実践能力を高めていく姿勢をもつことを目的とする（アクティブラーニング）。</p> <p>提示された事例課題について援助技術の実施ができるように、教員からアドバイスを受けながら各自や各グループで練習し、実践した援助技術に対する評価を行う。</p>
到達目標	<p>対象への日常生活援助を一人で実施できる能力を身につけることができる。具体的には以下の5点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活援助技術の根拠を再確認して説明することができる。 2. 患者に応じた援助方法を選択して説明することができる。 3. 援助の際のリスクを判断し、説明することができる。 4. 援助の際、患者の反応を捉えつつ安全・安楽を確保した実践ができる。 5. 自己が実践した生活援助技術について評価を行うことができる。
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観
授業計画	<p>01. オリエンテーション</p> <p>02. グループメンバーおよび担当教員との打ち合わせ、今後の演習の計画立案</p> <p>03-05. グループワーク：課題事例の看護援助に関する取り組み</p> <p>06-08. ワークノート指導：ワークノートに対する担当教員からの指導・評価・修正</p> <p>09-11. 課題に対する技術チェック演習・担当教員からの指導</p> <p>12-13. 看護技術演習のまとめ、振り返り</p>
その他の授業の工夫	<p>・2年次の3段階実習終了後から3年次の4段階実習までの期間にあたり、自己の課題を明確にして主体的に技術演習に取り組むことができる。</p> <p>・1事例に対し2つの課題を提示し、メンバー全員が同じ事例で共通認識できるよう工夫されている。</p> <p>・事例課題へのワークの取り組みや看護技術演習においては、学生6～8名のグループを1名の看護系教員が担当し、指導を行う。学生のニーズに応じて個別ならびにグループ指導ができる指導体制が確保されている。</p>
時間外学修	<p>・基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p> <p>・実習室の使用にあたっては、学内実習ガイドブックを参考にする。</p> <p>・e-ラーニングの学習環境として、Nursing Skillsの利用は学内PCも学外（自宅PC、タブレット、スマートフォン）もいずれも可能である。</p>
評価方法と評価割合	<p><技術チェック></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ内の1名の学生に行い、その評価をグループ全員の技術評価とする。 2) 各グループで作成したワークノートの援助実施方法に沿って評価する。 3) 技術評価基準は以下とする。 <p>合格：「きちんと実施できる」「多少難があるが、ほぼ実施できる」「安心」 「完ぺきではないがほぼできている」「多少努力が必要」 不合格：「全く実施できない」「ほぼ実施できない」「実施しなかった」 「実施はしたが、患者に危険・苦痛を与えている」</p> <p><全体的取組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ワークノートへの取組み、技術練習の取組み、技術チェック時の方法、手際、所要時間などの要素を総合的に評価する。基本は「合格」とし、総合的にみて「取り組んでいない」と判断する場合は「不合格」とする。 <p>【合格判定基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 可否の判定は<技術評価>と<全体的取組み>の評価で行う。 2) 技術評価及び全体的取組みにおいて、ともに合格のものを合格とする。
テキスト	決まったテキストは使用しない。学生各自がグループ学習を進めながら、課題事例に応じてe-ラーニングや参考図書を活用すること。
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	オリエンテーションで資料を配付して説明を行うので出席すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	森加苗愛：病院の看護師 看護系教員10名程度：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	根拠に基づいた知識・技術と豊かな臨床経験を学生指導に活かす。	

開講科目名 / Course	教育学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	鈴木 篤	
担当教員名 / Instructor	鈴木 篤	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	1. 教育に関する本質的理念について、これまで自らが有してきた理解を問い直す。 2. 教育についての基礎理論・思想を理解し、説明することができる。 3. 教育の歴史的発展過程を理解し、今後の変化についての見通しを持つ。	
到達目標	1. 学校教育の具体的場面を取り上げながら、教育に関する理念・思想・歴史についての知識と理解を深める。 2. 学校教育について俯瞰的に説明できる。	
DPとの対応	3. 心豊かな人間性と倫理観、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 「教育」とは何か（教育の理念1） 02. 学校教育の長所と短所（教育の思想1） 03. 「子ども理解」とは何か（教育の理念2） 04. 学校教育の歴史（教育の歴史1） 05. 教育の「評価」とは何か（教育の理念3） 06. 体験の教育的意味（教育の思想2） 07. 「共同体」としての学校（教育の理念4） 08. 「反省的实践家」としての教師（教育の理念5） 09. 養護教諭の歴史（教育の歴史2） 10. 現代的教育課題	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供も行う。 ・具体的な教育場面をもとに、受講者が話し合う機会を設ける。	
時間外学修	・各回の授業末で指示された課題に取り組む。 ・講義回ごとに復習し、配布資料に基づき、関連事項を整理し、理解すること。	
評価方法と評価割合	本授業では、講義内容について理解が十分かどうかを基準に評価を行う（100%、定期試験では自らの作成した手書きのノートのみ参照可）。なお、教員の免許状取得のための必修科目であることから、教師としての資質能力育成のため、教職志望者として不適切な受講態度を減点の対象とする。	
テキスト	毎回ハンドアウト、資料を配布する。	
参考書	教師という仕事・生き方 若手からベテランまで教師としての悩みと喜び、そして成長（日本標準） 5年3組リョウタ組（角川書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	学校教育心理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤田 文	
担当教員名 / Instructor	藤田 文	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	教職課程や心理学における教育心理学の位置づけから入り、発達、知能、パーソナリティ、学習などの個々の生徒を理解するために必要な知識を習得する。さらに、教員としての教育心理学的な知識として授業の方法や評価などについて理解する。	
到達目標	1. 教育の場に必要な心理学的な知識を取得する。 2. 自ら積極的に、教育現場に必要な心理学の知識とは何かを考え、他者と共有する。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 教育心理学とは何か 02. 欲求・動機づけ 03. 学習（連合説） 04. 学習（認知説、その他） 05. 記憶（理論） 06. 記憶（方略） 07. パーソナリティ 08. 学級集団 09. 授業の方法 10. 教育評価 11. 子どもの発達段階の特徴と発達課題 12. 乳・幼児期の発達（1）アタッチメント、インプリンティング、生理的早産 13. 乳・幼児期の発達（2）言語と運動機能の発達 14. 幼児・児童期の発達（1）ピアジェ理論・認知発達 15. 幼児・児童期の発達（2）心の理論 16. 社会性の発達と学級集団指導の基本的原理 17. 青年期の発達（1）自己の発達・アイデンティティ・心理的離乳 18. 青年期の発達（2）道徳性の発達・自尊感情 19. 障がいをもつ子どもたちの理解（1）身体機能、視聴覚の障がい 20. 障がいをもつ子どもたちの理解（2）発達障がい	
その他の授業の工夫	・適宜、映像教材を用いて受講者の興味がわくようにする。 ・グループワークや意見発表の機会を設け、主体的参加を促進する。	
時間外学修	復習課題を出して、成績評価に加える。	
評価方法と評価割合	最終テスト（80％）、復習課題（20％）	
テキスト	発達と老いの心理学（サイエンス社）	
参考書	教育心理学・新版～教職を目指す人への入門書（川島書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	教育課程論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	今井 航	
担当教員名 / Instructor	今井 航	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	将来教員として授業を計画する際、国の定める基準、即ち学習指導要領に則り授業内容を自ら構成できるようになるための基礎力が養成される。そうした目標に到達するため、「教育課程とは何か(その形態・原理)」及び「学習指導要領とは何か」の問いの下、授業は進められる。	
到達目標	1. 受講学生自らが初等・中等教育段階で経験してきた教育課程の諸特徴を踏まえ、教育課程への関心を高める。 2. 学習指導要領の歴史的変遷を認識すると同時に、その改訂の最新の動向を説明する。 3. 教育課程の構造及び編成原理を捉え、学校の教育活動を教育課程という視点から説明する。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 教育課程のガイダンス(経験を振り返る) 02. 生活科や、総合的な学習の時間、或いは特別活動、更には外国語活動 03. 学習指導要領の特徴 1 歴史的変遷の概要、現行の学習指導要領 04. 学習指導要領の特徴 2 昭和22年版、昭和26年版、昭和33年版、昭和43年版 05. 学習指導要領の特徴 3 昭和52年版、平成元年版、平成10年版、改訂の最新動向 06. 現行の学習指導要領の総則を読む 07. 教育課程の構造 1 学校段階別にみられる教育課程の構造 08. 教育課程の構造 2 保育所・幼稚園や、特別な支援を要する児童・生徒の教育課程 09. 教育課程の原理 1 教育課程の歴史(戦前の教科課程) 10. 教育課程の原理 2 教職課程の思想(教科・教科外の2領域論と類型論)	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトにより最新教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	授業計画に基づき、事前にテキストを読んでくること。	
評価方法と評価割合	試験結果(学期末試験100%)。授業で扱った内容に基づき、到達目標及びテーマを踏まえながら作成された各問に、正確に答えられるかどうか、語句による記述式や記号選択式の問題により問う。なお、受講態度についても評価の対象とする。	
テキスト	以下に示す学習指導要領の本体と解説総則編 ・高等学校学習指導要領(平成30年告示) ・中学校学習指導要領(平成29年告示) ・小学校学習指導要領(平成29年告示) 以下のいずれかの辞典/事典 ・新版 教育小事典第3版(学陽書房) ・教育用語辞典(一藝社)	
参考書	よくわかる教育課程(ミネルヴァ書房) 「第5章 教育課程を考える」、新版 はじめて学ぶ教育の原理(学文社)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

3 年次開講科目

前期開講

開講科目名 / Course	生体薬物反応論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	医療において、薬物療法の重要性は高く、医療現場において、看護師が医薬品を取り扱う機会は多い。取り扱う医薬品に対する理解が不十分であると医療事故の原因になるため、本科目を設定している。各種疾患で使用する医薬品の特徴を理解し、看護師として疾患の薬物療法および医薬品による医療事故の予防に関する知識を修得する。	
到達目標	1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 看護師として医薬品の知識が必要となる理由を理解できる。 3. 各種疾患治療薬の作用機序、副作用などの特性を説明できる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 消化器治療薬 02. 抗悪性腫瘍薬 03. 鎮痛薬 04. 麻酔薬、不眠症治療薬 05. 抗不安薬、抗うつ薬、統合失調症治療薬 06. 抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬 07. 抗アレルギー薬、リウマチ治療薬 08. ホルモン製剤、泌尿器疾患治療薬、漢方薬 09. 鎮咳薬、去痰薬、気管支ぜん息治療薬、呼吸促進薬 10. 利尿薬、輸液製剤、解毒薬、貧血治療薬、抗血栓療法薬	
その他の授業の工夫	実際の処方内容を例示し、治療薬の理解を深める。	
時間外学修	提示した処方内容について、対象疾患、副作用、使用するにあたり、注意すべき点（患者指導を含む）をまとめること。	
評価方法と評価割合	試験（100％） 試験で60点以上得点。なお、本試験で30点未満の場合、再試験の受験を認めない。	
テキスト	わかりやすい薬理学 第2版（ヌーヴェルヒロカワ） 今日の治療薬（南江堂）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	成人・老年看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、森 加苗愛、佐藤 栄治、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	健康課題（問題）をもつ成人および高齢者の急性期、回復期、慢性期の対象に必要な援助を検討し、看護過程の展開の思考と看護技術を学内で習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける成人紙上患者のアセスメントが説明できる。 2. 手術後患者の観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護援助を演習で実施できる。 3. 術後合併症を予防するための看護技術を実施できる。 4. 模擬高齢者の身体的・心理的・社会的変化、生活暦を踏まえた全体像を説明できる。 5. 認知症の高齢者の特性や看護について説明できる。 6. 高齢者の多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について説明できる。 7. 高齢者の個性を踏まえた生活の質を支える看護について説明できる。 8. グループワークで自己の考えを述べ、議論することができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01-02. ガイダンス 紙上成人事例の看護過程の展開 事例提供、アセスメント 03-04. 紙上成人事例の看護過程の展開 アセスメント 05-06. 紙上成人事例の看護過程の展開 統合 看護計画 07-08. 紙上成人事例の看護過程の展開 術直後看護実践 09-10. 紙上成人事例の看護過程の展開 看護計画修正・評価 11-12. 紙上成人事例の看護過程の展開 看護要約 継続看護 13-14. 術後看護実践演習：脳外科系疾患事例の理解と看護実践 15-16. 術後看護実践演習：消化器系疾患事例の理解と看護実践 17-18. 老いとは、高齢者とは、高齢者疑似体験 19-20. 高齢者疑似体験、グループ討議、発表 21. 認知症高齢者の理解と看護：事例の課題検討 22-23. 認知症高齢者の理解と看護：グループワーク 24. 認知症高齢者の理解と看護：プレゼンテーション 25-26. 多様な高齢者を支える多職種・関係機関との連携協働：事例検討 27-28. 多様な高齢者を支える多職種・関係機関との連携協働：グループワーク 29-30. まとめ 詳細は別途資料を配布する。授業の順序は変更する可能性がある。	
その他の授業の工夫	看護の質を高めるために学生間でグループディスカッションを行う時間がある。	
時間外学修	紙上事例や課題について、上記授業時間以外にもテキストや図書を使用し課題様式にまとめ、指定期限内に提出する。	
評価方法と評価割合	個人課題の内容（50％）、グループ討議、ロールプレイへの参加度（50％）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（医学書院） 他	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：看護師 森加苗愛：看護師 堀裕子：看護師 中釜英里佳：看護師 佐藤栄治：看護師 宿利優子：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師

実務経験をいかした教育内容

全教員が看護師として実務経験がある。様々な領域での臨床看護師としての経験を踏まえて、臨床現場のリアリティがある教育を行う。

開講科目名 / Course	老年看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、森 加苗愛、堀 裕子、佐藤 栄治、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	介護老人福祉施設および介護老人保健施設に入所している高齢者（要介護者）の生活を理解し、生活の維持・向上をめざした援助や高齢者を支援する多職種連携システムを学ぶ。また多職種と協働した高齢者の援助を体験することで、老年看護の専門性や看護者の役割を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者施設で生活している高齢者の全体像について述べるができる。 2. 老年期に生じる多様な健康上の問題と、健康の維持・増進について述べるができる。 3. 高齢者の生活の質を維持・向上するための援助が説明できる。 4. 高齢者の健康生活を支援する多職種連携体制と看護の役割を説明できる。 5. 高齢者を尊重した基本的態度で参加できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習期間 前半：2021年9月6日～9月10日、後半：2021年10月18日～10月22日</p> <p>実習場所 大分県の介護老人保健施設および介護老人福祉施設 前半・後半各6ヶ所に分かれて実習を行う。</p> <p>実習方法 施設に入所している高齢者を1名担当し高齢者のより良い生活を目指した看護援助を実践する。また、デイサービス・デイケアを利用する地域高齢者との交流から、生活の維持・向上をめざした援助や高齢者を支援するシステムを体験する。実習期間中はデイリーカンファレンスおよび最終カンファレンスを実施し、担当事例の看護実践の発表を行い、高齢者の看護援助の看護の質を高めるための議論を行う。</p>	
その他の授業の工夫	担当した高齢者をアセスメントし、臨地実習指導者の下で援助を展開する。実習最終日には施設にて指導者とカンファレンスを実施し、学びをプレゼンテーションする場を設ける。	
時間外学修	担当高齢者についてのアセスメントや看護計画などは、テキストや図書を使用し、課題様式にまとめて学習をすすめる。課題様式は指導教員に提出し指導を受ける。	
評価方法と評価割合	出席状況（原則全日出席）、実習態度、実践内容、グループ討議の参加度、レポートの内容で総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	感染症等の疑いがある場合は、高齢者施設での実習ができませんので体調管理に留意して臨んでください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：看護師 森加苗愛：看護師 堀裕子：看護師 中釜英里加：看護師 宿利優子：看護師 佐藤栄治：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	高齢者施設に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設で暮らす高齢者の個別性のある看護や多職種連携を提示し実演できる。	

開講科目名 / Course	成人看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、森 加苗愛、堀 裕子、佐藤 栄治、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	急性期および回復期にある成人期の対象に、身体的・心理的・社会的状況をアセスメントし、チームの一員として適切な看護が実践できる力を身につけ、自己の看護観を発展させる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期および回復期にある対象を理解することができる。 急性期および回復期にある成人との良好な援助の人間関係の下で、必要な看護を判断・実践できる。 急性期および回復期にある成人に実践した看護援助を評価できる。 急性期および回復期にある成人に必要な社会資源の活用について説明できる。 急性期および回復期看護における看護職の役割と医療チーム内での連携について説明できる。 急性期および回復期の看護実践を通して自己の看護観を述べることができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習期間 2021年9月13日～10月15日、10月25日～11月26日の期間の2週間</p> <p>実習場所 大分県立病院、大分赤十字病院にて実施する。</p> <p>実習方法 急性期及び回復期にある対象1～2名を担当し看護過程を展開する。実習期間中は中間および最終カンファレンスを実施し、担当事例の看護実践をプレゼンテーションし、看護の質を高めるための議論をする。</p>	
その他の授業の工夫	臨地実習指導者のもとで学生が臨地看護師と連携し、相談・報告を行いながら実習を展開する。実習中間・最終日には施設にて指導者とカンファレンスを実施し、学びをプレゼンテーションする場が設けられる。	
時間外学修	担当患者のアセスメントや看護計画などはテキストや図書を使用しながら課題様式にまとめ思考を整理する。課題様式は適宜指導教員に提出し指導を受ける。	
評価方法と評価割合	出席状況（原則全日出席）、実習態度、実践内容、グループ討議の参加度、レポートの内容で総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2-15]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：看護師 森加苗愛：看護師 堀裕子：看護師 中釜英里佳：看護師 宿利優子：看護師 佐藤栄治：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習病院の看護師
実務経験をいかした教育内容	病院での看護の実際を実演し、患者の個別性のある看護について指導をする。	

開講科目名 / Course	成人看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名 / Instructor	小野 美喜、宿利 優子、森 加苗愛、堀 裕子、佐藤 栄治、中釜 英里佳	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	慢性期および終末期にある対象に身体的・心理的・社会的状況を総合的に捉え、チームの一員として適切な看護が実践できる力を習得し、自己の看護観を発展させる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期および終末期の対象を理解することができる。 2. 慢性期および終末期の対象との良好な援助的人間関係の下で、必要な看護を判断実施できる。 3. 慢性期および終末期の対象に実践した看護を評価できる。 4. 慢性期および終末期の対象に必要な社会資源について述べることができる。 5. 慢性期および終末期の看護の役割および医療チーム内での連携について述べるができる。 6. 慢性期および終末期の看護実践を通して自己の看護観を述べるができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	実習期間 2021年9月13日～10月15日、10月25日～11月26日の期間の2週間 実習場所 大分県立病院、大分赤十字病院にて実施する。 実習方法 慢性期及び終末期にある対象1～2名を担当し看護過程を展開する。実習期間中は中間および最終カンファレンスを実施し、担当事例の看護実践をプレゼンテーションし、看護の質を高めるための議論をする。	
その他の授業の工夫	臨地実習指導者の下で学生が臨地看護師と連携し、相談・報告を行いながら実習を展開する。実習中間・最終日には施設にて指導者とカンファレンスを実施し、学びをプレゼンテーションする場が設けられる。	
時間外学修	担当患者についてのアセスメントや看護計画などはテキストや図書を使用し、自分の思考を課題様式にまとめる。課程様式は適宜指導教員に提出し指導を受ける。	
評価方法と評価割合	出席状況（原則全日出席）、実習態度、実践内容、グループ討議の参加度、レポートの内容で総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2-15]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：看護師 森加苗愛：看護師 堀裕子：看護師 中釜英里佳：看護師 宿利優子：看護師 佐藤栄治：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	病院での看護の実際を実演し、患者の個別性のある看護について指導をする。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習（3年次）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、影山 隆之、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者への機能低下予防対策について考察することができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域の取り組み（自治体の取り組み等を含む）を考察することができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションについて考察することができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者が健康生活を継続するための支援を提案できる。 2. 健康生活を継続するための支援を、協力者の個性に応じて実践することができる。 3. 協力者に必要な援助の方法をチームメンバーに伝えることができる。 4. チームメンバーで相互協力しながら協力者への援助が継続できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	実習期間：2021年4月～2022年1月 実習場所：富士見が丘団地、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等 実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。実習の頻度・回数はひとりあたり年間4回以上訪問する。	
その他の授業の工夫	他学年のグループメンバーと協力しながら、年4回以上の訪問を行う。協力者の都合などで訪問計画がうまく進められない場合は、看護研究交流センターや担当教員に相談すること。	
時間外学修	訪問前後にチームでミニカンファレンスをする（参加できない人はメールでも可）。訪問後、各自の訪問記録を作成提出する。	
評価方法と評価割合	以下の1～4により総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問回数：100%訪問することを原則とする。ただし、訪問後のレポートを訪問毎に作成し、提出したことで訪問したとみなす。また最終レポートの提出をもって所定の回数を訪問したとみなす。 2) 実習内容 3) 実習態度 4) 訪問後のレポート・最終レポート内容 	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院における看護活動 篠原彩：病院における看護活動 影山隆之：離島における訪問診療
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	小児看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	高野 政子	
担当教員名 / Instructor	高野 政子、草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	小児の発達過程の特質を理解するための主要理論に基づき、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と保育技術を習得する。また、小児の病態について理解し、小児の健康障害を持つ小児とその家族への看護について深く学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の各期における成長・発達の特徴を説明できる。 2. 小児とその家族や環境（状況）による看護について説明できる。 3. 小児の特徴的な疾病の経過と看護について説明できる。 4. 障害のある子どもの特徴と家族への看護を説明できる。 5. 小児領域の特徴的な疾病と病態・治療について説明できる。 6. 小児領域の特徴的な疾病について看護を説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 幼児前期の成長発達と課題 02. 学童期・思春期・青年期の成長発達と課題 03. 病気をもつ小児と家族看護 04. 在宅療養児の支援と災害時の小児と家族の看護 05. 小児の状況（環境）による看護の特徴（入院時の看護、外来看護） 06. 小児における疾病の経過と看護（急性期、慢性期、周手術期） 07. 親子関係に問題のある場合の看護（育児不安、児童虐待） 08. 障害のある小児の理解と看護（障害の分類、重症児、肢体不自由など） 09. 障害のある小児の理解と看護（障がい児の栄養、摂食障害と看護） 10. 小児の感染症と予防接種 11. 小児の病態と看護1（不機嫌・痛み・呼吸困難・チアノーゼ） 12. 小児の病態と看護2（発熱・けいれん・ショック） 13. 小児の病態と看護3（電解質異常・下痢・嘔吐・脱水・便秘） 14. 小児の呼吸器系疾患と看護 15. 小児の内分泌・アレルギー疾患と看護 16. 小児の循環器系と運動器疾患と看護 17. 小児の消化器疾患と看護 18. 小児の血液・造血器・悪性疾患と看護 19. 小児の腎・泌尿器疾患と看護 20. 小児の脳神経疾患と看護 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の疾患とその特徴については講義の前に個人での調べ学習をして提出する。 ・小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。 	
時間外学修	小児の疾患については、講義前に予習レポートの提出を求める。	
評価方法と評価割合	筆記試験（90%）、レポート提出状況（10%）等を総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	高野政子：病院のNICU、小児病棟、小児科外来の看護師 草野淳子：保健所の保健師 足立綾：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義では、臨床で経験した事例を話して、テキストの内容を具体的に説明する。	

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	高野 政子	
担当教員名 / Instructor	高野 政子、草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	<p>主要な小児の疾患の病態と治療・看護の要点を学び、小児と家族に対する援助方法を学ぶ。また、小児の健康障害を保健・医療・教育など総合的な観点から捉え、紙上事例を通して看護上の問題を抽出し必要な看護ケアなど看護過程を展開して学ぶ。また、小児看護における看護援助技術を習得する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の主要な疾患の病態と治療・看護の要点を説明できる。 2. 小児の健康障害に対して、小児と家族への看護を説明できる。 3. 小児の紙上事例について看護過程を展開できる。 4. 小児看護で用いる援助技術を習得できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児の看護過程 02. 小児事例の看護過程の展開 (GW) 03. 小児と家族とのコミュニケーション 04. 小児の薬物療法 05. 小児の救急法 (講義) 06. 小児の救急法 (演習) 07. 小児のフィジカルアセスメント (講義) 08. 小児看護技術演習 (1) バイタルサイン測定等 09. 小児看護技術演習 (2) 吸引、経管栄養等 10. 小児看護技術演習 (3) 静脈点滴固定法等 11. 急性 (川崎病) の事例検討 12. 慢性期 (糖尿病) の小児の事例検討 13. 手術を必要とする小児の事例検討 14. 終末期の小児がんの事例検討 15. 脳性まひの小児の事例検討 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は講義形式が中心である。後半はアクティブラーニングを基本とする。 ・疾患等の個人ワークとグループワークで調べ学習をした後、発表する。 ・高機能シミュレータやモデル人形などを多用して技術を実践的に指導する。 ・視聴覚教材を活用して各技術項目の内容をイメージできるように工夫している。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークとグループワークによる課題提出。 ・技術習得については、実習室での練習を支援するので、教員への申し出により可能である。 	
評価方法と評価割合	筆記試験 (90%)、出席 (5%)、個人ワークとグループワーク等への参加状況 (5%) などを総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2] (医学書院) 写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	小児看護学実習のガイダンスおよび保育所実習ガイダンスを別途行う。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	高野政子：病院のNICU、小児病棟、小児科外来の看護師 草野淳子：保健所の保健師 足立綾：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義では、臨床で経験した事例を話して、テキストの内容を具体的に説明する。	

開講科目名 / Course	小児看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	高野 政子	
担当教員名 / Instructor	高野 政子、草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	保育所実習では9施設に分かれて、各自3日間の実習を行う。その後、9月からは総合病院と重症心身障がい児センターの2つの医療機関で7日間の実習を行う。健康な小児とのコミュニケーションをとり成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。 2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施できる。 3. 保育の特徴と支援する大人の関わり方を述べるができる。 4. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題を上げ看護過程を展開できる。 5. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<p>実習期間：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所実習は2021年7月21日から8月4日（各自が3日間） 2) 病院実習は、2021年9月～11月（7日間） <p>実習施設：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所実習は、市内9施設に分かれての実習 2) 病院は、大分県立病院（小児病棟）と別府発達医療センターの2施設に分かれての実習 <p>実習方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を実践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を実践する。 ・病院実習：学生は1人で患児1名を受け持ち、看護計画を立案し看護過程を実践する。受け持ち患児以外の小児に行われる検査・処置にも積極的に参加する。 ・実習中の記録は実習時間外の自己学習となる。 <p>*実習オリエンテーションは7月上旬に行い、詳細を説明する。</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所実習では、2～3人で配置されるので、主体的に受け持つクラスで実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗い法」の健康指導を行う。 ・病院実習の外来実習では看護師についてシャドー実習をして指導を受ける。諸計測などは積極的に実施する。 	
時間外学修	実習で得られた情報やアセスメント、看護計画の立案などは学生個人の実習時間外となる。	
評価方法と評価割合	原則100%出席すること。 実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、看護記録、ファイナルレポートで5領域100点満点として、総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院） 写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	高野政子：病院のNICU、小児病棟、小児科外来の看護師 草野淳子：保健所の保健師 足立綾：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習施設では、日々の指導は、児の受け持ち看護師の指導を受ける。
実務経験をいかした教育内容	実習施設の看護師は実習指導者となり、実習に関わり、カンファレンスに参加して頂き、受け持つ児の児や家族への看護について情報提供やアドバイスする。	

開講科目名 / Course	母性看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	林 猪都子	
担当教員名 / Instructor	林 猪都子、徳丸 由布子、永松 いずみ	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	分娩期、産褥期、新生児の生理と異常および心理・社会的特徴とその看護について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の異常と看護について述べるができる。 2. 産褥期・新生児の生理的变化について述べるができる。 3. 母親と新生児の状態をアセスメントすることができる。 4. 褥婦・新生児の正常や異常経過およびその看護について述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 分娩期出血、産科処置等 02. 産褥期の経過 03. 褥婦のアセスメント 04. 産褥の異常と看護 05. 褥婦の看護 (1) 褥婦と家族の看護 06. 褥婦の看護 (2) 施設退院後の看護 07. 帝王切開を受ける産褥婦の看護 08. 新生児の生理 09. 新生児のアセスメント・看護 10. 新生児の異常と看護 	
その他の授業の工夫	事前学習ノートを完成させながら知識の定着を図る。	
時間外学修	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]のテキストに目を通して講義に臨む。	
評価方法と評価割合	原則として4回以上の欠席は評価の対象としない。 筆記試験(分娩期10%、産褥期60%、新生児30%)から総合的に評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2](医学書院) 病気がみえる vol10 産科(メディックメディア) 講義の中で適宜、資料を配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論 を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	林猪都子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	母性看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	林 猪都子	
担当教員名 / Instructor	樋口 幸、林 猪都子、徳丸 由布子、永松 いずみ、姫野 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	<p>妊娠期と産褥期、新生児期の正常・異常の看護について、グループ学習を通して学習を深め、看護実践に必要な知識を養う。</p> <p>ウェルネスの視点から周産期における母子とその家族の全体像を把握し、対象者の看護過程を通して必要な援助ができる基礎能力を養う。</p> <p>母子の特徴を理解して、母性看護に必要な看護技術を習得する。また、演習体験を通して、看護を受ける対象者の状況や心理を推察する。</p>	
到達目標	<p>1. 妊娠期、産褥期、新生児の生理や経過、その異常と看護について述べることができる。</p> <p>2. 妊娠期、産褥期、新生児期各期におけるアセスメントの枠組みに基づいたアセスメントから看護診断を導き、看護計画を立案することができる。</p> <p>3. 周産期に必要な母性看護技術を実践することができる。</p>	
DPとの対応	<p>1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力</p>	
授業計画	<p>01. 母性看護技術(1) 妊婦計測、新生児計測</p> <p>02. 母性看護技術(2) 沐浴</p> <p>03. 妊娠期の正常の看護/グループ学習</p> <p>04. 妊娠期の異常の看護(1) 妊娠悪阻、流産、早産、多胎妊娠、胎児発育不全/グループ学習</p> <p>05. 妊娠期の異常の看護(2) 妊娠高血圧症候群、糖代謝異常合併妊娠、前置胎盤、母子感染症等/グループ学習</p> <p>06. 産褥期、新生児期の正常の看護/グループ学習</p> <p>07. 産褥期、新生児期の異常の看護/グループ学習</p> <p>08. 母性看護過程：講義</p> <p>09. 母性看護過程：講義・事例提示</p> <p>10. 母性看護過程：事例検討・情報収集・アセスメント(1) /グループ学習</p> <p>11. 母性看護過程：事例検討・情報収集・アセスメント(2) /グループ学習</p> <p>12. 母性看護過程：事例検討・看護診断・看護計画(1) /グループ学習</p> <p>13. 母性看護過程：事例検討・看護診断・看護計画(2) /グループ学習</p> <p>14. 看護過程事例発表会(1)</p> <p>15. 看護過程事例発表会(2)</p>	
その他の授業の工夫	<p>妊娠期、産褥期、新生児期の正常・異常の看護や看護過程の演習は、各グループで実施し、お互いに意見交換することで学習内容を深める。</p>	
時間外学修	<p>母性看護援助論で学んだ講義内容やテキストに目を通し、知識を整理しておく。</p> <p>母性看護技術演習は学習課題を提示するので、事前学習をし、演習に臨む。</p> <p>看護過程のグループ学習は、必要に応じて学習内容を深める。</p>	
評価方法と評価割合	<p>全出席を前提とする。妊娠期の正常・異常の看護、産褥期、新生児期の正常・異常の看護(30%)、母性看護技術(20%)、母性看護過程(50%)とする。</p>	
テキスト	<p>ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図(医学書院)</p> <p>講義の中で適宜、資料を配布する。</p>	
参考書	<p>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程(医歯薬出版株式会社)</p>	
履修する上で必要な要件	<p>母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論を履修済みであること。</p>	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>林猪都子：病院の助産師</p> <p>永松いずみ：病院の助産師</p> <p>徳丸由布子：病院の助産師</p> <p>樋口幸：病院の助産師</p> <p>姫野綾：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容

エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。

開講科目名 / Course	母性看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	林 猪都子	
担当教員名 / Instructor	林 猪都子、徳丸 由布子、永松 いずみ、姫野 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<p>母体に宿った新しい命が健やかに生まれ、そしてこの世に誕生し、成長発達していく過程を健康面より援助することが母性看護の主な役割であり、母性看護学は、親になることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す学問である。そのため、母性看護学実習では、ウエルネスの視点から周産期における母子とその家族の全体像を把握し、対象の看護過程の展開を通して必要な援助が提供できる基礎能力を養う。また、母子及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割について理解するとともに、周産期医療における関連領域専門職者との連携について学ぶ。さらに、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を発展させる機会とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期の母子とその家族の特徴及び必要とされる看護援助について述べるができる。 2. 母性看護の対象者の個性やウエルネスの視点を踏まえた看護過程を展開し、実践できる。 3. 母子とその家族への援助に関わる他職種や地域社会との連携及び保健医療チームの一員として看護職者の役割について述べるができる。 4. 生命への尊厳の念を抱き倫理的にケアを実践できる専門職としての姿勢について述べるができる。 5. 看護実践上の課題を明確にして看護観を確立させ、自らの母性または父性について述べるができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<p>実習期間：2週間（2021年9月6日～11月26日） 実習施設：大分県立病院、堀永産婦人科医院、いしい産婦人科医院、サロンリラ/ディーなつ助産院 実習方法：妊産褥婦・新生児を受け持ち、母性看護学で学んだ看護を実践し、看護過程を展開する。</p>	
その他の授業の工夫	母性看護援助論、母性看護学演習で学んだ知識や技術を自己学習により整理し、知識を習得してから実習に臨む。	
時間外学修	課題を提示するので各自内容を整理し、知識を習得する。	
評価方法と評価割合	<p>全出席を前提とする。 実習態度と実習記録（看護過程も含む）等にて総合的に評価する。</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]（医学書院） 病気がみえる vol10 産科（メディックメディア） ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（医学書院）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論、母性看護学演習を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>林猪都子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師 姫野綾：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師、助産師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	

開講科目名 / Course	精神看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	杉本 圭以子	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、杉本 圭以子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	精神看護を実践するために必要になる知識、理論、技法について学ぶ。主な精神症状、精神疾患、入院環境及び地域生活支援の知識を整理しつつ、患者 - 看護師関係を基盤とした看護を具体的に学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象と精神看護の基本概念について説明できる。 2. 主な精神症状と精神疾患、精神科治療の概観を説明できる。 3. 精神看護におけるセルフケアのアセスメントの視点を説明できる。 4. 精神科病院の治療環境の特徴と看護師の役割について安全・人権の視点を含めて説明できる。 5. 精神障害を持つ人に必要な看護を症状と疾患、生活、ストレスの観点から説明できる。 6. 精神障害者の地域生活支援の実際について説明できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 精神看護における対象者の理解と精神看護の基本概念 02. 精神症状・状態像 診断基準 診察と検査 03. 精神疾患と治療(1) 統合失調症・双極性障害 04. 精神疾患と治療(2) 不安障害・強迫性障害 05. 精神疾患と治療(3) 身体性障害・摂食障害 06. 精神疾患と治療(4) 神経認知障害・パーソナリティ障害 07. 精神疾患の治療法(1) 薬物療法 08. 精神疾患の治療法(2) リハビリテーション療法 09. 患者 - 看護師関係の構築 治療的關係 10. 看護援助の展開 看護援助の基本的構造・セルフケアの援助 11. 精神障害を持つ人への看護(1) 治療環境 12. 精神障害を持つ人への看護(2) 安全管理・リスク管理 13. 精神障害を持つ人への看護(3) 統合失調症を持つ人への看護 14. 精神障害を持つ人への看護(4) 双極性障害・うつ病を持つ人への看護 15. 精神障害を持つ人への看護(5) アルコール依存症・摂食障害を持つ人への看護 16. 精神障害を持つ人への看護(6) 身体疾患を合併している人への看護 17. 精神障害を持つ人への地域生活支援(1) 日本におけるケアシステム 18. 精神障害を持つ人への地域生活支援(2) 多職種連携、退院支援、訪問看護 19. 精神障害を持つ人への地域生活支援(3) 就労支援、家族への支援 20. 精神科臨床で用いられる治療的技法 	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、より深く理解するために、アクティブラーニングを組み込む。理解を深めるため、視聴覚教材を多用する。知識の定着を図るため、小テストを実施する。	
時間外学修	授業内で予習したことについて共有できるよう、課題を提示し、事前学習を求める。事後は学習した内容を演習、実習に活かせるよう整理する。	
評価方法と評価割合	筆記試験(2回)80%、小テスト10%、授業態度(出席、提出物)10%	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2](医学書院) 精神看護学 臨床で活かすケア ころろ・からだ・かわりのプラクティス(南江堂) 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術(メヂカルフレンド社)	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論を履修済みであること	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	杉本圭以子：精神科病院、クリニックでの看護師としての経験 後藤成人：精神科病院での看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	精神科での勤務経験をいかし、イメージしにくい精神科の治療環境や、看護の対象者についてわかりやすく伝える。
---------------	--

開講科目名 / Course	精神看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	影山 隆之	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、影山 隆之、杉本 圭以子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	精神疾患を持つ人の全体的な理解と看護過程の展開の具体的方法、精神保健医療福祉の現状を学ぶ。	
到達目標	1. オレムアンダーウッド理論を用い、精神科での看護過程の展開ができる。 2. 精神保健医療福祉の現状について述べるができる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 精神看護学における看護過程（1）：紙上事例1の看護過程の展開（アセスメント） 02. 精神看護学における看護過程（2）：紙上事例1の看護過程の展開（ケアプラン） 03. 精神看護学における看護過程（3）：紙上事例1の看護過程の展開（振り返り） 04. 精神看護学における看護過程（4）：紙上事例2の看護過程の展開（アセスメント） 05. 精神看護学における看護過程（5）：紙上事例2の看護過程の展開（ケアプラン） 06. 精神看護学における看護過程（6）：紙上事例2の看護過程の展開（振り返り） 07. 精神保健医療福祉を取り巻く現状（1）：精神科病院における看護の実際 08. 精神保健医療福祉を取り巻く現状（2）：障害福祉サービスの活動の実際 09. 症状別看護実践（1）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（アルコール依存、パニック障害など） 10. 症状別看護実践（2）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（摂食障害など） 11-13. 障害福祉サービス事業所の見学と説明 14. 症状別看護実践（3）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（幻覚、妄想など） 15. 症状別看護実践（4）：臨床で遭遇しやすい症状への看護ケアの事例演習（自殺念慮など） 外部講師の都合により授業の順序は変更する可能性がある。	
その他の授業の工夫	紙上事例の看護過程の展開や症状別看護実践では、単なるレポートや講義で終了するのではなく、学生同士がお互いに考えたこと、調べた事をディスカッションできるよう、適宜アクティブラーニングを取り入れながら行う。また、外部講師の講演により、精神保健医療福祉の現状をより現実的に学ぶことができるようにしている。	
時間外学修	紙上事例の看護過程の展開について、事前学習や演習の時間内で終了しなかったものは時間外学修となる場合がある。	
評価方法と評価割合	出席は原則100%とする（欠席した場合、実習に参加できない可能性がある） 紙上事例の看護過程の展開のうち、個人で行うレポートの内容・・・・・・・・・・60% 看護過程の展開と症状別看護実践におけるディスカッションへの参加状況・・・30% 外部講師の講義や事業所見学時の態度・・・・・・・・・・・・・・・・・・10%	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護（メヂカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]（医学書院） 精神看護学 臨床で活かすケア ころろ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂） 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術（メヂカルフレンド社）	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論、精神看護援助論を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	影山隆之：離島の病院の精神科における訪問診療 杉本圭以子：精神科病院、クリニックでの看護師としての経験 後藤成人：精神科病院での看護師としての経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有

	内容	<p>【外部講師】</p> <p>塔尾：精神科病院の看護部長としての経験</p> <p>山崎：精神科病院の看護部長としての経験</p> <p>藤井：精神科病院の教育師長としての経験</p> <p>藤波：精神障害者を地域で支援する福祉施設の職員としての経験</p> <p>小野：精神障害者を在宅支援する施設の職員としての経験</p>
実務経験をいかした教育内容	上記の勤務経験を活かし、精神障害を有する人々への具体的な看護過程の展開や看護ケアの方法、支援の在り方などについて伝える。	

開講科目名 / Course	精神看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	影山 隆之	
担当教員名 / Instructor	後藤 成人、影山 隆之、杉本 圭以子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	精神疾患を持つ人と援助的対人関係を形成し、その人を全人的に理解し、必要な看護を考えること、精神保健医療福祉の理解を深め、精神疾患を持つ人に地域資源を活用して支援する方法、および精神看護実践に必要な自己洞察の態度について、精神科病院、障害福祉サービス事業所での実習を通して学習する。	
到達目標	<p>病院実習：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患を持つ人を全人的に理解して現状を記述できる。 2. 必要な看護計画をたてることができる。 <p>事業所実習：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患を持つ人の生活状況を理解して記述できる。 2. 利用している社会資源と必要な支援について説明できる。 <p>病院・事業所実習を通して：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健医療福祉の連携と、看護の役割について説明できる。 2. 人（患者、利用者、実習指導者、教員など）との関わりを通して対人関係における自分の傾向を振り返って述べるができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習期間：2021年9月～11月の期間中の2週間（10日間）</p> <p>実習場所：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院 衛藤病院、大分丘の上病院、大分下郡病院のいずれかの病院にて6日間 ・事業所 一般社団法人 SWライフ 就労継続支援B型施設「サマンの木」 一般社団法人 SWライフ 就労継続支援B型施設「サマン春日」 社会福祉法人みのり会 就労継続支援B型施設「毎日食堂」 医療法人謙誠会（博愛病院）就労継続支援B型施設「ゲニー工房」 <p>以上のいずれかの事業所にて2～3日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内 合同カンファレンス 1日 <p>実習方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院実習では、学生は1人で患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。ただし、看護計画の実施は可能な範囲で行う。 ・事業所実習では、利用者とともに就労活動に参加し、利用者の生活状況と利用している社会資源について学ぶ。 <p>*詳細は、実習オリエンテーションにて説明する。</p>	
その他の授業の工夫	精神科では、患者の社会復帰を視野に入れた支援が重要となるため、実習を通して、病院のみでなく、事業所でも実習を行うことにより、地域における当事者の社会復帰支援まで視野に入れた学びができるようにしている。	
時間外学修	概論、援助論、演習で学習した内容を復習し、実習の事前学習として資料を整理する。実習の学びを深めるために、日々の実習について、レポートなどで振り返りを行う。	
評価方法と評価割合	出席日数、実習内容、実習態度、記録、個人面接などにより総合的に評価する。100%出席することを原則とする。	
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護（メヂカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]（医学書院） 精神看護学 臨床で活かすケア ころろ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂） 看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術（メヂカルフレンド社）	
履修する上で必要な要件	精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護学演習を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	影山隆之：離島の病院の精神科における訪問診療 杉本圭以子：精神科病院、クリニックでの看護師としての経験 後藤成人：精神科病院での看護師としての経験

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習病院の指導者（看護師）：病院での勤務経験
実務経験をいかした教育内容	上記の勤務経験を活かし、精神障害を有する人々への具体的な看護ケアの方法、支援の在り方などについて伝える。	

開講科目名 / Course	第2段階看護技術演習 (3年次生)
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期
開講区分 / semester offered	前期
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	森 加苗愛
担当教員名 / Instructor	森 加苗愛
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	演習
科目の目的と概要	<p>本科目は「看護技術修得プログラム」のセカンドステップの位置づけである。卒業時には全員が、看護実践の基本的能力として幅広い視野から人間と人間生活を理解し、倫理観をもって行動する態度と姿勢を確実に身につけること、さらに、自己研鑽しながら看護実践能力を高めていく姿勢をもつことを目的とする(アクティブラーニング)。</p> <p>提示された事例課題について援助技術の実施ができるように、教員からアドバイスを受けながら各自や各グループで練習し、実践した援助技術に対する評価を行う。</p>
到達目標	<p>対象への安全・安楽に配慮した看護基本技術の実践能力を身に付け、自信をもって実習に臨むことをねらいとする。具体的には以下の5点を修得することが目的である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活援助技術は、1人で確実に実施できる。 2. 対象の安全・安楽を保障する技術を実践できる。 3. 対象の安全・安楽を保障する技術に関するリスクの判断ができる。 4. 単に技術のhow-toだけでなく、技術の根拠・方法の選択ができ判断ができる。 5. 対象への配慮を実践に反映できる。
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観
授業計画	<p>01. オリエンテーション</p> <p>02. グループメンバーおよび担当教員との打ち合わせ、今後の演習の計画立案</p> <p>03-05. グループワーク：課題事例の看護援助に関する取り組み</p> <p>06-08. ワークノート指導：ワークノートに対する担当教員からの指導・評価・修正</p> <p>09-11. 課題に対する技術チェック演習・担当教員からの指導</p> <p>12-13. 看護技術演習のまとめ、振り返り</p>
その他の授業の工夫	<p>・3年次9月からの第4段階実習開始前の演習であり、実習前に身に付けておくべき基本的看護技術を習得し、自信をもって実習に臨めるように2事例の課題が提示される。</p> <p>・事例課題へのワークの取り組みや看護技術演習においては、学生6～8名のグループを1名の看護系教員が担当し、指導を行う。学生のニーズに応じて個別ならびにグループ指導ができる指導体制が確保されている。</p>
時間外学修	<p>・基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p> <p>・実習室の使用にあたっては、学内実習ガイドブックを参考にすること。</p> <p>・e-ラーニングの学習環境として、Nursing Skillsの利用は学内PCも学外(自宅PC、タブレット、スマートフォン)もいずれも可能である。</p>
評価方法と評価割合	<p><技術チェック></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ内の1名の学生に行い、その評価をグループ全員の技術評価とする。 2) 各グループで作成したワークノートの援助実施方法に沿って評価する。 3) 技術評価基準は以下とする。 <p>合格：「きちんと実施できる」「多少難があるが、ほぼ実施できる」「安心」「完ぺきではないがほぼできている」「多少努力が必要」</p> <p>不合格：「全く実施できない」「ほぼ実施できない」「実施しなかった」「実施はしたが、患者に危険・苦痛を与えている」</p> <p><全体的取組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ワークノートへの取組み、技術練習の取組み、技術チェック時の方法、手際、所要時間などの要素を総合的に評価する。基本は「合格」とし、総合的にみて「取り組んでいない」と判断する場合は「不合格」とする。 <p>【合格判定基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 可否の判定は<技術評価>と<全体的取組み>の評価で行う。 2) 技術評価及び全体的取組みにおいて、ともに合格のものを合格とする。
テキスト	決まったテキストは使用しない。学生各自がグループ学習を進めながら、課題事例に応じてe-ラーニングや参考図書を活用すること。
参考書	
履修する上で必要な要件	本科目は、第4段階実習の履修要件となっている。
その他	オリエンテーションで資料を配付して説明するので出席すること。
教員の實務経験	有・無 有

	内容	森加苗愛：病院の看護師 看護系教員10名程度：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務 経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	根拠に基づいた知識・技術と豊かな臨床経験を学生指導に活かす。	

開講科目名 / Course	在宅看護論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、姫野 雄太、矢野 亜紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	在宅看護論では、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学習する。在宅療養者とその家族の意思を尊重した援助を行うため、法令や制度、社会資源について理解を深め、多職種連携や協働、ケアマネジメントを通じた看護を学ぶ。また、在宅看護の事例を通して在宅療養者とその家族に対する看護の展開について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の基本的な考え方と援助方法を説明できる。 2. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した援助を説明できる。 3. 在宅看護に関する法令や制度、社会資源について説明できる。 4. 在宅看護における多職種連携や協働、ケアマネジメントについて説明できる。 5. 在宅看護の事例を通して在宅療養者とその家族に対する看護を展開できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 在宅看護の目的と特徴 02. 在宅看護の対象者 03. 在宅看護に関わる法令 04. 在宅看護に関わる制度の活用 05. 在宅看護におけるケアマネジメント 06. 在宅看護における家族への援助 07. 在宅看護の介入 08. 在宅看護の介入時期 09. 在宅療養の支援 10. 在宅療養の場の移行 11. 在宅看護における緩和ケア 12. 在宅緩和ケアの実際 13. 在宅看護の展開 14. 在宅看護の事例展開（療養者と家族の理解） 15. 在宅事例の看護展開（アセスメント） 16. 在宅事例の看護展開（在宅看護計画） 17. 在宅事例の看護展開（ケアマネジメント） 18. 在宅事例の看護展開（多職種連携） 19. 在宅事例の看護展開（在宅看護介入） 20. 在宅事例の看護展開（在宅看護介入と評価） 	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前課題や筆記試験により講義に関する予習や復習を行う。	
評価方法と評価割合	出席・態度（10%）、レポート・提出物（40%）、筆記試験（50%）	
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 姫野雄太：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護の知識や技術について教育する。	

開講科目名 / Course	教育方法論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	佐伯 圭一郎	
担当教員名 / Instructor	佐伯 圭一郎、麻生 良太	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	教師による指示や発問、それに対する子どもの考察、話し合い活動、質問行動、説明、新たな課題の発見といった教授過程や理論の実際を概説するとともに、情報化社会に対応した教育内容や方法の実際焦点をあて、各種情報機器の活用について紹介する。	
到達目標	1. 教室で展開される教授過程（教師による発問から子どもによる新たな課題の発見まで）の実際を理解し、その目的や意味について説明することができる。 2. 情報機器等を活用した教育内容や方法を理解し、それをういて教材を作成し、成績を処理することができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 情報教育メディアの活用(1) 各種教育メディアの特性と利用 02. 情報教育メディアの活用(2) 教育メディア利用の現状と課題 03. 教授学習の理論(1) プログラム学習、完全習得学習 04. 教授学習の理論(2) 問題解決学習 05. 教授学習の理論(3) 総合的な学習（プロジェクト学習） 06. 教授学習の理論(4) 協同学習 07. 学ぶ側から教える側へ(1) 模擬授業の計画 08. 学ぶ側から教える側へ(2) 模擬授業の実施 09. 学ぶ側から教える側へ(3) 授業分析の実際 10. 実践的な専門家としての教師の成長	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供も行う。 ・受講者が話し合う機会を提供する。 ・指導案を書き、模擬授業を行う。	
時間外学修	講義終了後に、配布資料に基づき、関連事項を整理し、理解すること。	
評価方法と評価割合	ショートレポート（50%）及び定期試験（50%）。	
テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	特になし。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	特別支援教育論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	古賀精治	
担当教員名 / Instructor	古賀精治、藤野 陽生	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室だけでなく、通常の学級にも在籍する様々な障害（発達障害や軽度知的障害など）のある幼児、児童及び生徒に関し、学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対応するために必要な知識や支援方法について学ぶ。	
到達目標	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 特別支援教育に関する制度 02. 発達障害等のある幼児児童生徒の心理的特性 03. 発達障害等のある幼児児童生徒の学習過程 04. 発達障害等のある幼児児童生徒への支援 05. 病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難 06. 病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒への支援 07. 通級による指導と自立活動 08. 個別の指導計画と個別の教育支援計画 09. 発達障害等のある幼児児童生徒のための支援体制 10. 貧困等の問題により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解と対応	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・受講生が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	講義終了後に、配布資料に基づき、関連資料を整理し、理解すること。	
評価方法と評価割合	試験（各授業における小レポートまたは小テストを含む）70% 平常点（発言内容等）30%	
テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書	「新訂 障害児・障害者心理学特論」（田中新正・古賀精治著、放送大学教育振興会） 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）」文部科学省	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	養護概論 で学んだ内容をもとに、具体的な養護活動の方法について学ぶ。子どもの健康課題解決に向けた養護教諭の役割や健康相談活動の支援のあり方について理解し、養護教諭が行う支援活動を実践できるスキルを養う。	
到達目標	1. 保健室の経営と運営について説明できる。 2. 健康課題の実態と課題について述べるができる。 3. 健康相談活動や保健教育活動について説明できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 保健室の経営と運営 02. 保健組織活動 03. 健康実態の把握と課題 04. 健康相談活動 05. 保健教育活動（教科保健（保健学習）と保健指導） 06. 精神保健活動 07. 学校給食の歴史と養護教諭の役割 08. 安全管理と危機管理（1）安全管理 09. 安全管理と危機管理（2）危機管理 10. 養護教諭が行う実践的研究	
その他の授業の工夫	授業中、適宜ハンドアウトを配布し、文部科学省から出されている最新の情報等を提供する。	
時間外学修	シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書、参考書等を用いて事前学習を行うこと。また、授業を受けた後は復習、次回の授業に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び授業参加態度により総合的に評価する（評価配分：筆記試験90%、授業参加態度10%）。なお、筆記試験の受験資格は、出席が7回以上とする。	
テキスト	新養護概説<第11版>（少年写真新聞社）<2年次に購入済み>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美：小学校、中学校、高等学校の養護教諭 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	本科目は、小学校、中学校、高等学校および支援学校で養護教諭として実務経験のある教員が講義を行う。	

3 年次開講科目

後期開講

開講科目名 / Course	英語
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
開講区分 / semester offered	後期
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	3
主担当教員 / Main Instructor	G.T. Shirley
担当教員名 / Instructor	宮内 信治、G.T. Shirley
必修・選択 / compulsory subject	選択
講義形態 / Class Type	講義
科目の目的と概要	英語A： 英語語彙を習得増強する。論文構成要素（演題、要旨、緒言、方法、結果、考察、結語、謝辞、参考文献）を知る。 英語B： English language ability is important for nurses. In this class, students continue to practice speaking and listening of English. The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.
到達目標	英語A： 習得した看護・医療関係英語語彙の意味を説明できる。論文構成要素（演題、要旨、緒言、方法、結果、考察、結語、謝辞、参考文献）の意義を述べる。 英語B： 1. Students can practice speaking English. 2. Students can practice listening to English. 3. Students can improve their overall English communication skills. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力
授業計画	英語A： 01. 医療語彙1（血液）解説 / 論文構成要素（要素の配列、演題） 02. 医療語彙1小テスト、医療語彙2（切断）解説 / 論文構成要素（要旨、緒言） 03. 医療語彙2小テスト、医療語彙3（炎症）解説 / 論文構成要素（方法、結果） 04. 医療語彙3小テスト、医療語彙4（病原）解説 / 論文構成要素（考察、結語） 05. 医療語彙4小テスト / 論文構成要素（考察、結語、謝辞、参考文献） 英語B： 01. Clinical Information 02. Hospital Departments 03. Emergency Room 04. Hospital Ward Orientation 05. Final Examination
その他の授業の工夫	英語A： 英語（学部2年次）で用いた教材を適宜参照することにより、医療語彙の理解を促し、学習方法を再確認する。 英語B： This is a student-centered class. The teacher does not call on students to answer questions or recite dialogues during class. Students do speaking and listening activities together in pairs and small groups. These activities maximize student interaction. Such interaction in pairs and small groups teaches students the importance of mutual support in language learning. The teacher monitors this practice and offers support and encouragement when necessary.
時間外学修	英語A： 講義予定部分の未知語句を調べ、概要を把握しておく。語彙小テストに備える。 英語B： Before class, students should read all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again. They should practice the pronunciation of difficult words and phrases so they can review the materials smoothly during the next class.
評価方法と評価割合	英語A： 筆記試験（50%）、語彙小テスト（20%）、出席状況・授業態度（30%）で評価する。 英語B： Regular Attendance, Active Class Participation, Effort and Attitude during Each Class: 50%; Final Examination: 50%

テキスト	英語A : 別途指示 英語B : No textbook will be used. The instructor will provide students with materials for classroom use in each class.	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	環境疫学・生物学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	健康と環境(生活習慣を含む)との関係は、疫学的な統計によって関係が明らかになってくる知見と分子細胞レベルでの生物学的な仕組みを通して明らかになってくる知見とがある。基礎的事項の演習と事例を通して、健康と環境との関係についての知見が生まれてくる仕組みの基礎を学ぶことを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保健の基礎である疫学的アプローチと生物学的アプローチを説明できる。 2. データの確率分布を説明できる。 3. データを統合あるいは分析できる。 4. バイオテクノロジーの原理を説明できる。 5. 遺伝子疾患を説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 演習の進め方 02-03. データのパラツキとヒストグラム 04-05. 正規分布とポアソン分布 06-07. オッズ比と相対リスク 08-09. パイオインフォマティクスとゲノム科学 10-11. バイオテクノロジー 12-13. 染色体異常と遺伝子変異 14-15. 分子疫学	
その他の授業の工夫	毎回課題を与えレポートにまとめさせる。課題の背景やポイントをあらかじめ解説し、課題レポートを時間内で完成するように指導する。	
時間外学修	与えられた課題を自由に調べ、レポートにまとめさせる。	
評価方法と評価割合	出席と課題レポートを総合的に評価する。	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	地域生活支援論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、佐藤 愛、小野 治子、木嶋 彩乃	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	多様な場で生活する多様な生活レベルにある人々の生活の質を向上するための支援を考える際、個人や家族の個別の問題解決ととらえるのではなく、地域住民の立場で考えることのできるように、コミュニティアセスメントを身につけ、コミュニティとしての課題を考え、多職種間の連携の意義を見出すことのできるスキルを修得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子、成人、高齢者等のライフステージの特性および地域看護活動について説明できる。 2. 障害、難病等の療養者がおかれている状況と地域看護活動について説明できる。 3. コミュニティアセスメントの必要性を説明できる。 4. 地域の特性を説明できる。 5. 地域の病院・診療所、外来部門など地域医療の場を想定した多職種の連携について説明できる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 地域看護活動の場による特性（保健所、保健センター等） 02. 母子保健活動 03. 成人保健活動 04. 高齢者保健活動 05. 障がい者（児）、難病保健活動 06. コミュニティアセスメントの目的 07. コミュニティアセスメントの方法 08. コミュニティアセスメントの実際：実習地のアセスメント(1)（グループワーク） 09. コミュニティアセスメントの実際：実習地のアセスメント(2)（グループワーク） 10. 地域保健活動の実際 	
その他の授業の工夫	地域看護の対象は、地域で生活するあらゆる健康レベル、あらゆる発達段階にある人々であることを常に意識できるようDVDやハンドアウト等を活用する。学術論文などから最新の情報を提供する。グループワークを多く組み込むことで、それぞれの学生が影響を及ぼすグループダイナミクスを期待している。	
時間外学修	自分の日常生活を通して、地域にどんな人々が暮らしているのか、どんな健康課題があるのか、それらの健康課題がどのように解決されているのかなどに関心を持ってください。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書、参考書等を用いて事前学習を行うこと。また、授業を受けた後は復習、次回の授業に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び授業参加態度、課題レポートにより総合的に評価する（評価配分：筆記試験80%、授業参加態度10%、課題レポート10%）。なお、筆記試験の受験資格は、出席が7回以上とする。	
テキスト	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）（2年次に購入済み）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美：保健所の保健師、小学校・中学校・高等学校の養護教諭 小野治子：看護協会職員、高等学校の養護教諭 佐藤愛：病院の保健師 木嶋彩乃：市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	担当教員それぞれが、医療機関および行政機関で保健師として保健活動を実践してきた豊富な経験、養護教諭として学校での保健活動を実践してきた経験もとに学生を指導する。	

開講科目名 / Course	健康支援論演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、佐藤 愛、小野 治子、木嶋 彩乃	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	健康教育が行われる対象や場を理解し、個人・集団の健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用した健康教育の企画・実施・評価等の一連のプロセスを修得する。多様な医療・保健・福祉の場や様々なライフステージにおける健康教育のあり方や考え方を学ぶ。また、病院、施設、地域などにおける保健指導の場面を設定した健康教育の課題演習を行い、対象者に合わせた支援スキルを修得する。	
到達目標	1. 健康教育が行われる対象や場を説明できる。 2. 行動変容理論等健康教育に関する理論を説明できる。 3. 保健指導場面の演習を通して健康教育の実践ができる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. ヘルスプロモーションと看護活動 02. 医療場面での患者教育・家族教育 03. 健康行動理論とその活用方法(1) 行動変容を促す理論・モデル(ヘルスピリーフモデル他) 04. 健康行動理論とその活用方法(2) 行動変容を促す理論・モデル(自己効力感他) 05. 健康行動理論とその活用方法(3) 行動変容を促す理論・モデル(行動変容ステージモデル他) 06. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育のアプローチ(グループワーク) 07. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の方法(1)(グループワーク) 08. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の方法(2)(グループワーク) 09. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の媒体(1)(グループワーク) 10. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育の媒体(2)(グループワーク) 11. 健康教育・保健指導の実際: 方法と媒体の選択(グループワーク) 12. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育計画の企画(1)(グループワーク) 13. 健康教育・保健指導の実際: 健康教育計画の企画(2)(グループワーク) 14. 課題報告会(1) 15. 課題報告会(2)	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	個人やグループ課題について講義資料やその他の関連を参考にしながら学習を行う。	
評価方法と評価割合	筆記試験及び課題レポート、授業参加態度により総合的に評価する(評価配分: 筆記試験30%, 授業参加態度20%, 課題レポート50%)。なお、筆記試験の受験資格は、出席が10回以上とする。	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美: 保健所の保健師、小学校・中学校・高等学校の養護教諭 小野治子: 看護協会職員、高等学校の養護教諭 佐藤愛: 病院の保健師 木嶋彩乃: 市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	担当教員それぞれが、医療機関および行政機関で保健師として保健活動を実践してきた豊富な経験、養護教諭として学校での保健活動を実践してきた経験もとに学生を指導する。	

開講科目名 / Course	国際看護比較論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、丸山 加菜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	世界の疾病構造の現状と課題、および保健医療に関する世界的な取り組みについて理解を深める。諸外国の保健・医療・福祉の課題や、日本との相違点について理解する。母子保健や精神保健といった各分野のグローバルな状況について、看護の役割と結びつけながら学ぶ。また、訪日・在留外国人や海外に渡航する日本人の健康課題と看護の役割について学ぶ。	
到達目標	1. 諸外国の保健・医療・福祉の課題や、日本との相違点について説明できる。 2. グローバル社会と文化社会的背景が多様な人々の健康を関連づけ、リスクや課題について述べることができる。 3. 海外に渡航・在住する日本人の健康支援について、看護の役割を述べるができる。 4. 海外の保健医療専門職との協働についてイメージし、自己の課題を述べるができる。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. 疾病負荷 (Global Burden of Diseases, GBD)、DALYからみた世界の健康問題 02. 世界の保健医療における人的資源、看護職の国際移動、海外の保健・医療・福祉制度 03. ウイメンズヘルス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ 04. グローバルメンタルヘルス 05. 持続可能な開発目標 (SDGs) と看護 06. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人の看護の実際 1 07. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人の看護の実際 2 08. 海外に渡航する際の準備、海外に渡航・在住する日本人の健康支援 09. 海外で看護師として働くことについて 10. 開発途上国における 国際保健医療活動の実際	
その他の授業の工夫	・適宜小グループでのディスカッションを組み込む。 ・海外での看護実践について話を聞き、質疑応答を通して理解を深める講義を含む。 ・世界の保健医療情報は原文 (英語) でも伝え、英語での情報収集能力向上を図る。	
時間外学修	事前学習として、テキストの該当範囲を熟読しておく。 講義で扱った内容について復習するとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して理解を深める。	
評価方法と評価割合	数回の講義テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：30% 筆記試験：70%	
テキスト	看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために (南江堂)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] (医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：病院の看護師、助産師、保健師、海外教育機関との国際交流活動 丸山加菜：病院の看護師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師、助産師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や国際交流活動、海外教育機関との共同研究に関する経験をふまえ、グローバル社会における看護について探求し、学生に指導する。	

開講科目名 / Course	国際看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、丸山 加菜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	講義で学んだ知識を実践に結びつけて理解を深めることを目的とし、「多様な文化社会的背景をもつ訪日・在留外国人の看護」、「海外に渡航する日本人の健康支援」について課題演習を行う。また、(1)世界の保健医療の課題について複眼的な視点を得ること、(2)国際機関ホームページ等を情報源として自ら調べ分析することを目的とし、或る国/集団の健康問題および対策について学ぶ。併せて、開発途上国における貧困援助の在り方について考察する。	
到達目標	1. 自分と異なる社会・文化・言語背景を持つ対象者の看護に必要な視点や配慮について説明できる。 2. 海外に渡航・在住する日本人の健康支援について、看護の役割と具体的支援方法を説明できる。 3. 国際機関の統計情報等をもとに或る国/集団の健康問題と対策について調べ、説明することができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01-02. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人の看護の実際 03-04. 在留外国人の看護：事例展開 グループワーク 05-06. 海外に渡航する日本人の健康支援：事例展開 グループワーク 07-08. グローバル産業と人々の健康への影響：事例展開 個人/グループワーク 09. 貧困援助について考える 10. 或る国/集団の健康課題と対策：Health issues and strategies of a nation/population group グループワークのオリエンテーション 11-13. グループワーク 14. 成果報告会 15. 或る国/集団の健康課題：Health issues of a nation/population group 個人演習	
その他の授業の工夫	・事例展開ではグループディスカッションを通して複眼的な視点を持つことができる。 ・世界の保健医療に関して英語で情報収集する作業を通じ、看護に役立つ英語力の向上が期待できる。	
時間外学修	演習で英語の資料を使用する際は、内容理解のため分からない単語・用語等を調べる。	
評価方法と評価割合	数回の演習テーマに関する課題レポートの合計：40% グループワーク/ディスカッション参加状況、報告会発表内容から総合的に評価：60%	
テキスト	看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために(南江堂)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1](医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3](医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他	グループワークでは国際機関のホームページの情報を適宜活用する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：病院の看護師、助産師、保健師、海外教育機関との国際交流活動 丸山加菜：病院の看護師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師、助産師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や国際交流活動に関する経験をふまえ、グローバル社会における看護実践や求められる能力について学生が自ら学べるよう、各回の演習を組み立てる。	

開講科目名 / Course	災害看護論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、福田 広美、松 久美、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	本講義では、地域や病院等における災害看護のあり方、考え方とその実際を学ぶ。これらの学習を通して、地域や病院等における健康危機管理と災害に対する防災・減災および災害時の対応について理解する。また、演習を通して災害時に必要な看護技術を習得する。	
到達目標	1. 災害看護の基礎となる健康危機管理、災害の歴史、定義、種類、法律、制度について述べることができる。 2. 災害サイクル各期における特徴と健康問題、災害看護の役割と活動を述べるができる。 3. トリアージ（一次トリアージ：START法）を実施することができる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 災害及び災害看護に関する基礎的知識（石田） 02. 災害サイクルと看護活動：超急性期～急性期（石田） 03. 災害サイクルと看護活動：亜急性期～慢性期（石田） 04. 病院における災害看護（福田） 05. 災害に関する法律と制度（石田） 06. 災害時における医療活動の実際：避難所における看護活動（石田） 07. 災害時における医療活動の実際：DMAT活動（松） 08. 災害時における医療活動の実際：トリアージ（松） 09. 災害時に必要な看護技術：演習（1）トリアージ（START法）、情報伝達訓練（全員） 10. 災害時に必要な看護技術：演習（2）机上訓練（全員）	
その他の授業の工夫	実際の災害現場での活動経験が豊富な講師が演習を進行する。トリアージ・シミュレーション訓練、情報伝達訓練、机上訓練などの体験型学習を中心に行う。	
時間外学修	講義終了後にテキストの該当部分や配布資料に基づき、関連事項を整理し、理解すること。	
評価方法と評価割合	・レポート（各教員が課題を提示する）により評価する。（参加できなかった場合には、その回の教員に至急連絡して指示を受けること。）（100%） ・出席状況（参加態度）を重視する。（トリアージ等演習には必ず参加すること。欠席2回以上で成績評価レベルを一段階下げる。欠席4回以上で評価対象外とする。）	
テキスト	看護学テキストNice災害看護（改訂第3版）（南江堂）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	有 石田佳代子：災害支援ナース、病院の看護師 福田広美：病院の看護師 松久美：日本DMAT、病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容	国内の災害時にDMATや災害支援ナースとして被災地で医療活動を行った経験を活かした事例場面を取り上げ、その実際について解説する。また、各教員のスキルを活かした実践的な演習指導を行う。	

開講科目名 / Course	看護科学研究	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	佐伯 圭一郎	
担当教員名 / Instructor	小嶋 光明、佐伯 圭一郎、品川 佳満、藤内 美保、桑野 紀子、草野 淳子、佐藤 栄治、渡邊 弘己、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	卒業研究および将来の臨床における看護研究に必要とされる基本的な考え方、知識、技術を修得することを目的とし、研究のプロセスに対応した、研究テーマの設定から文献収集、研究計画書の作成といった過程のすすめ方、研究デザインの決定やデータ解析技法の知識と実践といった内容をオムニバス形式で講義する。	
到達目標	1. 看護研究の意義を説明できる。 2. 看護研究手法の基本について説明できる。 3. 文献の検索とレビューが行える。 4. 卒業研究の準備を行う。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 看護研究の意義（廣田） 02. 質的研究（藤内） 03. 実験研究（小嶋） 04. 調査研究（草野） 05. 研究の倫理と安全（研究倫理・安全委員会） 06. 統計学・データ解析の基礎（渡邊） 07. 文献研究（桑野） 08. データ解析演習（渡邊/品川） 09. 文献検索とクリティーク（佐伯） 10. 論文の書き方、発表の仕方（佐藤栄治） 8、9回は演習形式で実施し、受講者を半分に分けて実施する予定（半数は9、8の順になる）。他に、卒論発表会への積極的な出席を期待する。	
その他の授業の工夫	演習、小レポートなどを組合せ、学びを深める。	
時間外学修	授業後、各自で復習を行うとともに、学んだ内容を配属される研究室での卒論に備えた準備に反映すること。	
評価方法と評価割合	すべて出席することが評価の前提である。理由に依らず、講義や演習に参加できなかった場合は、その回の講師に至急連絡して指示を受けること。 評点の重み付けは、出席60%、各回の課題・レポート40%とする。	
テキスト	ハンドアウトを配布する。 参考図書等は別途指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	学校保健学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、草野 淳子、小野 治子、霜山 朋子、手嶋 康深、吉田 知佐子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	児童・生徒の心身の健康維持・増進における学校保健の役割について、保健管理、保健学習、保健指導等を取り上げ、学校保健の内容を理解し、講義内容の要点を説明することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠となる法律、学習指導要領と教育課程について述べることができる。 2. 学校保健の意義や内容について述べるができる。 3. 年間行事を見通した保健室経営案や学校保健計画が立案できる。 4. 個人や集団を対象とした保健指導の立案・実施ができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 全体オリエンテーション、養護教諭の職務 02. 学校保健活動の実際 03. 学習指導要領と教育課程及び学校保健の意義・内容 04. 学校保健安全計画の立案方法 05. 学校における健康観察（日常・緊急時の対応） 疾病・感染症の管理と予防（生徒・児童に多い疾患・感染症） 06. 健康診断の実施と事後処理 07. 学校環境衛生（教室内の温度・照度・机椅子の高さなど） 学校における広報活動の実際（保健だより・掲示物） 08. 保健室経営の立案・演習と評価 09. 学校における保健組織活動（委員会活動） 10. 症状アセスメントと対応の実際・課題の提示 11. 健康相談と心のケア（虐待・いじめ・ストレス） 12. 保健室経営の立案発表 13. 保健教育：保健指導案の作成方法・課題の提示 14. 症状アセスメントと対応の実際発表 15. 症状アセスメントと対応の実際発表 16. 保健教育：模擬授業 17. 保健教育：模擬授業 18. 保健教育：模擬授業 19. 保健教育：模擬授業 20. 教職員への啓蒙活動・保健教育、保健指導のまとめ 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健に関する公表されている資料・新聞記事・雑誌・学術論文など適宜ハンドアウトを配布し、最新の情報を提供する。 ・演習・発表を多く組み込むことで、それぞれの学生が影響を及ぼすグループダイナミクスを期待している。 	
時間外学修	シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書、参考書等を用いて事前学習を行うこと。また、授業を受けた後は復習、次回の授業に関する課題に取り組むこと。	
評価方法と評価割合	受講態度および筆記試験（80％）、課題レポート・発表（20％）	
テキスト	新養護概説 第6版（少年写真新聞社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	有 赤星琴美：小学校、中学校、高等学校の養護教諭 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭 霜山朋子：小学校、中学校の養護教諭 手嶋康深：小学校、中学校の養護教諭 吉田知佐子：指導主事、小学校、中学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無

	内容	
実務経験をいかした教育内容	3名の非常勤講師については、指導主事、小学校、中学校での養護教諭の経験が30年以上あるため、実務経験をいかした教育内容を教授することができる。	

開講科目名 / Course	道徳、総合的な学習及び特別活動	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	鈴木 篤	
担当教員名 / Instructor	鈴木 篤	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	学校教育の具体的な場面を取り上げながら、道徳教育と特別活動についての知識と理解を深めることを目的とする。	
到達目標	1. 道徳教育の特質とその方法について説明することができる。 2. 特別活動の特質とその方法について説明することができる。 3. 総合的な学習の時間の特質とその方法について説明することができる。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観	
授業計画	01. 道徳教育の目標と内容 02. 現代社会と道徳 03. 道徳性の発達 04. 道徳教育の方法と評価 05. 特別活動の目標 06. 特別活動の内容 07. 特別活動の指導方法と評価 08. 総合的な学習の時間の目標 09. 総合的な学習の時間の内容 10. 総合的な学習の時間の指導方法と評価	
その他の授業の工夫	・ハンドアウトを配布し、最新の教育事情に関する話題提供を行う。 ・具体的な教育場面をもとに、受講者が話し合う機会を設ける。	
時間外学修	・各回の授業末で指示された課題に取り組む。 ・講義回ごとに復習し、配布資料に基づき、関連事項を整理し、理解すること。	
評価方法と評価割合	本授業では、講義内容について理解が十分であるかどうかを基準に評価を行う（100%、定期試験では自らの作成した手書きのノートのみ参照可）。なお、教員の免許状取得のための必修科目であることから、教師としての資質能力育成のため、教職志望者として不適切な受講態度を減点の対象とする。	
テキスト	・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳（平成29年公示）（廣済堂あかつき） ・小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年公示）（東洋館出版社） ・小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）（東洋館出版社）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	特になし。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	教育制度論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	今井 航	
担当教員名 / Instructor	今井 航	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	第1に、世界主要国における教育制度改革の動向を取り上げたり、受講学生自らが過ごしてきた学校が制度上どう位置づけられるのかを問うたりすることにより、教育制度への関心を高める。第2に、職務内容や守るべき義務、免許制度、研修制度を取り上げることにより、教職員に関する制度の特徴を捉える。第3に、教育委員会の制度の移り変わり、教員評価の制度、学校支援の制度を取り上げることにより、教員はそうしたことにどう応じればよいのかを考える。	
到達目標	1. 教育に関する制度について、関連法規や答申などを踏まえながら理解したことを、説明する。 2. 受講学生が将来教員として学校や学級を運営する際に、教育に関する制度を踏まえた上での発想や計画・実施・評価ができるようになるための基礎力を形成する。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 教育制度の基本と改革動向1 日本の教育制度を支える基本原理 02. 教育制度の基本と改革動向2 世界主要国における教育制度改革動向 03. 学校の制度1 学校の定義と種類、学校の設置者 04. 学校の制度2 学校の起源と学校系統、学校制度改革の論点 05. 教職員の制度 教職員の職務内容と守るべき義務 06. 教員養成の制度 教員免許制度改革の近年の動向に焦点を当てて 07. 教員研修の制度 「学び続ける教員」を支えるしくみ 08. 教育委員会の制度 その現状と改革の方向性 09. 教員評価の制度 評価システムを通して見えるもの 10. 学校関係者による学校支援の制度 「地域とともにある学校」への協働に向けて	
その他の授業の工夫	ハンドアウトにより最新教育事情に関する話題提供を行う。受講者が話し合う機会を提供する。	
時間外学修	授業計画に基づき事前にテキストを読んでくる。	
評価方法と評価割合	試験結果（学期末試験100%）。授業で扱った内容に基づき、到達目標及びテーマを踏まえながら作成された各問に、正確に答えられるかどうか。語句による記述式や記号選択式の問題により問う。 なお、受講態度についても評価の対象とする。	
テキスト	・新・教育制度論 教育制度を考える15の論点（ミネルヴァ書房） ・講義レジュメ・資料	
参考書	「第3章 現在の学校教育制度」新版 はじめて学ぶ教育の原理（学文社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護実習事前事後指導	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>事前指導：まず、実習校を事前訪問し打ち合わせを行う。次に、学校ホームページに記載された内容や学校要項を参考に、実習校の概要を調べる。その上で、具体的で評価が可能な、実習における行動目標を立案する。</p> <p>事後指導：実習での体験を学生同士で交流し合う活動を通し、実習での学びを深める。自分が立案した実習行動目標に沿って、自らの実習を評価する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を収集し、実習校の概要を明らかにする。 2. 具体的で評価可能な実習行動目標を立案する。 3. 実習中に体験した事象を、実習記録として、具体的に記載する。 4. 実習で体験したことを交流する活動を通して、自分の実習体験の学びを深める。 5. 事前に設定した行動目標に沿って、自分の実習を評価する。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション、事前訪問に関するガイダンス 02. 実習校事前訪問 03. 事前訪問のシェアリング 04. 実習目標の作成（死人テスト、具体性テスト） 05. 養護実習の自己評価とシェアリング 同じ校種の実習生との交流 06. 養護実習の自己評価とシェアリング 異なる校種の実習生との交流 07. 新大分スタンダードに基づく授業展開の理解 08. 生徒指導の3機能を活かした授業展開の理解 09. 協同学習の基本的理念と基礎技法 10. 場面指導の実際 	
その他の授業の工夫	履修者同士がペアを組み、相互に批評し合う時間を設ける。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校のホームページ、事前訪問で収集した要項に基づき、実習校の概要をまとめる。 ・実習における具体的な行動目標を策定する。 ・場面指導案を作成する。 	
評価方法と評価割合	実習日誌の記載内容（50％）、授業中に提示する課題への参加状況（50％）で判断する。	
テキスト		
参考書	改訂 養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件		
その他	みなさんが体験する初めての学校での実習になります。学校という実習の場を体験することは、皆さんがこれまで体験した看護学の実習の学びを、さらに深める良いきっかけにもなるはずです。いろいろなことに、驚き、興味を持ち、疑問を感じてください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：子ども園、小学校、中学校での教育相談 関根剛：臨床心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	秋本：小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	教育現場で課題となる児童虐待、発達障害、保護者への対応などについて、事例を紹介する。	

開講科目名 / Course	養護実習 I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	児童生徒及び教職員との交流を通して、教師に求められる資質、自らの教師としての適性について省察する。養護実習 では、学校への参加を通じて、学校で展開される教育活動、教職員及び児童生徒の学校での生活を、自身の体験を通して理解することを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公教育機関である学校が、どのような理念・体制の下、運営されているのかを説明できる。 2. 学校の教育活動がどのように展開されるのかを、教師としての立場から理解し、説明できる。 3. 担当した学年の児童生徒の学校における心身・生活の状況を説明できる。 4. 実習期間中の体験を、記録として整理する。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習を通して、以下の内容についての学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒、校内環境、教職員の職務についての理解 2. 学校運営計画、教育課程、校務分掌、服務規程など学校を支える制度についての理解 3. 校区を対象とした地域特性の理解 <p>実習校：大分県内の小中学校で実施する。 実習期間：2022年2月中旬～下旬の1週間（実習校と調整して決定する）。</p>	
その他の授業の工夫	実習期間中に、担当教員が実習校を巡回する。	
時間外学修	その日の実習で行われた講話内容、授業参観記録、日誌を記載し、翌日朝、実習校の担当教員の確認を受ける。	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校による態度・意欲面を中心とした評価（50％） ・実習日誌の記載事項に基づく知識、思考、表現面を中心とした評価（50％） 	
テキスト		
参考書	改訂 養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件	3年次までに開講される教職単位が履修済み（見込み）であること。	
その他	はじめての実習です。まずは、子どもたちとの交流をしっかりと楽しんでください。自分自身が子どもの目から見て楽しい大人であること、自分の感情状態を自分で調整することを、今まで以上に真剣に考えてください。学校で体験する様々な出来事を通して、色々なことを考え、感じ、自らの課題を発見し、今後の進路を現実的な課題として、引き受けることを期待しています。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校での教育相談 関根剛：臨床心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	巡回指導時に、機会があれば教室の環境構成について指導する。	

4 年次開講科目

前期開講

開講科目名 / Course	応用生体機能反応論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	市瀬 孝道、吉田 成一、濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	1年次に学んだ生体の構造・機能・代謝の知識を実際の医療看護分野で利用するための応用力、実践力を養う。臨床病理では幾つかの症例を取り上げて臨床データ、病理解剖所見や病理組織所見から疾病の全体像を学ぶ。臨床薬理ではいくつかの症例を取り上げて、臨床で用いる医薬品の特徴や選択法などについて学ぶ。	
到達目標	1. 医療看護分野に必要な病態生理学を説明できる。 2. 疾病の全体像を説明できる。 3. 臨床で用いる医薬品の特徴や選択法について説明できる。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 血液系疾患病態生理 02. 呼吸器系疾患病態生理 03. 循環器系疾患病態生理 04. 神経系疾患病態生理 05. 症例検討（肺小細胞癌、悪性中皮腫、エイズ患者の臨床病理） 06. 症例検討（膵癌、アルコール性肝硬変、急性大動脈解離患者の臨床病理） 07. B型肝炎の歴史と教訓 08. 高血圧治療薬 09. 糖尿病治療薬 10. 抗菌薬	
その他の授業の工夫	対話式質疑応答を行う。	
時間外学修	授業の復習を行う。	
評価方法と評価割合	レポート（60%）と出席（40%）	
テキスト	なし	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義や事例の議論の際に、臨床経験を話すことにより、解剖学の知識が臨床の現場で生かされることを強調して、学生のモチベーションを上げる。	

開講科目名 / Course	総合人間学	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	様々な分野で活躍し、かつ造詣の深い講師の方々から、ものの見方・考え方を学ぶことにより、大学教育の集大成とし、人間として、医療従事者として備えておくべき豊かな知性と感性を養うことを目的とする。	
到達目標	1.各分野の講師の講義を通し、多様な価値観、考え方、方法など看護職としての視野の広がりを認識する。 2.これまでの学習を統合して、見識を深め自らの意見を表現できる。	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	講師、テーマなどの詳細については、別途指示する。 01. 県内外の外部講師による講義 02. 県内外の外部講師による講義 03. 県内外の外部講師による講義 04. 県内外の外部講師による講義 05. 県内外の外部講師による講義 06. 県内外の外部講師による講義 07. 県内外の外部講師による講義 08. 県内外の外部講師による講義 09. 看護国際フォーラムの講演 10. 看護国際フォーラムの講演	
その他の授業の工夫	・看護・医療に限らず、幅広い分野から講師を招く。 ・一般公開している。	
時間外学修	・関心あるテーマについて、さらに情報収集したり、調べたりすることを推奨する。	
評価方法と評価割合	全て出席することが評価の前提である。理由に依らず、授業に参加できなかった場合は、教務学生グループまたは学部長に連絡する。1回～10回までの受講について、全レポートを提出すること。授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠席扱いとする場合がある。 評価の重みづけは、出席及びレポート提出（90%）、レポート内容（10%）。	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	就職試験など公欠となる場合は、所定様式「就職試験受験のための公欠のお願い」（所属研究室教員のサイン、押印等必要）と証拠書類を添付し、単位認定者に提出するとともに、DVDを視聴し、レポートを提出すること。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	講義開始時に講師のプロフィールを紹介する。
実務経験をいかした教育内容	保健・医療・福祉領域に限らず、幅広い分野からテーマ・講師を選び、造詣の深い専門家を招聘する。	

開講科目名 / Course	看護探究セミナー（学部）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	総合看護学実習で展開した事例（事例とは個人、集団、組織、地域を含む）の看護実践を振り返り、看護理論あるいは文献に基づいて考察する。一連の思考をケーススタディとしてまとめることで、看護の対象への深い理解や看護の方法論の探究につなげる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合看護学実習で実践した事例の看護の中に、焦点となるテーマを設定できる。 2. 設定テーマと自己の看護について、看護理論や文献の科学的根拠と比較することができる。 3. 設定テーマと自己の看護について、看護理論や文献の科学的根拠を通して評価できる。 4. 設定テーマへの考察を深めるために必要な議論ができる。 5. テーマに沿ったケーススタディを記述することができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. ケースにおけるテーマの焦点化 03. ケースのテーマに関する文献学習（1）文献の検索 04. ケースのテーマに沿った文献学習（2）文献の講読 05. ケースのテーマに沿った文献学習（3）文献の知見の整理 06. ケースのテーマに沿った文献学習（4）文献の知見と事例実践の比較 07. ケースのテーマに沿った看護実践の考察（1） 08. ケースのテーマに沿った看護実践の考察（2） 09. ケーススタディのレポート作成（1）はじめに 10. ケーススタディのレポート作成（2）事例紹介 11. ケーススタディのレポート作成（3）看護の実践 12. ケーススタディのレポート作成（4）考察 13. ケーススタディのレポート作成（5）考察とテーマとの整合性検討 14. ケーススタディのレポート作成（6）結論・参考文献・図表 15. ケーススタディを深めるための意見交換 	
その他の授業の工夫	テーマの決定からレポート作成までの過程は、総合看護学実習の担当領域の研究室教員が学生の学習活動を支援する。	
時間外学修	テーマ設定とレポート作成は担当教員と相談の上、計画的に遂行する。レポート作成の過程で教員との意見交換や助言が必要な場合、事前アポイントをとり、教員の指導を受けることができる。	
評価方法と評価割合	テーマに対する看護を振り返り・文献等の探索活動を含むレポートを課す（100％）。	
テキスト		
参考書	看護学生のためのケーススタディ（メジカルフレンド社）等	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	基礎、専門、広域看護学講座教員：看護師、保健師、助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	ケーススタディの作成にあたり、文献講読や探求の方向性について、実務経験を活かして助言を行う。	

開講科目名 / Course	地域看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	赤星 琴美	
担当教員名 / Instructor	赤星 琴美、佐藤 愛、小野 治子、木嶋 彩乃	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	第5段階の地域看護学実習は、4年次前期に在宅看護論実習と並行して行われる。この実習では、大分県内の保健所や市町村保健センター等の公的機関において、地域で暮らす人々および地域全体を対象とした看護のあり方を学ぶことをねらいとしている。障がいや疾病をもちながら生活する人々を支援することに加え、疾病予防や健康増進といった看護技術を学ぶ。また、在宅看護論実習との学びを統合し、地域における看護職（保健師・看護師）としての活動の場の広がりや、地域住民の生活の営みと健康との関連等を学び、人間理解の深まりと視野の拡大をめざす。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性や社会資源に関する資料を活用できる。 2. 地域の情報や健康課題を把握する方法について説明できる。 3. 保健医療福祉における保健所および市町村保健部門の機能と看護職の役割について説明できる。 4. 個人と家族のライフステージおよび地域特性に対応した、健康の保持増進と疾病予防のための援助方法について説明できる。 5. 地域で活動する自主グループの育成、地域組織活動への看護職のかかわりについて説明できる。 6. 地域における健康危機管理およびその対策にかかわる看護職の役割について説明できる。 7. 疾病対策や医療対策の動向と社会のニーズが理解できる。 8. 地域において看護職に求められる役割を述べることができる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習期間：2週間（2021年5月10日～6月4日） 実習時間：8:30～17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習場所：大分県内の県保健所、大分市保健所、市町村保健部門 実習方法：実習場所における地域看護の対象となる個人・家族・集団・地域への看護活動を見学、体験する。 カンファレンス：実習期間中、Dailyレポートおよび最終カンファレンスを設定し、実習の学びを整理・確認し、実習指導者から助言を受ける。 指導体制：担当教員は巡回型で指導を行う。</p>	
その他の授業の工夫	実習期間中に多くの見学や体験ができるよう、実習指導者と担当教員が連絡を密にとりあっている。	
時間外学修	自分の日常生活を通して、地域にどんな人々が暮らしているのか、どんな健康課題があるのか、それらの健康課題がどのように解決されているのかなどに関心を持っていただきたい。	
評価方法と評価割合	原則100%出席。実習内容、実習態度、ファイナルレポート、カンファレンス参加度で総合評価を行う。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	赤星琴美：保健所の保健師、小学校・中学校・高等学校の養護教諭 小野治子：看護協会職員、高校の養護教諭 佐藤愛：病院の保健師 木嶋彩乃：市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	実習指導者：保健所および市町村保健部門で働く保健師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた保健師活動を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。担当教員それぞれが、医療機関および行政機関で保健師として保健活動を実践してきた豊富な経験、養護教諭として学校での保健活動を実践してきた経験もとに学生を指導する。	

開講科目名 / Course	予防的家庭訪問実習（4年次生）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、影山 隆之、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉えることができる。 2. 地域に住む高齢者への機能低下予防対策について考察することができる。 3. 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域の取り組み（自治体の取り組み等を含む）を考察することができる。 4. 世代や学年を超えた人とコミュニケーションについて考察することができる。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協力者が健康的な生活を継続するため、必要なサービスの活用を提案できる。 2. 担当の高齢者とのかわりを通して、地域の健康課題を述べるができる。 3. 地域の健康課題を解決するための取り組みについて計画を提案することができる。 4. 高齢者を含む地域の人々と力をあわせて健康づくりの取り組みができる。 5. 高齢者を含む地域の人々が健康的な生活を送れるよう、保健・医療・福祉サービスの活用方法を理解することができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、 2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、 3. 心豊かな人間性と倫理観、 4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力 	
授業計画	実習期間：2021年4月～2021年12月 実習場所：富士見が丘団地、野津原地区の70歳以上の協力者のご家庭等 実習方法：学年の到達目標を考慮し、協力者の家庭を訪問する。実習の頻度・回数はひとりあたり年間4回以上訪問する。	
その他の授業の工夫	他学年のグループメンバーと協力しながら、年4回以上の訪問を行う。 協力者の都合などで訪問計画がうまく進められない場合は、看護研究交流センターや担当教員に相談すること。	
時間外学修	訪問前後にチームでミニカンファレンスをする（参加できない人はメールでも可）。 訪問後、各自の訪問記録を作成提出する。	
評価方法と評価割合	以下の1～4により総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問回数：100%訪問することを原則とする。ただし、訪問後のレポートを訪問毎に作成し、提出したことで訪問したとみなす。また最終レポートの提出をもって所定の回数を訪問したとみなす。 2) 実習内容 3) 実習態度 4) 訪問後のレポート・最終レポート内容 	
テキスト	必要時、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院における看護活動 篠原彩：病院における看護活動 影山隆之：離島における訪問診療
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学生の相談に応じ、健康な在宅生活に必要な条件や健康教育の方法について助言する。	

開講科目名 / Course	看護管理学概論 政策等含む	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	看護管理学概論 では、看護管理学概論 で学んだ知識をふまえ、看護管理のプロセスおよび管理の実際について学習する。医療と看護の質を高めるための評価や倫理について理解し、看護管理に求められる能力を理論と共に学ぶ。また、看護の対象となる人々に良質な看護を提供するための経営や看護政策についても理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理のプロセスについて説明できる。 2. 看護師の仕事と管理や看護提供システムについて説明できる。 3. 医療や看護の質と評価について説明できる。 4. 看護管理に求められる能力や理論を説明できる。 5. 看護を提供するための経営について説明できる。 6. 看護政策について説明できる。 	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 看護管理のプロセス 02. 看護師の仕事と管理（人材、モノ、情報、コスト） 03. 看護提供システム 04. 看護管理と倫理 05. 医療・看護の質と評価 06. 看護管理に求められる能力と理論 07. 看護と経営（医療と経済） 08. 看護と経営（医療・介護制度と経営） 09. 看護政策（看護と専門機関） 10. 看護政策（看護と職能団体） 	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前課題や筆記試験、レポートにより講義に関する予習や復習を行う。	
評価方法と評価割合	出席・態度（10%）、提出物（20%）、筆記試験（70%）	
テキスト	授業ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして看護管理の理論や知識、看護政策について教育する。	

開講科目名 / Course	第3段階看護技術演習（4年次生）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	森 加苗愛	
担当教員名 / Instructor	森 加苗愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	<p>本科目は「看護技術修得プログラム」のサードステップの位置づけである。卒業時には全員が、看護実践の基本的能力として幅広い視野から人間と人間生活を理解し、倫理観をもって行動する態度と姿勢を確実に身につけること、さらに、自己研鑽しながら看護実践能力を高めていく姿勢をもつことを目的とする。</p>	
到達目標	<p>1. 看護技術習得確認シートの卒業時到達目標「AA」（必須項目）の看護援助技術に必要な知識を、E-ラーニングを用いて習得し、「テスト」ですべての課題で100点を取ることができる。</p> <p>2. 卒業時到達目標の看護援助技術の中から課題技術を選択し、多様な事例への応用も含め自己の技術の習得状況や課題について述べるができる。</p>	
DPとの対応	<p>1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観</p>	
授業計画	<p>01. オリエンテーション</p> <p>02-13. 個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術習得確認シート卒業時到達目標AAの看護援助技術46項目のうち、E-ラーニングシステム「Nursing Skills」Web上に提示されている31課題の「テスト」に取り組む。 ・上記課題に対する「テスト」は期限内に全て100点になるように反復学習する。 <p>14-15. 課題レポートの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E-ラーニング「Nursing Skills」31課題の達成状況報告書の作成。 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次の前期にE-ラーニングを通して主体的かつ計画的に再学習することで、第5段階実習、第6段階実習、予防的家庭訪問実習の事前準備として有益である。また、E-ラーニングを通して反復学習することは、看護師国家試験の受験勉強にも有益である。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・E-ラーニングの学習環境として、Nursing Skillsの利用は学内PCも学外（自宅PC、タブレット、スマートフォン）もいずれも可能である。 	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・E-ラーニングによる知識確認（50%）：Nursing Skills31課題のテストが全て100点で終了していること。 ・課題レポート（50%）：E-ラーニングの達成状況、E-ラーニングを通して学んだことをまとめて提出すること。 	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	オリエンテーションで資料を配付して説明するので出席すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	森加苗愛：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	E-ラーニングが基本であるが、必要に応じて指導を行う。教員は指導において根拠に基づいた知識・技術と豊かな臨床経験を学生指導に活かす。	

開講科目名 / Course	在宅看護論実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、姫野 雄太、矢野 亜紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	<p>在宅看護論実習では、訪問看護ステーションおよび在宅看護における多様な場での実習を通して、疾病や障がいをもちながら在宅で療養する人々とその家族に、継続的かつ予防を含めた看護を提供する。また、地域包括ケアシステムについて理解を深めながら、その人らしい社会生活を支える看護を探究することをねらいとする。最終的に、在宅看護論実習と地域看護学実習との学びを統合し、地域における看護の理解を深める。在宅看護論実習の目的は以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の療養生活を支えるために全人的なアセスメントを行い、ケアマネジメントの視点をもとに、療養者・家族の意思を尊重した在宅看護を行う。 2. 他機関や多職種との連携・協働を理解し、地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割・機能を学ぶ。 3. 在宅看護に携わる看護職者としての実践能力と態度を養う。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の療養生活を支えるために全人的なアセスメントを行うことができる。 2. ケアマネジメントの視点をもとに、療養者・家族の意思を尊重した看護を行うことができる。 3. 他機関や多職種との連携・協働について説明できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割・機能を説明できる。 5. 在宅看護に携わる看護職者としての態度を養うことができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<p>実習期間 2021年5月10日（月）～6月4日（金）4週間のうちの2週間 実習施設 大分県内の訪問看護ステーション 実習方法 原則1名の利用者を受け持ち、在宅看護における看護を行う。 様々な在宅看護の場で実践および見学を行う。</p>	
その他の授業の工夫	訪問看護ステーションの利用者を受け持ち、療養者とその家族への看護を通して、在宅看護への理解を深める。また、訪問看護ステーションが連携する多様な施設や職種についても実際の場を経験しながら学ぶ。	
時間外学修	在宅の事例について、実習前後に自己学習を行いながら看護を実践し知識や技術を高める。事前レポートやデイリーレポート、ファイナルレポート等を活用しながら学習を行う。	
評価方法と評価割合	出席日数は100%出席することを原則とし、実習内容や態度、実習記録により総合的に評価を行う。実習期間中に止むを得ず参加できない場合は、至急担当教員に連絡し、指示に従う。無断欠席をした場合は、それ以降の実習に参加できないことがある。	
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院に勤務する看護師 荒木章裕：病院に勤務する看護師 姫野雄太：病院に勤務する看護師 矢野亜紀子：病院に勤務する看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護論の知識や技術について教育する。	

開講科目名 / Course	総合看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	3.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	保健・医療・福祉システムとしてのケア提供体制の現状について理解するとともに、組織やチームの一員として連携・協働する中で、エビデンスに基づいた総合的な実践能力および看護活動を効果的に改善していくために必要なマネジメント能力を強化し、看護専門職となるための自律性を養うことを目的とする。	
到達目標	1) 保健・医療・福祉システムの中での看護職の役割と課題を述べるができる。 2) チームの一員として連携・協働し、対象者に必要な援助を提供できる。 3) マネジメントの実際を知り、必要なマネジメント能力について述べるができる。 4) 自身の活動の優先順位を考えスケジュールを調整することができる。 5) 看護専門職としての自律性を身につけるために、学生が自ら個別の実習課題を設定し、実習計画の立案、実践、実習の振り返りの意見交換などのすべてを主体的に実施することができる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	実習期間：2021年6月14日（月）～7月2日（金） 臨地実習：2021年6月14日（月）～7月1日（木） 記録まとめ：7月2日（金） 実習施設：大分県下の総合病院、地域密着病院、診療所、訪問看護ステーション、小児関連施設、母性関連施設、精神関連施設、学校 海外施設を希望する場合は、事前に担当教員と相談が必要。 実習方法：大分県下の約40ヶ所の実習施設から、自己の学習動機に基づき実習施設を選択する。実習計画は、患者を受け持つ体制に限定するものではなく、自己の実習目標を設定し自由に計画立案できる。マネジメント能力の強化、複数患者の受け持ち、夜間帯実習の導入など、担当教員と相談し計画を立案する。実習中、担当教員は常駐せず、学生の自律性、主体性を高める。	
その他の授業の工夫	実習施設または病棟等に1名の学生が配置することで、現場の実習指導者と報告、連絡、相談しながら実習を主体的に進めることができる。地域密着病院、診療所など、第1～5段階の実習施設以外の施設で実習することもでき、それらを広い視点から学ぶことができる。また、ルーブリック評価で自己評価を行い、目指すべき学習目標に対して、自己を省察し自己の強みや弱み、成長を確認しながら実習に取り組む。自己評価するタイミングは実習計画立案後、臨地実習期間の中間、臨地実習最終日に自己評価し、担当教員と確認する。学部長を除くすべての看護系教員が担当教員として指導に関わり、研究室内で協力体制をつくり指導にあたる。	
時間外学修	実習計画作成など計画的に進めること。	
評価方法と評価割合	原則100%出席。実習目標の到達度、実践内容、実習記録物、及び各学生の作成物により総合的に判断する。実習に参加できない場合は、担当教員に連絡して指示を受けること。無断欠席した場合は、それ以降の実習参加を認めない場合がある。	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	基礎、専門、広域看護学講座教員：病院看護師、助産師、保健師、養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護職（看護師、保健師、助産師）、養護教諭
実務経験をいかした教育内容	約40ヶ所のそれぞれの実習施設の実習指導者が、日常的な業務をしながら現場で実習指導を行う。担当教員は適切な実習目標や実習計画立案、カンファレンスでの指導を通して、看護専門職として資質向上に向けて指導を行う。	

開講科目名 / Course	卒業研究	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	4.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	個々の学生指導教員と相談し、研究テーマを考え、既習の知識・技術、倫理的考え方をもとに研究計画を立て、調査や実験を行い、研究テーマにおける課題解決や仮説を検証し、論文作成、研究発表までの体験を通し、将来的な種々の研究活動の基盤を形成することを目的とする。	
到達目標	配属された研究室で教員の指導のもと、 1. 自分が取り組む研究テーマの関連領域の知識を獲得できる。 2. 研究テーマに必要な先行研究のレビューができる。 3. 自己の研究テーマの学術的意義を説明できる。 4. 研究計画書作成、調査・実験、要旨・論文作成、研究発表の一連のプロセスを実施する。 5. 論理的な論文構成で、正確で根拠に基づく卒業論文を完成できる。 6. わかりやすく研究発表ができる。 7. 興味・関心・探求心をもち主体的に卒業研究に取り組むことができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	配属研究室の教員が適宜指示する。 卒業論文要旨提出 2021年11月25日(木) 発表用パワーポイント提出 2021年11月29日(月) 卒業論文提出 2021年11月30日(火) 卒業研究発表会 2021年12月1日(水)・2日(木)	
その他の授業の工夫	・各々の学生が1つのテーマに取り組み、研究の一連のプロセスを踏むことができる。 ・学生は各研究室に配属され、研究室の教員と豊富に研究指導の機会が得られる。	
時間外学修	卒業論文及び要旨を期限内に提出し、卒業研究発表ができるよう計画的に進める。	
評価方法と評価割合	担当指導教員による卒業研究用ルーブリック評価を行う。ルーブリック評価資料は別途配布する。要旨及び論文の提出、パワーポイントの提出、発表会の参加及びプレゼンテーションが合格の前提となる。	
テキスト	配属研究室の教員が適宜指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	原著講読	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	通年	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	専門領域の原著論文（英語論文が望ましい）を読み、専門領域の知見を深め、卒業研究論文をまとめるにあたりその知見を活かすことができる。	
到達目標	1. 専門領域の原著論文（英語論文が望ましい）を2本以上読み、その知見を述べるができる。 2. 卒業論文をまとめるにあたり、原著講読で学んだ知見を活かすことができる。	
DPとの対応	4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	所属研究室の進め方に従うこと。以下は、一例を示す。 01. オリエンテーション 02. 原著論文検索 03. 原著翻訳・資料作成 04. 原著翻訳・資料作成 05. 原著翻訳・資料作成 06. 原著翻訳・資料作成 07. 抄読会・クリティーク 08. 抄読会・クリティーク 09. 抄読会・クリティーク 10. 抄読会・クリティーク 11. 抄読会・クリティーク 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 発表	
その他の授業の工夫	配属研究室の指示による。	
時間外学修	卒業研究と並行して計画的に進める。	
評価方法と評価割合	・2本以上の原著講読を遂行すること、ゼミに原則100%参加することを前提条件とし60%とする。 ・知識、技能、思考・判断、表現、主体性の観点から担当教員がルーブリック評価により評価し、40%とする。	
テキスト	配属研究室の教員が適宜指示する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	養護実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	3.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	実習	
科目の目的と概要	児童生徒及び養護教諭をはじめとする教職員との交流を通して、養護教諭に求められる資質、自らの養護教諭としての適性について省察を深め、卒業後の自身の進路を選択する。養護実習では、学校保健や学校安全がどのような理念及び体制の下に管理運営されているのか、保健室の活動に参加しながら理解を深めることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における保健管理について説明できる。 2. 学校における安全管理について説明できる。 3. 学校における環境衛生の管理について説明できる。 4. 学校保健、学校安全に関する組織活動について説明できる。 5. 学校における保健教育について説明できる。 6. 養護教諭の指導の下で、保健指導案を作成し、児童生徒を対象に実施する。 	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	<p>実習を通して、以下の内容についての学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健（安全）教育、保健（安全）指導 2. 児童生徒の健康、安全、生活の管理 3. 学校環境の衛生、安全の管理 4. 学校保健組織活動 5. 学校における危機管理 <p>実習先：大分県内の小中学校で実施する。 実習期間：2021年8月下旬～9月下旬の3週間程度（実習校と打ち合わせの上、確定する）</p>	
その他の授業の工夫	実習期間中に担当教員が実習校を巡回する。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の実習で行われた講話内容、授業参観を記録する。日誌とあわせて、担当教員の確認を受ける。 ・保健指導案を作成し、巡回時（またはオンライン）に担当教員から指導を受ける。 ・保健指導（学習）に必要な資料、教材を自作する。 ・掲示物や保健だよりを作成する。 	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・実習校による態度・意欲面を中心とした評価（50％） ・実習日誌の記載事項に基づく知識、思考、表現面を中心とした評価（50％） 	
テキスト		
参考書		
履修する上で必要な要件	3年次までに開講される全ての教職課程の単位を履修済みであること。	
その他	養護実習は、教職課程履修のクライマックスです。職業として養護教諭を選択するのかしないのか、するとして、すぐ教壇に立つのか、しないとして、数年後には教壇に立つのか、人生の大きな選択をすることになります。色々なことを自分で考え、判断して動く、主体的な関わりを求めます。こういうことをしてみたい、してもいいのだろうか？と感じた際は、失敗を恐れずに、実習校の先生、大学の指導教員に尋ねてください。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校での教育相談活動 関根剛：臨床心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	小学校教諭、臨床心理士
実務経験をいかした教育内容	巡回指導の際に、保健学習指導案の指導を行なう。	

4 年次開講科目

後期開講

開講科目名 / Course	医療福祉と人権	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	平野 互	
担当教員名 / Instructor	平野 互	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	<p>基本的な人権に関する知識を習得するとともに、看護専門職として必要な人権感覚を身につけることを目的とする。</p> <p>人権という概念を整理し、憲法をはじめ諸法に規定された事柄だけでなく、その本質的な意義と役割について理解できるよう、医療福祉領域における人権課題とその解決への道筋について講義する。さらに人権感覚の涵養のために、具体的事例をもとに討論を行う。</p>	
到達目標	<p>1. 人権という概念を説明できる。</p> <p>2. 医療福祉における患者・利用者の人権を説明できる。</p> <p>3. 医療福祉の様々な場面における人権問題解決の方策を考察できる。</p>	
DPとの対応	3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	<p>01. 人権 その概念と意義</p> <p>02. 医療・福祉の人権課題</p> <p>03. 人格と「自由権」</p> <p>04. 社会権 「生存権」と社会保障</p> <p>05. 人権各論 子どもの人権</p> <p>06. 人権各論 高齢者の権利</p> <p>07. 人権各論 患者の人権</p> <p>08. 人権各論 障がい児・者の人権</p> <p>09. 人権各論 差別と優生思想</p> <p>10. まとめ</p>	
その他の授業の工夫	履修者が少数であることが予想されるため、講義中に随時討議を取り入れる。最終回には受講生の関心事を中心に討論を行う。	
時間外学修	受講生には社会で起きている人権や倫理に関する問題について、あらかじめ関心を持って調べておくことを求める。	
評価方法と評価割合	出席点20%、最終評価レポート80%	
テキスト	とくに指定しない。講義中にハンドアウトを配布する。	
参考書	Q&A医療福祉と患者の権利 第2版（明石書店）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		

開講科目名 / Course	看護スキルアップ演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	森 加苗愛	
担当教員名 / Instructor	森 加苗愛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	看護基礎教育の総仕上げとして、人間科学講座と看護系講座の専門科目として学んだ知識、技術を有機的に統合し、根拠に基づくアセスメント能力および適切かつ安全・安楽な看護技術を提供できる実践能力を養う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・保健分野において遭遇しやすい事例を通して、多角的な視方や論理的な考え方を深め、必要な看護援助の根拠について述べるができる。 2. 1で述べた根拠に基づきアセスメントすることができる。 3. 検討事例のニーズや状況にあわせて必要な看護援助を判断できる。 4. 3の判断に基づき、適切かつ安全・安楽な看護技術を実施できる。 5. ロールプレイによる事例発表会のディスカッションを通して、他のグループの発表を適切に評価できる。 6. 自己の検討事例について評価し、自らフィードバックすることができる。 	
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな看護の力・技術力、2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5. 国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. グループメンバー、担当教員との打ち合わせ、今後の演習の計画立案 03. グループワーク：役割の検討・事例の理解 04-06. グループワーク：課題事例の理解、看護展開・ロールプレイの検討 07-08. 課題事例・看護展開・ロールプレイに対する担当教員からの指導・評価・修正 09. ロールプレイの発表資料作成、物品・会場準備 10-14. ロールプレイによる発表、相互評価、担当教員からの評価・指導 15. 演習のまとめ 	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・課題事例は、発達段階や健康段階など様々な状況を設定し、統合能力を高める。 ・実習現場で直接関わるのが困難な事例も設定し、イメージ化して学びの機会とする。 ・評価においては、自己評価だけでなく相互評価票を用いて他者からの評価を知ること、自己の看護技術を客観的に評価する力をつける。また、他者を建設的に評価する力を身につけられるよう工夫をしている。 ・演習の取り組みにおいては、学生7～8名のグループを1名の看護講座の教員が担当し、指導を行う。学生のニーズに応じて個別ならびにグループ指導ができる指導体制を確保する。 ・発表日の講評では、看護系教員だけでなく人間科学系の教員、また職員も加わり看護の視点のみではなく、人間への関わりとして多角的な評価が得られるような工夫をしている。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ発表ができるよう、計画的に進める。 	
評価方法と評価割合	<p>以下により総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出席状況 2) 発表資料および発表の内容 3) 看護スキルアップ演習レポート <p>演習に参加できない場合は、単位認定者に指示を受けること。無断欠席した場合は、それ以降の演習の参加を認めない場合がある。</p>	
テキスト	決まったテキストは使用しない。学生各自がグループ学習を進めながら、課題事例に応じてe-ラーニングや参考図書を活用すること。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	就職試験など公欠となる場合は、所定様式「看護スキルアップ演習欠席届」（所属研究室教員のサイン、押印等必要）を単位認定者に提出すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	森加苗愛：病院の看護師 看護系教員10名程度が指導を担当：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

開講科目名 / Course	教職実践演習（養護教諭）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平、小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	<p>教職課程のハイライトである養護実習は、実際の教育現場である学校で行われる。このため、養護実習の実習内容は、学校種、学校の規模、教職員の配置、校区の特性などに大きく影響を及ぼすことになる。教育実践演習では、まず、養護実習を振り返り、履修カルテを作成することで、各自が実習で何を学び、何を学んでいないかを明確にする。その上で、多くの履修者にとって不足しているであろうトピックを取り上げて、演習を展開する。施設見学実習に関しては、日程調整が必要なため、授業計画に示した施設を訪問できるかは未定である。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの履修内容、養護実習を振り返り、自身の養護教諭としての適性について説明する。 2. 養護教諭になるための現時点の自己課題を明確にし、説明する。 3. 自己課題に向き合うために、どのような学習が必要か言う事ができる。 4. 卒業後の進路を決定する。 5. 教職課程を履修することが、看護学の学びにどのように影響したか、説明できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01-03. 養護実習の振り返り 04-06. 養護実習での学び（参加者によるプレゼンテーション） 07-09. 履修カルテを用いた4年間の学習の振り返り 10-12. 施設見学実習（特別支援学校） 13-15. 施設見学実習（厚生施設） 16-18. 投影的な自己理解（フォトコラージュの作成） 19-21. アイスブレイクの理論と実演 22-24. 保健指導演習（1） 25-27. 保健指導演習（2） 28-30. 保健指導演習（3）	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてゲストスピーカーを招聘する。 ・校外への見学実習を企画する。その際の移動に要する費用は、原則参加者の負担となる。 ・学生が、課題に取り組み、作成し、表現する機会を多く設ける。 	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間中に完成できなかった課題を持ち帰り、完成させること。 ・見学実習のレポート作成 ・アイスブレイクのファシリテーションができるよう、web上の動画を見て準備をする。 	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・各種プレゼンテーション（50%） ・履修カルテ、レポート、制作物（50%） 	
テキスト		
参考書	養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件		
その他	卒業研究と並行しての履修です。タイムマネジメントの絶好の学習機会と考えてもらえると嬉しいです。4年間を振り返り、教職課程を履修してよかったと思える点を多く発見しましょう。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根 剛：臨床心理士 吉村匠平：保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校での教育相談活動 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校で頻りに観察される事象を例にとりながら、課題を構成し、例示を行う。	

